Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

メモ： 操作上、知っておくと便利な情報が記載されています。

注意： ハードウェアの破損またはデータの損失の可能性があることを示します。また、その問題を回避するための方法も示されています。

警告： 物的損害、けがまたは死亡の原因となる可能性があることを示します。

このマニュアルの内容は予告なく変更されることがあります。
© 2001 - 2002すべての著作権はDell Computer Corporationにあります。

Dell Computer Corporationからの書面による許可なしには、いかなる方法においてもこのマニュアルの複写、転載を禁じます。

このマニュアルに使用されている商標：**Dell**、**DELL**のロゴ、**Inspiron**、**Dimension**、**OptiPlex**、**Latitude**、および**DellWare**はDell Computer Corporationの商標です。**Intel**および**Pentium**はIntel Corporationの登録商標です。**Microsoft**、**Windows NT**、**MS-DOS**、および**Windows**はMicrosoft Corporationの登録商標です。**3Com**は 3Com Corporationの登録商標です。**IBM**はInternational Business Machines Corporationの登録商標です。**NetWare**および**Novell**はNovell, Incの登録商標です。Dell Computer Corporationは、ENERGY STARと提携しており、本製品はENERGY STARのエネルギー効率に関するガイドラインに適合しています。

このマニュアルでは、上記以外の商標や会社名が使用されている場合があります。これらの商標や会社名は、一切Dell Computer Corporationに所属するものではありません。

DHSおよびDHMモデル
2002年 12月 P/N 7G139 Rev. A06

コンピュータについて

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

目次ページに戻る

追加情報

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

目次ページに戻る

目次ページに戻る

アドバンス

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

目次ページに戻る

[目次ページに戻る]

困ったときは

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

ヘルプの概要

技術的な問題で手助けが必要な場合、いつでもDellにお問い合わせください。

警告：コンピュータカバーを取り外す必要がある場合、初めにすべてのコンセントからコンピュータの電源ケーブルとモデムケーブルを取り外してください。

1. 「問題の特定と解決方法」の手順を完了します。
2. Dell診断プログラムを実行します。
3. 診断チェックリストを印刷し、それに記入します。
4. インストールとトラブルシューティングの手順については、Dell Supportウェブサイト（**support.jp.dell.com**）をご覧ください。
5. これまでの手順で問題が解決されない場合、Dellにお問い合わせください。

メモ：テクニカルサポート担当者が必要な作業をスムーズにお伝えできるよう、テクニカルサポートへはコンピュータの近くから電話してください。

メモ：Dellのエクスプレスサービスコードシステムは、ご利用できない国もあります。

Dellのオートテレフォンシステムの指示に従って、**エクスプレスサービスコード**を入力すると、電話は適切なサポート担当者に転送されます。エクスプレスサービスコード（8桁から11桁までの全桁数字のみの番号）は、コンピュータの前面、背面、または側面に貼られているシールに、サービスタグナンバー（5桁もしくは7桁までの英数字混合の番号）と共に、記載されています。（コンピュータ前面パネル内に貼られている機種もあります。）

テクニカルサポートの詳細については、「テクニカルサポートサービス」を参照してください。

オンラインサービス

Dell Supportへは、**support.jp.dell.com**でアクセスすることができます。**サポートサイトへようこそ**のページから、サポートツール、情報などお選びください。

インターネット上でのDellへのアクセスは、次のアドレスをご利用ください。

- World Wide Web

  www.dell.com/jp/（日本）

  www.dell.com/（北米）

  www.dell.com/ap/（アジア／太平洋諸国のみ）

  www.euro.dell.com（ヨーロッパのみ）

  www.dell.com/la（ラテンアメリカ諸国のみ）

ファックス情報サービス

Dell FaxBoxサービス（ファックス情報サービス）は、フリーダイヤルでファクシミリを使用して技術情報を提供するサービスです。

プッシュホン式の電話から必要なトピックを選択します。テクニカル情報が指定したファックス番号宛に送信されます。ファックス情報サービスの電話番号については、「Dellへのお問い合わせ」を参照してください。

24時間納期案内電話サービス

注文したDell製品の状況をチェックすることができます。電話番号については、「Dellへのお問い合わせ」を参照してください。オンラインでも納期状況をご確認いただけます。

テクニカルサポートサービス

Dell製品に関するお問い合わせは、Dellのテクニカルサポートをご利用ください。

テクニカルサポートに電話をおかけになると、サポートスタッフがお問い合わせ内容の確認のために、お使いのシステムの詳細をお聞きすることがあります。サポートスタッフはその情報を元に、正確な回答を迅速に提供します。

Dellテクニカルサポートサービスにお問い合わせになるには、まず、「お問い合わせになる前に」の項を参照し、本章で後述する「Dellへのお問い合わせ」のリストを参照してください。

ご注文に関する問題

欠品、誤った部品、間違った請求書などの注文に関する問題があれば、Dellカスタマーケアにご連絡ください。お電話の際は、納品書または出荷伝票をご用意ください。電話番号は、「Dellへのお問い合わせ」を参照してください。

製品情報

Dellのその他の製品に関する情報や、ご注文に関しては、Dellのウェブサイトの**www.dell.com/jp/**をご覧ください。弊社セールスの電話番号は、「Dellへのお問い合わせ」を参照してください。

お問い合わせになる前に

必ず、下記の診断チェックリストに記入してください。Dellへお問い合わせになるときは、できればコンピュータの電源を入れて、コン ピュータの近くの電話から電話をかけてください。キーボードからコマンドを入力したり、操作時に詳細情報を説明したり、コンピュータシステム自体でのみ可能な他のトラブルシューティング手順を試してみるようにお願いする場合があります。システムのマニュアルがあることを確認してください。

テクニカルサポートをご利用の際は、製品本体のラベルに記載されているエクスプレスサービスコードまたはサービスタグナンバーが必要になります。お電話をおかけいただくと、エクスプレスサービスコードを自動音声でお伺いします。エクスプレスサービスコードをもとにお客様の情報を確認し、弊社担当者に電話をおつなぎ致します。

エクスプレスサービスコードは、サービスタグナンバーを全桁数字に変換した弊社製品の固有の管理番号です。製品本体のラベルに8桁から11桁までの数字のみの番号で記載されています。エクスプレスサービスコードが本体にない製品をお持ちのお客様のために、弊社Webサポートページで＊変換ツールをご用意しております。
＊変換ツール・・・サービスタグナンバーをエクスプレスサービスコードに変換するツール

サービスタグナンバーは、英数字混合の5桁もしくは7桁の弊社製品の固有の管理番号です。サービスタグナンバーでもテクニカルサポートをご利用いただけますが、弊社Webサポートページで変換したエクスプレスサービスコードをご用意の上、お電話いただくことをお勧めします。

警告：コンピュータ内部のコンポーネントの作業をする前に、「作業にあたっての注意」を参照してください。

診断チェックリスト
名前：
日付：
住所：
電話番号：
サービスタグ（コンピュータ背面のバーコード）：
エクスプレスサービスコード：
返品番号（Dellサポート技術者から提供された場合）：
オペレーティングシステムとバージョン：
周辺機器：
拡張カード：
ネットワークに接続されていますか？ はい いいえ
ネットワーク、バージョン、ネットワークカード：
プログラムとバージョン：
システムのスタートアップファイルの内容を確認するときは、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。可能であれば各ファイルを印刷します。そうでない場合は、各ファイルの内容を記録してからDellにお問い合わせください。
エラーメッセージ、ビープコードまたは診断コード：
問題点の説明と実行したトラブルシューティング手順：

Dellへのお問い合わせ

インターネット上でのDellへのアクセスは、次のアドレスをご利用ください。

- **www.dell.com/jp**
- **support.jp.dell.com**（テクニカルサポート）

Dellへお問い合わせになる場合、次の表の電子アドレス、電話番号、およびコードをご利用ください。

国（都市） **国際電話アクセスコード** **国番号** **市外局番：**	**部署名またはサービス内容** **ウェブサイトおよび電子メールアドレス**	**市外局番、市内番号、またはフリーダイヤル**
日本（川崎）	ウェブサイト：**support.jp.dell.com**	
国際電話アクセスコード：**001**	テクニカルサポート（Dell Precision™、Optiplex™、Latitude™）	フリーコール：0120-198-433
	テクニカルサポート（海外から）（Dell Precision、Optiplex、Latitude）	81-44-556-3894
国番号：**81**	24時間納期案内電話サービス	044 556-3801
	カスタマーケア	044 556-4240
市外局番：**44**	ビジネスセールス本部（従業員数400人未満）	044 556-1465
	法人営業本部（従業員数400人以上）	044 556-3433

	エンタープライズ営業本部（従業員数3500人以上）	044 556-3430
	官公庁／研究・教育機関／医療機関セールス	044 556-1469
	Dellグローバルジャパン	044 556-3469
	個人のお客様	044 556-1760
	Faxboxサービス	044 556-3490
	代表	044 556-4300

目次ページに戻る

目次ページに戻る

用語集

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

A

Ampere（アンペア）。伝導体中の電流の単位。

AC

Alternating current（交流）。毎秒60回の周期で方向を反転する電流（毎秒50回の地域もあります）。DCを参照してください。

ACPI

Advanced Configuration and Power Interface。Intel® 、Microsoft® 、および東芝がコンピュータの電源管理用に開発した業界規格。この規格の主要な要素は、OSが電力管理をおこなうということです。OSからの介入をほとんど受けずにBIOSが電源管理をおこなっていました。ACPIでは、BIOSはコンピュータのハードウェアコンポーネントと通信しますが、OSが電源管理処理をおこないます。

AGP

Accelerated graphics port。グラフィックコントローラとコンピュータの間の高速通信を生成する高速グラフィックポート。ビデオコントローラがPCIバスを使わずに直接コンピュータのメインメモリにアクセスできます。ポートに取り付けられたビデオ拡張カードは、PCIスロットの約2倍の速度で動作できます。PCIバスのトラフィックを軽減する働きもあります。

ANSI

American National Standards Institute（米国規格協会）。データアルファベット、コード、信号の仕組みなどの規格を発行する組織。ISOを参照してください。

API

Application Program Interface（アプリケーションプログラムインタフェース）。アプリケーションプログラムがOSや他のサービスにアクセスするのに経由するインタフェース。

APIC

Advanced programmable interrupt controller。PC上の各種デバイスのIRQに優先度を付けて管理します。APICが搭載されていない場合、マイクロプロセッサがIRQを制御する必要があります。

ASCII

American Standard Code for Information Interchange（情報交換用米国標準コード）。現在の多くのコンピュータで使用されている文字コードの標準。ASCIIは制御コード、スペース、数字、ほとんどの句読点、アクセント記号のない大文字と小文字を表わすのに使用できます。

AT

Advanced Technology。1984年に発表された、Intel 80286マイクロプロセッサ、16ビットバス、および1.2 MBのフロッピードライブを搭載したIBM® PC。

ATA

Advanced Technology Attachment。ドライブインタフェースの規格。IDEを参照してください。

ATAPI

Advanced Technology Attachment Packet Interface。CDドライブ、テープドライブ、その他のドライブをコンピュータに接続するのに使用されるインタフェース。

BIOS

Basic input/output system（基本入出力システム）。ROMチップ上に保存されたソフトウェアとデータで構成されています。BIOSは、マイクロプロセッサとキーボードやビデオアダプタなどのデバイスの間の通信を開始します。BIOSは、エラーメッセージやビープコードなどのシステム機能も制御します。BIOSはアップデート、または「フラッシュ」して、エラー修正や新しいハードウェアのサポートなどができます。セットアップユーティリティを使って、BIOSのオプションを設定することができます。

bps

1秒あたりのビット数。データ転送速度の単位。

Bps

1秒あたりのバイト数。データ転送速度の単位。

BTU

British Thermal Unit（イギリス熱単位）。約1055ジュール（または1055ワット秒）に相当する熱エネルギーの単位。または、1ポンドの蒸留水の温度を密度の一番高い温度（華氏39度）で1度F上げるのに必要な熱エネルギー。

C

摂氏。以下の変換式で求められる温度の単位。(Tf - 32) * (5 / 9)。Tf はFの温度です。

CD

Compact Disc（コンパクトディスク）。光学形式のストレージメディア。音楽やアプリケーションプログラムに通常使用されます。

CD-R

CD Recordable。記録できるCD。データは、CD-Rに1回のみ記録されます。一度記録されたデータは削除したり上書きできません。

CD-RW

CD Rewritable。再度記録できるCD。データをCD-RWに書き込んだり削除したり上書きできます（再書き込み）。

CIM

Common Information Model。CIMを使って、リモート管理アプリケーションプログラムが、WBEMコアコンポーネントを含む、Microsoft® Windows® OSを実行しているクライアントコンピュータ上のシステム管理情報にアクセスできます。

cm

センチメートル。0.39インチに相当する長さの単位。

CMOS

Complementary metal-oxide semiconductor（相補型金属酸化膜半導体）。NVRAMストレージにしばしば使用されるメモリチップ。

COA

Certificate of Authenticity（実物証明書）。Microsoft Windows COAは、25桁の英数文字のコードで、コンピュータのラベルに印刷されています。OS のセットアップや再インストールをおこなうのにCOAが必要です。プロダクトキーまたはプロダクトIDを参照してください。詳細については、http://support.jp.dell.comを参照してください。

COMポート

通信（communications）ポートを短くしたもの。モデムや他のシリアルデバイスへのシリアル接続の通常の指定します。ほとんどのコンピュータにはシリアルコネクタが2つあり、COM1およびCOM2と指定されています。

COO

Cost of ownership（所有コスト）。企業が資産についての情報を収集したり記録できる、事業資産データ。COOデータは、コンピュータ上のファイルに含まれていて、所有権のステータス、保証情報、リースの構成、取得情報などのコンピュータの会計上の状態を定義します。コンピュータはテクノロジに対する投資であり、COO事業資産データは、企業にメンテナンスおよびサポートの費用削減に利用できる情報を提供します。また、システムインテグレータに顧客のためにコンピュータ費用を記録するお手伝いをします。

CPU

Central Processing Unit（中央演算処理装置）。プログラム命令を解析して実行する、コンピュータチップ。マイクロプロセッサを参照してください。

CRIMM

Continuity Rambus in-line memory module（連続式RIMM）。チャネルに空きがある場合に、Rambusチャネルを経由して電気的保護を提供するモジュール。システム内のすべてのRambusスロットには、RIMMまたはCRIMMを装着する必要があります。

D-サブ

サブミニチュア-Dを参照してください。

DAT

Digital audio tape。元々はオーディオ形式用に設計された磁気テープの一種。データのバックアップにコンピュータでも使用されています。DATカセットは、オーディオカセットと同じくらいの大きさで、かなりのGBの量データを保存できます。

dB

デシベル。音の相対的な大きさの単位、または電子的には2つの電源レベルの相対的な差。

DC

Direct current（直流）。一方向のみに流れる電流。ACを参照してください。

DCE

Data communication equipment（データ通信機器）。コンピュータデータ送信で、DCEはモデムや他のシリアルデバイスがコンピュータとデータを交換するのに使用するRS-232インタフェースです。DTEを参照してください。

DIMM

Dual in-line memory module。SIMMと同じようにRAMチップを含む細い回路基板。DIMMは通常168ピンです。RIMMを参照してください。

DIN

Deutsche Industrie Normenausschuss。ドイツの規格団体で、ISOの会員。

DINはまた、コンピュータの丸い5ピンのコネクタの形式で、通常はATキーボードケーブルコネクタに接続するのに使用します。ミニDINを参照してください。

DMA

Direct memory access（ダイレクトメモリアクセス）。デバイスがマイクロプロセッサをバイパスして、RAMに直接データを転送できる電子的経路またはダイレクトチャネルです。DMAチャネルは、拡張カードまたはEIDEドライブを設定する時にしばしば割り当てられるリソースの1つです。DMAはPIOに代わる物として開発されました。

DMI

Desktop Management Interface（デスクトップ管理インタフェース）。標準ソフトウェアインタフェースを使ってコンピュータの各種管理アトリビュートを決定する方法を提供するWfMの規格。

DMTF

Distributed Management Task Force。デスクトップ、企業、およびインターネット環境の管理標準およびイニシアチブの開発、選定、統一をおこなう工業団体。DMTFは主要テクノロジベンダや関連標準グループと協力し、管理により統一された効果的なアプローチを提供します。

DRAM

Dynamic random-access memory（ダイナミックRAM）。「ダイナミック」というのは、電源が供給されている限り、値を保持するSRAMとは異なって、つねにリフレッシュされる必要があるからです。RDRAMおよびSDRAMを参照してください。

DRDRAM

Direct Rambus dynamic random-access memory（RDRAM）。8ビットのDRAMバスではなく、16ビットのバスを提供します。800 MHzの速度で、最大データ転送速度は16億Bpsです。DRDRAMは、パイプラインを使い、同時に8つまでの操作を実行して処理速度を増加します。

DTE

Data terminal equipment（データターミナル機器）。コンピュータデータ送信で、DTEはモデムや他のシリアルデバイスがコンピュータとデータを交換するのに使用するRS-232インタフェースです。DCEを参照してください。

DVD

Digital versatile disc。通常は映画などに使用される、光学形式のストレージメディア。DVDはCDに比べて、より大きな容量とバンド幅を持っています。ほとんどのDVDドライブはCDメディアもサポートします。

ECC

Error checking and correction（エラーチェックおよび訂正）。データが読み込まれたり転送されるときにエラーをチェックし、必要な場合、エラーの訂正をおこなうRAM の一種。EDOを参照してください。

ECP

Extended Capabilities Port。向上した双方向のデータ送信を提供するパラレルポートのデザイン。EPPのように、データ転送にDMAを使用し、性能が向上することがよくあります。コンピュータのパラレルポートに接続するプリンタなどのデバイスがECP標準を利用するよう設計されています。

EDO

Extended-data out。Intel Pentiumなどの高速マイクロプロセッサのメモリから読み出す時間を向上させたRAMの一種。高速コンピュータには、DRAMの別のタイプを考慮します。ECCを参照してください。

EIDE

Enhanced integrated device electronics。ハードドライブとCDドライブ用のIDEインタフェースの向上したバージョン。EIDEは論理ブロックアドレッシングを使用しますので、528 MBより大きい容量のハードドライブが可能です。DMAチャネルを有効に利用し、ドライブを4つまでアドレスできます。高速ATAとも呼ばれています。

EMI

Electromagnetic interference。電磁放射線が原因でおこる電気障害。

Energy Star

全体的な消費電力を節減する一連のEPA要件。

EPA

Environmental Protection Agency（環境保護局）。

EPP

Enhanced Parallel Port。向上した双方向のデータ送信を提供するパラレルポートのデザイン。ECPのように、データ転送にDMAを使用し、性能が向上することがよくあります。コンピュータのパラレルポートに接続する多くのデバイスがEPP標準を利用するよう設計されています。

EPP/ECP

Enhanced Parallel Port (EPP)/Extended Capabilities Port (ECP)。DMAを使用して、向上した双方向のデータ送信を提供するパラレルポートのデザイン。EPPはプリンタ以外のデバイス用です。ECPはプリンタとスキャナ用です。

EPROM

Erasable programmable read-only memory (ROM)。消去して再プログラムできるチップ。

ESD

Electrostatic discharge（静電気放出）。コンピュータチップおよびデバイスを損傷する可能性のある静電気の急速な放電。

Ethernet

ネットワーク通信プロトコル。ネットワークアダプタを参照してください。

F

華氏。以下の変換式で求められる温度の単位。(9 / 5) * Tc + 32。TcはCの温度です。

FCC

Federal Communications Commission（連邦通信委員会）。コンピュータや他の電子装置が放射できる放射線の量などの、通信関係の規制の実施をおこなう米国の機関。

FSB

Front side bus。マイクロプロセッサとRAMの間のデータ経路と物理的なインタフェース。

ft

フィート。12インチ(約30.48 cm)に相当する長さの単位。

FTP

File Transfer Protocol(ファイル転送プロトコル)。インターネット上のコンピュータ間でファイルを交換するための、標準インターネットプロトコル。HTMLページと関連ファイルを転送するhttpのように、FTPはインターネットのTCP/IPプロトコルを使用するプロトコルです。

G

Gravities。重力の測定単位。

g

グラム。質量と重さの測定単位。

GB

ギガバイト。データまたはドライブストレージ容量の測定単位で、1024 MB(1,073,741,824バイト)のこと。

GHz

ギガヘルツ。周波数の測定単位で、10億 Hzまたは1000 MHzのこと。

GUI

Graphical user interface(グラフィックユーザーインタフェース)。メニュー、ウィンドウ、およびアイコンでユーザーと相互にやり取りするソフトウェア。Microsoft Windows OSで動作するほとんどのアプリケーションは、GUIです。

hr

時間。60 min(分)に相当する時刻の単位。

HTML

Hypertext Markup Language。インターネットブラウザ上で表示できるよう、インターネットのウェブページに挿入されるコードセット。コードがブラウザにウェブページのコンテンツの表示方法を知らせます。

http

Hypertext Transfer Protocol。インターネット上のコンピュータ間でファイルを交換するためのプロトコル。すべてのURLは、http://で始まります。

Hz

ヘルツ。1秒1回に相当する周波数の単位。コンピュータと電子デバイスは、通常、キロヘルツ(kHz)、メガヘルツ(MHz)、ギガヘルツ(GHz)、またはテラヘルツ(THz)で測定されます。

I/O

Input/output(入出力)。コンピュータからデータを取り出したり格納する操作、またはデバイス。たとえば、キーボードは入力デバイスで、プリンタは出力デバイスです。

I/Oアドレス

特定のデバイス(シリアルポート、パラレルポート、または拡張スロットなど)に関連するRAMのアドレスで、マイクロプロセッサがデバイスと通信できるようにします。

IC

Industry Canada。米国でのFCCと同様、電子装置からの放射を規制するカナダの規制団体。ICの方針は、カナダ市場がカナダで製造されたか、カナダに輸入された装置が適正な放射限度に適合するよう保証することです。

IC

Integrated Circuit(集積回路)。多くの相互接続されているトランジスタと他のデバイスで構成されている、超小型半導体コンポーネント。チップとも呼ばれています。マイクロプロセッサ、ハードドライブコントローラ、およびRAMチップなどがその例です。

IDE

Integrated Device Electronics。ドライブインタフェースのATA仕様。ハードドライブやCDドライブに主に使用されている一般的なインタフェース。このインタフェースは、通常コンピュータのシステム基板に直接組み込まれていて、最大で4つのドライブがコンピュータと同時に通信できるようにします。EIDEを参照してください。

IP

Internet Protocol(インターネットプロトコル)。インターネット上でコンピュータから他のコンピュータにデータを送信する方法を決定するプロトコル。IPアドレスおよびTCP/IPを参照してください。

IPアドレス

インターネット上のすべてのコンピュータは、インターネット上の他のコンピュータと区別するために少なくとも1つの固有のIPアドレスを持っています。インターネット上でデータを送信したり、受信するとき、データには送り主と受取人のアドレスの両方が含まれています。TCP/IPを参照してください。

IPX

Internetwork packet eXchange。Novell® 社のNetWare® クライアントおよびサーバを使用するネットワークを相互接続する、Novellが開発したネットワークプロトコル。SPXおよびIPX/SPXを参照してください。

IPX/SPX

Internetwork Packet eXchange (IPX)/Sequenced Packet eXchange(SPX)。TCP/IPと同じ様に機能するNovellのネットワーク通信プロトコル。

IRQ

Interrupt Request(割り込み要求)。デバイスがマイクロプロセッサと通信できるように、特定のデバイスに割り当てられた電子的経路。デバイスコネクタには、IRQを割り当てる必要があります。たとえば、コンピュータの1番目のシリアルポートには、通常はIRQ4が割り当てられています。2つのデバイスに同じIRQを割り当てることはできますが、両方のデバイスを同時に動作させることはできません。

ISA

Industry-Standard Architecture。バスアーキテクチャを16ビットに拡張する、IBM-互換PC用の規格。直接アクセスには16 MBのRAMのみが利用可能ですが、バスマスタにも使用できます。ISAは、ATバスアーキテクチャとも呼ばれます。

ISO

International Organization for Standardization。1946年に創立された任意団体で、多くの国の国立標準化団体で構成されています。ISOは、多くの地域でコンピュータと通信を含む、国際標準を指定しています。ANSIは、ISOのアメリカの会員です。

Kb

キロビット。1024ビットに相当するデータの単位。メモリ集積回路の容量の測定単位。KBを参照してください。

KB

キロバイト。1,024バイトに相当するデータの単位。1024 KBは1 MBです。

kg

キログラム。1,000グラムに相当する質量の単位。

kHz

キロヘルツ。1,000 Hzに相当する周波数の単位。

L1キャッシュ

Level 1キャッシュ。小型で高速のプライマリキャッシュ。マイクロプロセッサの中に格納されています。L2キャッシュより高速です。

L2キャッシュ

Level 2キャッシュ。大型で低速のセカンドキャッシュで、L1キャッシュといっしょに使用されます 古いマイクロプロセッサでは、L2キャッシュは通常はプロセッサの外部にあり、チップまたは拡張カードに格納されています。もっと新しいプロセッサでは、L2キャッシュは通常はプロセッサに組み込まれています。

lb

ポンド。16 ozまたは0.453592 kgに相当する重量の単位。

LBA

論理ブロックアドレス。EIDEの定義機能で、コンピュータが528 MB以上で、最大8.4 GBのデータストレージ容量を持つハードドライブをアドレスできるようにします。論理ブロックアドレスは、特定のシリンダヘッドセクタアドレスにマップする28ビット値です。

LED

Light emitting diode(発光ダイオード)。LEDは、電流が通過すると点灯する電子コンポーネントです。

LIF

Low insertion force。コンピュータチップまたはソケットのどちらかに最小限の力を加えて、チップを装着したり取り外したりできる、ソケットやコネクタのタイプ。ZIFを参照してください。

LPTポート

Line print terminal。プリンタや他のパラレルデバイスへのパラレルポート接続の通常の指定。ほとんどのコンピュータには、LPT1およびLPT2と指定されているパラレルポートが1つか2つあります。

LVD

Low voltage differential。SCSI-3規格で正式なものになる、SCSIインタフェースの形式。LVDは、現在の差動ドライブより少ない電力を使用し、低価格で、より高速のUltra-2 SCSIドライブをサポートします。LVDには、以前の標準の5 VDCではなく3.3 VDCが必要です。

m

メートル。39.37インチに相当する長さの単位。

mA

ミリアンペア。1,000分の1 Aに相当する電流の単位

Mb

メガビット。1024 Kbに相当するメモリチップの容量の単位。

Mbps

メガビット／秒。1秒当たり100万ビットに相当するネットワークやモデムの送信速度の単位。

MB

メガバイト。1,048,576 バイトに相当するデータストレージの単位。1 MBは1024 KBです。ハードドライブストレージを指す場合、通常100万バイトともいわれます。

MBA

Managed boot agent。複数のPXEを提供し、コンピュータがネットワークサーバから起動できるようにします。

MBps

MB／秒。データ転送速度の単位。

MHz

メガヘルツ。100万 Hzに相当する周波数の単位。

MIF

Management Information Format。コンピュータにインストールできる、管理可能なハードウェアとソフトウェアコンポーネントの情報を記述するシンタックス。COO、WBEM、およびWfMを参照してください。

min

分。60 sec（秒）に相当する時刻の単位。

mm

ミリメートル。1メートルの1000分の1、または25分の1インチに相当する長さの単位。

ms

ミリ秒。1秒の1000分の1に相当する、ストレージデバイスへのアクセス時間の単位。

MTBF

Mean Time Between Failures（平均システム故障間隔）。予想される装置の信頼性の単位。MTBFが高いほど、装置は長く持ちます。たとえば、MTBFが10,000時間だとすると、装置は平均で10,000時間以上故障せずに動作するはずです。

NIC

ネットワークインタフェースコントローラ。ネットワークアダプタとも呼ばれます。

NiCad

ニッケルカドミウム。特定の充電可能電池で使用される化学成分。

NiMH

ニッケルメタル水素。特定の充電可能電池で使用される化学成分。

NVRAM

Non-volatile random-access memory (非揮発性RAM)。コンピュータの電源を切っても、内容が失われないメモリ。NVRAMは、日付、時刻、および他のユーザーが設定できるセットアップユーティリティオプションなどのシステム設定情報を維持するのに使用されます。

OS

オペレーティングシステム。スタートアップ時にコンピュータに最初にロードされた後、コンピュータ上のすべての他のアプリケーションプログラムを制御するプログラム。アプリケーションプログラムは、APIを経由してサービスを要求してOSを使用します。OSは、ユーザーによる直接の相互やり取りができます。

oz

オンス。16分の1 lbに相当する重量の単位。

PBX

Private branch exchange。電話会社でなく、私的団体が所有し運営している電話システム。この電話システムは、団体内のユーザー間で電話を内線で切り替え、ユーザーは外線を共有できます。PBXの主な目的は、すべてのユーザーが自分の電話回線を持たなくてすみ、費用の節減ができることです。

PC

パーソナルコンピュータ。通常は、Apple Macintoshコンピュータに対しての、IBM互換コンピュータのこと。

PCI

Peripheral Component Interconnect。Intel Corporationが開発した拡張カードの規格。PCIは、32ビットおよび64ビットのデータ経路をサポートするローカルバスで、マイクロプロセッサとビデオ、各種ドライブ、ネットワークなどのデバイス間に高速データ経路を提供します。PCIデバイスはPnP対応です。

PET

Platform event trap。プラットフォームイベントとは、コンピュータのBIOSまたはマイクロプロセッサやチップなどのハードウェアコンポーネントから直接発生する警告や特定の状態です。イベントは、OSまたはシステム管理ソフトウェアおよびハードウェアとは独立して発生します。プラットフォームイベントトラップは、SNMP環境のプラットフォームイベントと通信するのに使用されるフォーマットです。

PGA

Pin grid array。コンピュータチップのソケットの一種。GAソケットでは、列が交互になっているSPGAソケットと異なって、すべてのピンが規則正しい列で並んでいます。

PIO

Programmed input/output。コンピュータ内のデバイス間でデータを移動する方法。すべてのデータがマイクロプロセッサを通ります。最新のATA/IDE規格では、モード3で11.1 MBps、モード4で16.6 MBpsの高速データ転送を実現しています。PIOに最近代わるものとしてはDMAがあります。

PME

Power management event(電源管理イベント)。リモートウェイクアップ(WOL)やWORなどのように、コンピュータをリモートで起動させるイベント。

PnP

プラグ＆プレイ機能を参照してください。

POST

Power-on self-test(電源投入時の自己診断)。スタートアップ時にBIOSが自動的にロードする診断用プログラム。RAM、ハードドライブ、キーボード、ビデオなどの主要コンピュータコンポーネントの基本テストを実行します。POSTで問題がない場合、コンピュータは起動を続けOSをロードします。

PS/2

Personal System/2。コンピュータのミニDINコネクタで、通常はキーボードやマウスケーブルコネクタを接続するのに使用されます。

PXE

Pre-boot eXecution Environment。WfMの規格で、OSを持たないネットワークコンピュータを設定しリモートで起動できます。PXEの特徴には以下のものがあります。

- クライアントコンピュータにOSが必要ありません。ハードドライブも必要ありません。
- クライアントコンピュータをリモートでシャットダウンおよび再起動できます。
- PXEは業界標準なので、新しいコンピュータを簡単にネットワークに増設できます。

RAID

Redundant Array of Independent Disks。2つあるいはそれ以上のドライブがいっしょに動作して、性能を向上したり耐故障性を提供します。RAIDドライブは通常はサーバや高性能PCで使用されます。

RAIDにはたくさんのレベルがあります。もっともよく使用されるのが、0、3、および5です。

- レベル0:データストライピングを提供しますが、冗長性はありません。性能は向上しますが、耐故障性は提供されません。
- レベル3:レベル0と同じですが、エラー修正データ用に専用ドライブを予約して、高性能とある程度の耐故障性を提供します。
- レベル5:バイトレベルでのデータストライピングとストライプエラー修正情報を提供します。そのため、高性能と良好な耐故障性を提供できます。

RAM

Random-access memory。プログラムの命令やデータを保存する主要な一次記憶領域。RAMは、SIMM、DIMM、またはRIMMと呼ばれる小型の回路基板上のチップに格納され、チップをシステム基板に装着します。ROMと違ってRAMは、揮発性です。これは、コンピュータの電源を切ると、RAM内の情報がなくなるということです。

Rambus

Rambusは、DRAMに代わるものとして、既存のシステム基板の規格に合うよう設計されたメモリテクノロジです。RIMM、RDRAM、およびDRDRAMを参照してください。

RDRAM

Rambus dynamic random-access memory (DRAM)。最大で毎秒16億バイトのデータを最適に転送できるメモリサブシステム。このサブシステムは、RAM、RAMコントローラ、およびRAMをコンピュータのマイクロプロセッサや他のデバイスに接続しているバスで構成されています。DRDRAMを参照してください。

RIMM

Rambus in-line memory module。RDRAM チップを搭載した細い回路基板。RIMMは、コンピュータのシステム基板上のソケットに装着し、コンピュータのメモリを増やします。通常は2枚一組で装着する必要があります。つまり、ソケット2つがペアになり、全く同一の容量、RDRAMチップの数、および速度のRIMMが装着される必要があります。SIMMおよびDIMMを参照してください。

RJ45

標準の電話回線ジャックに似たコネクタ形状で、通常はEthernetおよびToken Ring ネットワークアダプタとケーブルを接続するのに使用されます。電話回線ジャックと異なり、RJ45コネクタには8本の線が来ています。2本、4本、および6本ではありません。

ROM

Read-only memory(読み取り専用メモリ)。コンピュータが削除したり書き込めないデータやプログラムを保存するメモリ。RAMと異なり、ROMチップはコンピュータの電源が切れた後もその内容を保持します。コンピュータの動作に欠くことのできないプログラムの中には、ROMに常駐しているものもあります。

RS-232

コンピュータと関連デバイス間のシリアルデータ通信用インタフェースの長期間使用されている規格。DCEおよびDTEを参照してください。

RTC

Real-time clock(リアルタイムクロック)。システム基板上にあるバッテリで動くクロック回路で、コンピュータの電源を切った後も、日付と時刻を保持します。

RTCRST

Real-time clock reset(リアルタイムクロックリセット)。システム基板上のジャンパで、問題の解決に使用することができます。

SCSI

Small computer system interface。ハードドライブ、CDドライブ、プリンタ、およびスキャナなどのデバイスをコンピュータに接続するのに使用する高速インタフェース。SCSIは、1つのコントローラで最大7つまでのデバイスを接続できます。各デバイスは、SCSIコントローラのバス上の個々のID番号でアクセスされます。LVDを参照してください。

SDRAM

Synchronous dynamic random-access memory (DRAM)。DIMM上で使用するDRAMの一種。SDRAMは、システムのクロック速度と同期がとられ、システムバスと同じ速度で動作します。

sec

秒。時間の単位。

SIMM

Single in-line memory module。RAMチップを搭載した細い回路基板。SIMMをコンピュータのシステム基板上のソケットに装着すると、コンピュータのメモリを増やすことができます。コンピュータによって、SIMMは2または4の倍数で取り付ける必要がある場合があります。DIMMおよびRIMMを参照してください。

SMART

Self-Monitoring And Reporting Tool。ハードドライブおよびソフトウェアシステムの開発用規格。ハードドライブの状態を自動的に監視し、予測される問題を報告します。ハードドライブの不具合が発生する前に、適切な対策をとることができます。

SMBIOS

システム管理BIOS。WfM対応コンピュータのBIOSデータをリモートで処理できる標準方式。

SNMP

Simple Network Management Protocol。ネットワーク管理とネットワーク機器の監視をおこなうプロトコル。

SPGA

Staggered pin grid array。コンピュータチップのソケットの一種。SPGAソケットでは、すべてのピンが規則正しい列で並んでいるPGAソケットと異なって、列が交互になっています。

SPX

Sequenced packet exchange。IPXで動作し、データ転送の信頼性を保証するトランスポート層プロトコル。IPX/SPXを参照してください。

SRAM

Static random-access memory (RAM)。「static（静的）」というのは、常にリフレッシュされる必要があるDRAMとは異なって、電源が供給されている限り値を保持するからです。

STP

Shielded twisted pair。Ethernetネットワークで使用される銅線ケーブルの一般的なタイプ。STPケーブルは、UTPと同様に、絶縁された2本の銅線が互いに撚り合わされた「ツイストペア」で構成されています。ただし、企業ではツイストペアを絶縁として機能するシールドに入れているところもあります。

TAPI

Telephony Applications Programming Interface (API)。Microsoft Windowsのアプリケーションで音声、データ、ファックス、ビデオなどの各種テレフォニーデバイスが使用できます。

TCP/IP

Transmission Control Protocol (TCP)/Internet Protocol (IP)。インターネットの基本通信プロトコル。プライベートネットワークでも使用できます。TCP/IPは2層のシステムです。高い方の層のTCPは、インターネットを介して1台のコンピュータから送られ、別のコンピュータのTCP層で受信される小さなパケットに、ファイルを変換します。受信コンピュータのTCP層は、パケットを元のメッセージに戻します。下の方の層のIPは、各パケットにアドレスを付け、正しい宛て先に届くようにします。IPおよびIPアドレスを参照してください。

Token Ring

ネットワーク通信プロトコル。ネットワークアダプタを参照してください。

TSR

Terminate-and-stay-resident。ロードされ、終了後もRAMに常駐するプログラムアプリケーションで、指定された「ホットキー」またはキーの組み合わせを押すと再開できます。TSRの例には、電卓やカレンダーがあります。WindowsのようなOSは、アプリケーションの間を常に切り替えることができますので、TSRは必要ありません。

UDMA

Ultra DMA。コンピュータが、高速Ultra ATAドライブの性能を十分に引き出すことのできるハードドライブプロトコル。

UL

Underwriters Laboratories, Inc。US連邦法で、企業で使用されているすべての装置は全国的に公認されている試験場で安全性を確認されるよう義務付けられています。また、多くの地方電気基準法や建築基準法および条例は製品は国で公認されている試験場での認定を義務付けています。ULは、米国でもっとも広く認められているテストラボの1つですので、大企業の多くがULの承認を必要条件にしています。

UPS

無停電電源供給装置。主電源が失われた後でも、コンピュータを一定時間動作し続けることができるデバイス。通常、UPSは電源サージに対する保護も提供できます。

URL

Uniform Resource Locator。インターネット上で、HTML文書などのオブジェクトの場所を指定する標準の方法。URLの例を以下に示します。

- http://www.dell.com
- http://support.dell.com
- ftp.dell.com
- mailto:info@dell.com

最初のコロン（:）の前の部分は、アクセス方法またはプロトコルを指定します。よく使われる方法には、FTPまたはhttpがあります。コロンの後の部分は、アクセス体系に基づいて解釈され、IPアドレスが求められ、サーバ上のパスまたはファイルを示したり、指定された文書内の特定の部分の場所を検出します。

USB

Universal Serial Bus。キーボード、ジョイスティック、スキャナ、スピーカー、またはプリンタなどのデバイス用のインタフェースで、12 Mb/秒の最大転送速度を提供します。デバイスをコンピュータ上の4ピンコネクタに直接差し込むか、コンピュータに接続されているマルチポートハブに差し込みます。USBはホット交換対応で、デイジーチェーン方式で最大127までのデバイスを接続することができます。

UTP

Unshielded twisted pair。電話システムとEthernetネットワークで使用される銅線ケーブルの一般的なタイプ。「クロストーク」とも呼ばれる、2本の線の間で電磁誘導を低減するため、絶縁された2本の銅線が互いに撚り合わされた「ツイストペア」になっています。STPを参照してください。

V

ボルト。電位および起電力の単位。1Ωの抵抗に1ボルトを印加すると、1アンペアの電流が抵抗に流れます。

VAC

ボルト交流 (AC)。

VDC

ボルト直流 (DC)。

VRM

Voltage regulator module（電圧レギュレータモジュール）。システム基板に搭載されたコンポーネントで、マイクロプロセッサに必要な電圧を感知して正しい電圧が維持されるようにします。

W

ワット。1アンペアの電流が1ボルトで流れる電力に相当する単位。

WBEM

Web-Based Enterprise Management。コンピュータ環境の管理を統一するために開発された、システム管理およびインターネットの標準テクノロジのセット。WBEM規格の主要なセットは、DMTFが開発し、データモデル、CIM規格、コーディング規格、およびhttp転送機構を含んでいます。

WfM

Wired for management。デスクトップ、モバイル、およびサーバコンピュータの管理性を向上するために、Intelが開発した規格。WfMは、コンピュータネットワーク操作を強化するソフトウェア、ハードウェア、および他の機能を定義します。また、リモート管理アプリケーションプログラムを使い、ネットワークを介してクライアントコンピュータにアクセスできるので費用の削減もできます。WfMテクノロジは、クライアントコンピュータ、回路、電源装置、ネットワークアダプタなどのコンポーネントなどで使用されます。リモート管理アプリケーションプログラムは、WfMテクノロジを使用してクライアントコンピュータへのアクセス、情報の収集、ステータスの監視、動作状態の変更がおこなえます。WfM規格には、DMI、PXEおよびリモートウェイクアップが含まれます。WfMは、ACPI、CIM、SMBIOS、SNMPおよびWBEMなどの現在の最新業界規格にも対応しています。

WOL

Wake-on LAN。リモートでネットワーク上のコンピュータの電源を入れたり、スリープモードから復帰できるテクノロジ。WOLはWfMテクノロジの一部です。WOR、PME、およびリモートウェイクアップを参照してください。

WOR

Wake-on Ring。モデムを使って、リモートでコンピュータの電源を入れたり、スリープモードから復帰できるテクノロジ。WOLおよびPMEを参照してください。

ZIF

Zero insertion force。コンピュータチップまたはソケットのどちらにもまったく力を加えないで、チップを装着したり取り外したりできる、ソケットやコネクタのタイプ。LIFを参照してください。

アクセラレータ

特定のデバイスの処理速度を向上するコンピュータのコンポーネント。通常は、そのデバイスに元々割り当てられている作業の一部を処理することによって高速化がおこなわれます。たとえば、ビデオのアクセラレータカードはマイクロプロセッサに割り当てられているグラフィック機能の一部を処理します。

エクスプレスサービスコード

Dell™ コンピュータのラベルに付いている数字のコード。このコードは、コンピュータのサービスタグナンバーを完全に数字の形式にしてありますので、Dellの自動電話応答システムへの入力が簡単です。Dellにお問い合わせの際はプッシュ式電話機を使って、エクスプレスサービスコードを入力してください。詳細については、http://support.jp.dell.comを参照してください。

オンボード

通常は、回路基板上に物理的にあるコンポーネントを指します。たとえば、最近のコンピュータの多くのシステム基板には組み込みのビデオ、サウンド、およびネットワークコントローラがあります。

拡張カード

コンピュータのシステム基板上の拡張スロットに装着する電子回路基板で、コンピュータの性能を拡張します。拡張カードの例には、ビデオ、モデム、およびサウンドカードなどがあります。

拡張スロット

拡張カードを装着できる、コンピュータのシステム基板のコネクタあるいは「スロット」で、コンピュータのバスに接続します。

キャッシュ

しばしばアクセスされるデータを保存しておく、高速RAMで別に取ってある領域。データがアクセスされると、コピーがキャッシュメモリ内に保存されます。次回にマイクロプロセッサが情報を検索する際、まずキャッシュを確認します。データがキャッシュ内にあれば、マイクロプロセッサは高速のキャッシュメモリからそのデータを取り出します。ドライブキャッシュおよびRAMキャッシュで、コンピュータの全体的な速度が著しく向上します。L1キャッシュおよびL2キャッシュを参照してください。

起動順序

システムが起動を試みるデバイスの順番を指定することができます。

クロック速度

システムバスに接続しているコンピュータコンポーネントがどのくらいの速さで動作しているかを示す速度で、MHzで表わされます。速度は、メトロノームのような動きをする、システム基板の水晶振動子によって生成されます。クロック速度と同期が取られているコンポーネントはより速く動作したり、遅く動作できますが、コンポーネントの速度は、クロック速度を因数に掛けたりクロック速度で因数を割ったりして決定されます。

コントローラ

コンピュータの部品。通常は独立した回路基板やチップで、コンピュータが特定の種類のデバイスを使用できるようにします。コントローラの種類には、ハードドライブ、ネットワーク、キーボード、割り込み、およびグラフィックコントローラがあります。

サービスタグナンバー

Dellコンピュータのラベルに付いている5桁から7桁の英数字のコード。このコードは、Dellでの製造中にコンピュータのセットアップユーティリティにプログラムされています。Dellのカスタマサポートアプリケーションは、サービスタグを使って、お客様のコンピュータのすべての設定とサポートの履歴情報を表示します。エクスプレスサービスコードを参照してください。詳細については、http://support.jp.dell.comを参照してください。

サブミニチュア-D

Dの形をしたコンピュータのコネクタで、通常は、9、15、または25ピンがあり、オスあるいはメスのものがあります。D-サブとも呼ばれます。

シリアルポート

一度に1ビットのデータを順次転送するコンピュータのI/Oポート。9ピンまたは25ピンのオスのサブミニチュア-Dコネクタを使用し、通常はモデムやマウスなどのデバイスに接続します。COMポートとも呼ばれます。DCEおよびDTEを参照してください。

ステッピング

Intelマイクロプロセッサの製造「バージョン番号」または「リビジョンレベル」を示す用語。新しいプロセッサの初期バージョンはA0 stepです。機能のフィックスや製造改良のためにリビジョンがおこなわれると、ステッピングは増えていきます。Intelは、デュアルプロセッサシステムでは同じバージョン番号またはリビジョンレベルのプロセッサを使用するよう推奨しています。

制御コード

データの一部として表示されるのではなく、何らかの動作をおこなうI/Oキャラクタ。ほとんどの制御コードは<Ctrl>キーとキーボード上のキーを同時に押して入力できます。制御コードによっては、<Escape>、<Tab>、<Delete>、<Backspace>、および<Enter>など、独自のキーが割り当てられているものもあります。OSやプログラムによっては、現在の処理への介入や出力の一時停止など、制御コードの動作が独自のものもあります。制御コードは、プリンタがテキストの新しい行を開始するなど、出力デバイスに影響を与えるものもあります。

セットアップユーティリティ

BIOSで日付と時刻などのユーザーが選択できるオプションの設定ができるユーティリティ。搭載されているメモリ容量、またはハードドライブのタイプなどの現在の設定情報の設定もできます。

チップ

ICを参照してください。

データストライピング

1つのファイルなどの論理的に連続しているデータのセグメンテーション。セグメントが複数のデバイス、通常はハードドライブにラウンドロビン方式で書き込みができます。この方法は、マイクロプロセッサのデータ転送速度が単一のドライブが送信あるいは受信するより速い場合に有益です。データが最初のドライブから転送されている間に、2つ目のドライブが次のセグメントを検出できます。

デバイス

コンピュータの主要な部分(マイクロプロセッサ、RAM、やデータバスなど)ではないが、コンピュータに接続されているか内蔵されている装置。デバイスには、ハードドライブ、CDドライブ、およびネットワークアダプタのように、コンピュータの主要な部分に内蔵されているものもあります。また、プリンタなどのようにケーブルやワイヤレス接続でコンピュータに接続されているが、コンピュータの外にあるデバイスもあります。

ネットワークアダプタ

ネットワーク上のコンピュータを他のコンピュータに接続する拡張カード。ネットワークアダプタは、ネットワーク上で情報を転送するためにネットワークOSで動作します。NICを参照してください。

ノード

ネットワーキングと通信で、ノードはコンピュータに接続しているコンピュータまたはデバイスです。

ハードドライブコントローラ

個々のハードドライブとのインタフェースを提供するコンピュータコンポーネント。IDEの導入で、ハードドライブケースへの組み込みチップとして製造されたコントローラ。以前は専用拡張カードでした。コントローラを参照してください。

バイト

8つの連続するビットの情報に相当するデータストレージの単位。

バイナリ

2進法。0および1で表わされる、2を基準にした数体系。バイナリコードは、デジタル電子光学およびデジタル論理で都合よく機能するので、コンピュータに使用されています。

パイプライン処理

タスクが段階を追って実行される処理方法。1つの段階の出力が、次の段階の入力になります。この方法では、複数のタスクのいくつかの部分を同時に実行できますので、処理が高速化されます。

バス

マイクロプロセッサ、RAM、拡張カードなどのコンピュータコンポーネントをつなぐ電子的な経路。バスの「幅」は、バスを移動できるデータの量を示し、バスのパラレルの導線の数によって決まります。たとえば、32ビットのバスには32本の導線があり、32ビットのデータを一度に移動できます。

バス速度

バスがどのくらいの速さで情報を転送できるかを示す、MHzで示される速度。たとえば、PCIバス速度は33 MHzまたは66 MHz、AGPバス速度は66 MHzです。Intel Pentium®マイクロプロセッサは、バス速度が66 MHzまたは100 MHzです。マイクロプロセッサの処理速度は、バス速度と乗数で決定されます。たとえば、100 MHzのバス速度 ×4.5の乗数＝450 MHzのマイクロプロセッサ速度になります 。

パラレルポート

一度に8ビットのデータを転送するコンピュータのI/Oポート。25ピン、メスのサブミニチュア-Dを使用し、通常はプリンタを接続します。LPTポートとも呼ばれます。

ヒートシンク

マイクロプロセッサなどのチップの上部に取り付ける、熱伝導金属片。熱を取り除いて、チップがより低い温度で動作するようにします。

ビット

binary digit（バイナリデジット）を短くしたもの。ビットはストレージの最小単位で、真や偽、0や1などの2つの可能性のある値のうちの1つです。

プラグアンドプレイ機能

Plug-n-PlayまたはPnPとも呼ばれます。スタートアップ時に、特定のIRQを使用したり共有するようデバイスを自動的に設定できるテクノロジ。コンピュータのBIOSとOSの両方がPnPをサポートしている必要があり、設定されているすべてのデバイスもPnP対応である必要があります。PCIデバイスはPnP対応です。

プロダクトID

プロダクトキーとも呼ばれます。COAを参照してください。

プロダクトキー

プロダクトIDとも呼ばれます。COAを参照してください。

ポート

コンピュータにあるソケットまたはプラグ。ケーブルを使って外付けデバイスを接続できます。パラレルポートおよびシリアルポートを参照してください。

ホット交換対応

コンピュータが動作中にデバイスをコンピュータに接続したり、コンピュータから外すことができること。ホット交換対応デバイスをコンピュータに接続したら、OSはただちにデバイスを認識して使用できます。

マイクロプロセッサ

プログラム命令を解析して実行する、コンピュータチップ。CPUとも呼ばれます。バス速度を参照してください。

ミニDIN

丸型で6ピンのDINコネクタの形式で、通常はPS/2キーボードまたはマウスケーブルコネクタを接続するのに使用します。

メモリアドレス

スタートアップ時にコンピュータが物理的なメモリの場所に割り当てるアドレス。このアドレスで、デバイスとソフトウェアアプリケーションが、マイクロプロセッサがアクセスできる情報を識別できるようになります。この処理は、メモリマッピングとも呼ばれます。

メモリマッピング

コンピュータがスタートアップ時に物理メモリの場所にメモリアドレスを割り当てる処理。デバイスとソフトウェアアプリケーションが、マイクロプロセッサがアクセスできる情報を識別できるようになります。

モデム

modulator/demodulatorを短くしたもの。モデムはアナログデータをデジタルデータに、またはその反対に変換し、コンピュータが電話回線を使って通信できるようにします。

モニタ

高解像度のテレビのようなデバイスで、コンピュータの出力を表示します。

リモートウェイクアップ（Remote Wake Up）

WfMの標準で、リモートで省電力スリープ状態からコンピュータを元の状態に復帰したり、電源は切れているが電源装置に接続されているコンピュータをリモートで起動できます。リモートウェイクアップは、通常は大規模なネットワークが構築されている団体で電源を節約したり、リモートでメンテナンスや設定操作をおこなうのに使用され、ACPI対応のコンピュータでサポートされている必要があります。また、ネットワーク接続をスタンバイ状態にするには、ネットワークアダプタがWOLをサポートしている必要があります。電話回線を使っての接続をスタンバイ状態にするには、モデムがWORをサポートしている必要があります。

ローカルバス

コンピュータのチップや他のコンポーネントがマイクロプロセッサのバス速度と同じ速度でマイクロプロセッサにアクセスできるようにするバス。

目次ページに戻る

目次ページに戻る

部品の取り外しと取り付け

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

目次ページに戻る

問題の解決

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

目次ページに戻る

安全に関する情報

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

目次ページに戻る

目次ページに戻る

仕様

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

マイクロプロセッサ	
マイクロプロセッサのタイプ	Intel® Pentium® 4；将来のDellサポートアップグレードに対応した設計。セットアップユーティリティを使って、より低速な互換速度に設定可能。
L1キャッシュ	8 KB
L2キャッシュ	256 KBまたは512 KB（コンピュータ構成に応じて）パイプラインバースト、8ウェイセットアソシエイティブ、ライトバックSRAM
数値演算コプロセッサ	マイクロプロセッサに内蔵
メモリ	
アーキテクチャ	RDRAM
RIMMソケット	4
RIMM容量	64、128、256、512 MB
最小RAM	128 MB （最小）
最大RAM	2 GB
メモリのタイプ	PC800（非ECCまたはECC）
メモリ速度	45 nsより高速なメモリを必要とする400 FSBを搭載した1.5 GHz～2.2 GHzのプロセッサ 40 nsより高速なメモリを必要とする533 FSBを搭載した2.26 GH以上ののプロセッサ
BIOSアドレス	F8000h
コンピュータ情報	
チップセット	Intel 850E PCI/AGP
データバスの幅	64ビット
アドレスバスの幅	32ビット
DMAチャネル	8
IRQ	15
SCSI コントローラ	アドインU320/M SCSI
ネットワークコントローラ	リモートウェイクアップ機能（3C905C-TX互換）装備の内蔵3C920ベースの10/100 3Com® Ethernetコントローラ
BIOSチップ	4 Mb
システムクロック	400/533 MHzデータ率
ビデオ	
ビデオのタイプ	AGP 4倍速（1.5 Vのみ）、またはPCIグラフィックカード（製造元の仕様を参照）
オーディオ	
オーディオのタイプ	AC97、SoundBlasterエミュレーション
オーディオコントローラ	アナログデバイスAD1885 AC97 Codec
ステレオ変換	16 ビット（AD変換、DA変換）
インタフェース：	
内蔵	PCIバス／AC97
外付け	ライン入力ジャック × 1；スピーカー／ヘッドフォンジャック × 2（正面パネルに1つ、背面パネルに1つ）；マイクジャック × 1
拡張バス	
バスのタイプ	PCIおよびAGP
バス速度	PCI ： 33 MHz AGP ： 66 MHz

スモールデスクトップコンピューター—PCI拡張カードコネクタ	PCI拡張スロット × 2（カードサイズ—高さ10.67 cm、長さ17.65 cm ）
ミニタワーコンピューター—PCI拡張カードコネクタ	PCI拡張スロット × 4（カードサイズ—3つのスロットは高さ27.9 cmまでのカードをサポート、1つのスロットは高さ22.9 cmまでのカードをサポート）
PCI拡張カードコネクタのデータの幅（最大）	32ビット
PCI拡張カードコネクタのサイズ	120ピン
AGP拡張カードコネクタ	1
AGP拡張カードコネクタのデータの幅（最大）	32ビット
AGP拡張カードコネクタのサイズ	172ピン
AGPバスプロトコル	1.5 Vで4倍速モード
ドライブ	
フロントベイ：	
スモールデスクトップコンピュータ	3.25インチベイ 5.25インチベイ
ミニタワーコンピュータ	3.25インチドライブベイ × 2 5.25インチドライブベイ × 2
内蔵ベイ	
スモールデスクトップコンピュータ	1インチ幅ハードドライブ用ベイ × 1
ミニタワーコンピュータ	1インチ幅ハードドライブ用ベイ × 2
ポートとコネクタ	
外部アクセス用：	
シリアル（DTE）	16550互換9ピンコネクタ × 2
パラレル	双方向25ピンコネクタ（メス）
ビデオ	15ピンコネクタ（メス）
ネットワークアダプタ	RJ45コネクタ
PS/2型キーボード	6ピンミニDIN
PS/2互換マウス	6ピンミニDIN
USB	USB準拠コネクタ × 4（正面パネルに2つ、背面パネルに2つ）
オーディオ	ライン入力ジャック × 1；スピーカー／ヘッドフォンジャック × 2（正面パネルに1つ、背面パネルに1つ）；マイクジャック × 1
内部アクセス用：	
プライマリIDEドライブ	40ピンコネクタ
セカンドIDEドライブ	40ピンコネクタ
フロッピードライブ	34ピンコネクタ
CDドライブオーディオインタフェース	4ピンコネクタ
ファン	3ピンコネクタ × 3
テレフォニー(TAPI)	4ピンコネクタ
キーの組み合わせ	
<Ctrl><Alt><Del>	コンピュータを再起動
<F2>	セットアップユーティリティを起動（POST時のみ）
<Ctrl><Alt><\>	101型キーボード上のマイクロプロセッサ速度を切り換えます（MS-DOS®リアルモードの場合のみ）
<Ctrl><Alt><#>	102型キーボード上のマイクロプロセッサ速度を切り換えます（MS-DOSリアルモードの場合のみ）
<Ctrl><Enter>	起動時にコンピュータパスワードを無効化（正しいパスワードが入力された後）
<F12>	ネットワークからの起動（POST時のみ）
<Ctrl><Alt><F8>	起動順序の変更（POST時のみ）
<Ctrl><Alt><F10>	システム起動時に、ユーティリティパーティションを起動（インストールされている場合）
ボタンとライト	
電源ボタン	押しボタン
電源ライト	緑色のライト（スリープ状態のとき緑色に点滅）；コンピュータ動作中の2色のライト（電源がオンの時は緑色、診断中は黄色）
ハードドライブライト	緑色のライト
動作ライト（内蔵ネットワークアダプタ上）	黄色のライト
ネットワークリンク保全および速度ライト（内蔵ネットワークアダプタ上）	10 Mb伝送時は緑色のライト；100 Mb伝送時はオレンジのライト
診断コードライト	背面パネルに4つの2色（黄色と緑色）のライト
電源	
DC電源装置：	
ワット数	スモールデスクトップコンピュータ：180 W ミニタワーコンピュータ：250 W
熱散逸	スモールデスクトップコンピュータ：500 BTU／時（モニタなしの最大負荷状態で）

	ミニタワーコンピュータ：910 BTU／時
電圧	90 V〜135 V（60 Hz）、180 V〜265 V（50 Hz）；自動切り替え
バックアップバッテリ	3V CR2032コイン型
サイズと重量	
スモールデスクトップコンピュータ：	
高さ	10.6 cm
幅	38.9 cm
奥行	43.2 cm
重量	9.9 kg
ミニタワーコンピュータ：	
高さ	42.5 cm
幅	18.1 cm
奥行	44.7 cm
重量	12.7 kg
環境	
温度：	
動作時	10° 〜 35° C
保管時	-40° 〜 65° C
相対湿度	20 %〜80 %（結露しないこと）
最大振動：	
動作時	0.25 G(3 Hz〜200 Hz、0.5オクターブ／分)
保管時	0.5 G (3 Hz〜200 Hz、1オクターブ／分)
最大衝撃：	
動作時	50.8 cm／秒の速度変化でボトムハーフサインパルス
保管時	508 cm／秒の速度変化で27 Gフェアードスクエアウェーブ
高度：	
動作時	-16 m〜3,048 m
保管時	-16 m〜10,600 m

目次ページに戻る

目次ページに戻る

Microsoft® Windows® XPの特徴

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

目次ページに戻る

[目次ページに戻る]

ユーザーアカウントおよびユーザーの簡易切り替え

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

メモ: ユーザーの簡易切り替えは、HomeおよびProfessional Editionの両方のデフォルトユーザー画面ですが、Windows XP Professionalではコンピュータがコンピュータドメインのメンバーである場合は無効になっています。

Microsoft Windows XPには、1台のコンピュータに複数のユーザーがアクセスできる新しい機能が含まれています。Homeおよび Professional Editionの両方で利用可能なユーザーの簡易切り替えを使って、以前のユーザーがログオフしなくても、ユーザーはデスクトップや各種アプリケーションを含む自分の設定でそのコンピュータにアクセスすることができます。新しいユーザーはログオンしてから元のユーザーのセッションを自分のセッションに切り替えます。新しいユーザーは、デスクトップとアプリケーションを元のユーザーのじゃまにならずに実行できます。元のユーザーが戻ったとき、そのユーザーはデスクトップとアプリケーションを元の設定に戻すことができます。個々のユーザーがコンピュータからログオフしなくても、以上のことが実行できます。

セットアップ中に、コンピュータ管理者はコンピュータで使われるすべてのアカウントを作成します。(アカウントのタイプと新しいアカウントの追加方法についての情報は、「ユーザーの追加」を参照してください。)コンピュータが起動したら、メインユーザーの画面にすべてのユーザー名が表示されます。この画面から、アカウントを選んでセッションにログインします。

ユーザーの簡易切り替えの使い方

ユーザーの簡易切り替えにアクセスするには、次の手順を実行します。

1. **スタート**ボタンをクリックし、**ログオフ**をクリックします。
2. **Windowsのログオフ**の画面が表示されたら、**ユーザーの切り替え**または**ログオフ**をクリックします。

ユーザーの切り替えを選んだ場合、メインユーザーの画面が表示されます。次に、アカウント名を選んでログインします。個人のデスクトップが表示されます。

ユーザーの簡易切り替えで起こること

ユーザーの簡易切り替えが実行されるとき、元のユーザーは以前のMicrosoftオペレーティングシステムでおこなわれていたのと異なり、コンピュータからログオフされません。Windows XPでは、ユーザーのログオンはアクティブのまま残りますが、新しいユーザーと置き換わります。ユーザーはログインID間を自由に切り替えることができます。

ただし、アクティブなユーザーアプリケーションはユーザー切り替え中はアクティブのまま残り、新しいユーザーが作業中はバックグランドで実行され続けます。このことにより処理が終了するまでコンピュータが遅くなることがあります。たとえば、1人のユーザーが大きなファイルをインターネットからダウンロード中に別のユーザーがコンピュータにログオンした場合、ファイルのダウンロードは完了するまでバックグランドで継続されます。

ほとんどのアプリケーションは、ユーザーの管理切り替え中にバックグランドで実行を続けますが、マルチメディアアプリケーションは実行しません。マルチメディアアプリケーションは1台のシステムで異なったユーザー間で簡単に共有できないリソースを使用しますので、これらのアプリケーションはユーザー切り替えの間終了して新しいユーザーがマルチメディアを最大限に利用できるようにします。

ユーザーの簡易切り替えに対する考慮

ユーザーの簡易切り替えを使用する場合は、以下のことを考慮に入れてください。

- 古いWindowsゲームによっては、ユーザーの簡易切り替えで動作しないものがあります。
- マルチメディアゲームは、ユーザーの簡易切り替えでは終了することがあります。
- DVDソフトウェアは終了し、ユーザーが戻ったときに再起動する必要があります。
- メモリ構成が低いコンピュータでは、問題が発生することがあります。コンピュータはメモリを使って、2番めのユーザーがログオンしている間に最初のユーザーのプログラムをバックグランドで実行し続けます。メモリが限られているコンピュータでは、このことにより全体的なコンピュータの速度が遅くなることがあります。RAMが128 MB以下のコンピュータでは、ユーザーの簡易切り替えはデフォルトではオフになっています。

コンピュータにWindows XP Professionalがインストールされていてコンピュータドメインのメンバーである場合、ユーザーの簡易切り替えは利用できません。

ユーザーの簡易切り替えをオフにする

ユーザーの簡易切り替えをオフにするには、コンピュータ管理者のアカウントが必要です。(アカウントのタイプについては、「ユーザーの追加」を参照してください。)

ユーザーの簡易切り替えを無効にするには、次の手順を実行します。

1. **スタート**ボタンをクリックし、**コントロールパネル**をクリックします。
2. **コントロールパネル**ウィンドウで、**ユーザーアカウント**をクリックします。
3. **作業を選びます**で、**ユーザーのログオンやログオフの方法を変更する**をクリックして以下のうちの1つを実行します。
   - **ユーザーの簡易切り替えを使用する**チェックボックスを選んで、ユーザーの簡易切り替えを有効にします。
   - **ユーザーの簡易切り替えを使用する**チェックボックスの選択を解除して、ユーザーの簡易切り替えを無効にします。
4. **オプションの適用**をクリックします。

ユーザーの追加

コンピュータ管理者または管理者権限を持つユーザーのみが複数のユーザーアカウントを作成することができます。初期オペレーティングシステムセットアップを実行するユーザーがコンピュータ管理者アカウントを作成し、初期セットアップ中に任意の数のユーザーを追加することができます。セットアップ中に作成されたすべてのユーザーアカウントは、管理者権限があります。

初期オペレーティングシステムセットアップ後に、コンピュータ管理者または管理者権限のあるユーザーはユーザーアカウントを追加して作成することができます。

ユーザーを追加するには、次の手順を実行します。

1. **スタート**ボタンをクリックし、**コントロールパネル**をクリックします。
2. **コントロールパネル**ウィンドウで、**ユーザーアカウント**をクリックします。
3. **作業を選びます**の**ユーザーアカウント**ウィンドウで、**新しいアカウントを作成する**をクリックします。
4. **新しいアカウントに名前を付けます**のボックスで、新しいユーザーの名前を入力します。**次へ**をクリックします。
5. **アカウントの種類を選びます**で、**コンピュータの管理者**または**制限**のうちの作成するアカウントのタイプの横の丸をクリックします。
   - コンピュータ管理者はすべてのコンピュータ設定を変更することができます。
   - 制限アカウントユーザーは、自分のパスワードなどの設定のみを変更できます。
6. **アカウントの作成**をクリックします。

アカウントを作成したら、すべてのアカウントがユーザーの簡易切り替えのメインユーザーの画面に表示されます。

目次ページに戻る

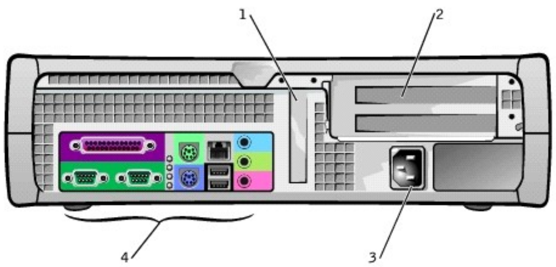
[目次ページに戻る]

コンピュータの背面図

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

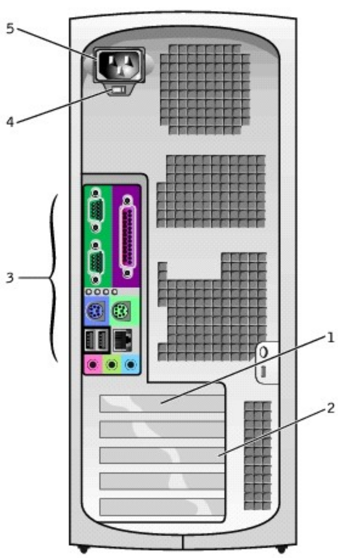
- シリアルコネクタ
- パラレルコネクタ
- オーディオコネクタ
- PS/2マウスコネクタ
- PS/2キーボードコネクタ
- USBコネクタ
- ネットワークアダプタ

スモールデスクトップコンピュータ



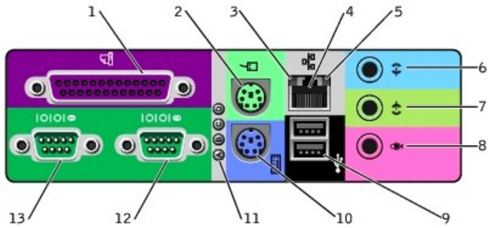
1	ロープロファイルAGPカードスロット	3	ACアダプタ
2	PCI拡張カードスロット(2)	4	背面パネルのコネクタ

ミニタワーコンピュータ



1	AGPカードスロット	4	AC電圧スイッチ
2	PCI拡張カードスロット(4)	5	ACアダプタ
3	背面パネルのコネクタ		

背面パネルのコネクタ



1	パラレルコネクタ	8	マイク
2	マウス	9	USB（2）
3	リンク保全ライト	10	キーボード
4	ネットワークアダプタ	11	診断ライト
5	リンク動作ライト	12	シリアルコネクタ（2）
6	ライン入力	13	シリアルコネクタ（1）
7	ライン出力		

外付けデバイスをコンピュータの背面パネルに接続する場合、次の手順を実行します。

- 取り付けと設定の具体的な手順については、デバイスに付属のマニュアルを参照してください。

  たとえば、ほとんどのデバイスは、特定のI/Oポートまたはコネクタに接続しないと正常に動作しません。また、通常プリンタなどの外付けデバイスを正常に動作させるには、デバイスドライバをロードしておく必要があります。

- 必ずコンピュータがオフのときに外付けデバイスを接続します。次に、コンピュータをオンにしてから、外付けデバイスをオンにします（デバイスのマニュアルに特に記載のないかぎり）。

注意：システム基板への損傷を防ぐため、コンピュータの電源を切った後、10～20秒間待ってからコンピュータからデバイスを取り外してください。

シリアルコネクタ

デフォルトのシリアルコネクタの指定は、ポート1用がCOM1、ポート2用がCOM2です。この指定を使ったシリアルポートを含む拡張カードを追加する場合、セットアップユーティリティでシリアルポートの指定を再割り当てすることができます。

セットアップユーティリティでコンピュータのシリアルコネクタを**Auto**に設定して、特定の値に設定したシリアルポートを含む拡張カードを追加すると、コンピュータは必要に応じて内蔵ポートを適切なCOM設定に自動的にマッピング（割り当て）します。

シリアルコネクタにカードを追加する前に、ソフトウェアに付属のマニュアルを参照して、ソフトウェアが新しいCOMポート指定にマップされるか確認します。

パラレルコネクタ

パラレルコネクタはプリンタ、スキャナー、zipドライバなどのパラレルデバイスを接続するために使用します。デフォルトのパラレルコネクタの指定は、LPT1です。

メモ：セットアップユーティリティの**パラレルポート**オプションで指定されたアドレスと、同じアドレスに設定されたパラレルコネクタを持つ拡張カードをコンピュータが検出した場合、内蔵パラレルコネクタは自動的に無効になります。

オーディオコネクタ

- マイクジャック — 標準のコンピュータマイクを接続します。
- スピーカー／ヘッドフォンジャック — コンピュータのスピーカー、ヘッドフォン、またはその他のオーディオ出力デバイスを接続します。このジャックは、ヘッドフォンをサポートするために増幅されています。
- ライン入力ジャック — カセットプレーヤー、CDプレーヤー、VCRなどの録音／再生デバイスを接続します。

PS/2マウスコネクタ

背面パネルの6ピンマウスコネクタにPS/2マウスケーブルを接続します。お使いのコンピュータでMicrosoft® Windows®をお使いの場合、Dellではハードドライブに必要なマウスドライバをインストール済みです。

メモ：マウスとキーボードのコネクタは互いに似ています。デバイスを接続する前に、コネクタが間違いないか確認してください。

メモ：PS/2マウスとUSBマウスを同時に使用しないでください。

PS/2キーボードコネクタ

背面パネルの6ピンキーボードコネクタにPS/2キーボードケーブルを接続します。

USBコネクタ

キーボード、マウス、プリンタ、およびスピーカーなどのUSB互換デバイスを接続するのに使用します。

注意：USBデバイスは、Microsoft Windows NT®環境では動作しません。

メモ：USBマウスまたはキーボードを接続する場合、コンピュータ背面のポート1 USBコネクタの1つに必ず接続してください。

ネットワークアダプタ

ネットワークアダプタには、次のライトがあります。

- 黄色のネットワーク動作ライトは、コンピュータがネットワークデータを送信、または受信している時に点滅します。（ネットワークトラフィックが多い場合は、このライトが「点灯」の状態に見えることがあります。）
- 2色のネットワーク保全ライトは、10 Mbpsネットワークとコンピュータ間の接続が正常な場合は緑色で、100 Mbpsネットワークとコンピュータ間の接続が正常な場合はオレンジ色です。ライトが消灯している場合、コンピュータがネットワークへの物理的な接続を検出していません。

ネットワークコントローラには、リモートウェイクアップ機能があります。詳細については、「ネットワーク操作」および「電源管理」を参照してください。

注意：モデムケーブルをネットワークアダプタに接続しないでください。電話回線からの電圧は、ネットワークアダプタを損傷する恐れがあります。

ネットワーク接続要件

UTP Ethernetケーブルの一方の端を、カチッと音がして所定の位置に確実に収まるまでコンピュータのネットワークアダプタに押し込みます。ネットワークの構成に応じて、ケーブルのもう一方の端をRJ45ジャック壁面プレートか、UTPのコネクタまたはハブ上のRJ45ポートに接続します。

お客様のネットワーク用には、カテゴリ5のケーブルとコネクタのご使用をお勧めしています。

メモ：コンピュータに接続するネットワークデバイスの種類を確認します。通常ハブは10 Mbpsで動作します。スイッチは10 Mbpsまたは100 Mbpsで動作します。ネットワークアダプタが適切な速度に設定されているか確認します。リソースを設定するには、Dell診断プログラムのOption 5を選択します。

目次ページに戻る

[目次ページに戻る]

バッテリ

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

システム基板に取り付けられた3.0 VのCR2032 コイン型バッテリは、電源がオフになった場合に、設定、時刻、日付の情報を保持するための電力を供給します。コンピュータバッテリは交換しなくても数年動作するように造られています。ただし、設定またはクロックに関連した矛盾が生じたり、起動ルーチン中に次のメッセージのいずれかが表示された場合は、バッテリを交換する必要があります。

```
Time-of-day not set - please run SETUP program
```
（日時が設定されていません。セットアップユーティリティを起動してください。）

または

```
Invalid configuration information -
please run SETUP program
```
（無効な設定情報 ー セットアップユーティリティを起動してください。）

警告：新しいバッテリは、正しく装着しないと破裂する恐れがあります。バッテリを交換する場合、同じ種類のバッテリ、または製造元が推奨する同等のバッテリのみを使用してください。使用済みのバッテリは、製造元の指示に従って廃棄してください。

警告：この手順を実行する前に、「作業にあたっての注意」を参照してください。

注意：コンピュータをコンセントから外した後10〜20秒待ってから、コンピュータからデバイスを取り外してください。システム基板上のスタンバイ電源ライトがオフになっていることを確認してから、システム基板からコンポーネントを取り外してください。このライトの位置を確認するには、「システム基板のコンポーネント」のイラストを参照してください。

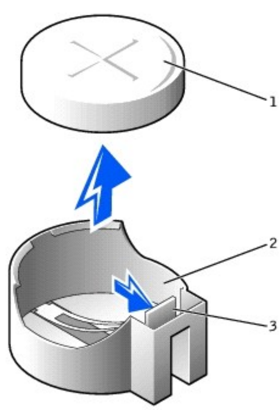
1. セットアップユーティリティのコンピュータ設定情報のコピーをまだ取っていない場合、コピーを取ります。

   バッテリ交換中にシステム設定情報が失われても、コンピュータ設定情報のコピーを参照して、正しい設定を復元できます。

2. コンピュータとデバイスの電源をオフにし、それらをコンセントから抜いて10〜20秒待ちます。
3. コンピュータカバーを開きます。
4. バッテリを取り外します。

   システム基板のバッテリの位置は、「システム基板のコンポーネント」のイラストを参照してください。

バッテリの取り外し



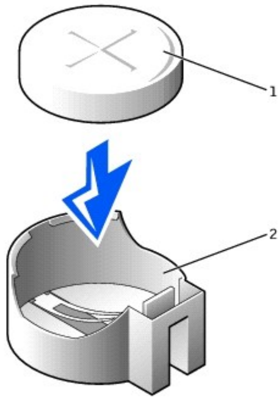
1	バッテリ
2	バッテリソケット
3	タブ

   タブを押し込んでバッテリが外れるようにします。

5. 新しいバッテリを取り付けます。

   バッテリの「+」とラベルされた面を上に向けます。次に、バッテリをソケットに挿入し、カチッと所定の位置に収めます。

バッテリの取り付け



1	バッテリ
2	バッテリソケット

6. コンピュータカバーを閉じます。
7. コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。

メモ：Chassis Intrusionオプションが有効な場合、次のコンピュータ起動時に以下のメッセージが表示されます。

`ALERT! Cover was previously removed.`（警告! カバーが取り外されました。）

8. セットアップユーティリティを起動し、現在の日時を再入力します。次にセットアップユーティリティを終了し、情報を保存します。
9. コンピュータの電源を切って、コンセントから外します。コンピュータを10分以上オフの状態にします。
10. コンピュータをコンセントに接続し、電源を入れます。
11. セットアップユーティリティを起動し、日時を確認します。
12. それでも日時が間違っている場合、Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

目次ページに戻る

[目次ページに戻る](#)

メッセージとコード

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

- コンピュータメッセージ
- コンピュータビープコード
- 警告メッセージ
- 診断メッセージ
- 診断ライト
- SNMPプラットフォームイベントトラップ

お使いのアプリケーションプログラム、オペレーティングシステムおよびコンピュータは、問題を見つけてユーザーに知らせる機能を備えています。問題が発生すると、モニタ画面にメッセージが表示されるか、ビープコードが鳴ります。また、ライトコードが生成される場合もあります。次の項では、メッセージ、ビープコード、またはライトコードについて説明します。

コンピュータメッセージ

コンピュータメッセージが表示されたら、次の表を参照してメッセージによって示されたエラーを解決します。コンピュータメッセージはアルファベット順に表示されます。

警告：コンピュータ内部のコンポーネントの作業をする前に、「作業にあたっての注意」を参照してください。

メッセージによって、問題に対する対応処置を決めることができます。問題に対する対応処置を行う際、コンピュータカバーを開ける必要がある場合、「コンピュータカバー」を参照して、推奨する対応処置をとる前の必要な手順を完了してください。推奨する対応処置をとった後も、問題が解決しない場合は、Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

メモ： 表示されているコンピュータメッセージが表にない場合は、メッセージが表示されたときに実行していたアプリケーションプログラムのマニュアルを調べるか、メッセージおよび推奨されている処置について説明しているオペレーティングシステムのマニュアルを調べてください。

メッセージ	原因	処置
`Address mark not found`	BIOSがディスクセクタの不良を検出したか、特定のディスクセクタを検出できませんでした。	「ハードドライブの問題」を参照してください。
`Alert! Cover was previously removed.`	コンピュータカバーが開けられました。	セットアップユーティリティを起動して、**Chassis Intrusion** オプションをリセットします。
`Alert! CPU fan not detected.`	マイクロプロセッサ冷却ファンが取り付けられていないか、故障しています。または、システム基板に正しく接続されていません。	動作しているマイクロプロセッサ用の冷却ファンが取り付けられていて、システム基板に接続されていることを確認します。また、マイクロプロセッサエアフローカバーが正しく取り付けられているか確認します。 「マイクロプロセッサの問題」を参照してください。
`Alert! Previous attempts at booting this system have failed at checkpoint [`*nnnn*`]. For help in resolving this problem, please note this checkpoint and contact Dell Technical Support.`	同じエラーによって、コンピュータは3回連続して起動ルーチンを終了できませんでした。	テクニカルサポートを受けるためDellに連絡してサポート担当者にチェックポイントコード(*nnnn*)を伝えてください。
`Alert! Previous fan failure.`	前回コンピュータを使用したときに、ファンにエラーが発生しました。	コンピュータ後部の換気口がふさがれていないか、またはコンピュータ内部のすべてのファンが正しく動作しているか確認します。
`Alert! Previous processor thermal failure.`	前回コンピュータを使用したときに、マイクロプロセッサがオーバーヒートしました。	コンピュータ後部の換気口がふさがれていないか、またはコンピュータ内部のすべてのファンが正しく動作しているか確認します。また、マイクロプロセッサのヒートシンクが正しく取り付けられているか確認します。
`Alert! Previous reboot was due to voltage regulator failure.`	前回コンピュータを使用したときに、VRMに障害が発生しました。	Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。
`Alert! Previous shutdown due to thermal event.`	前回コンピュータを使用したときに、マイクロプロセッサまたはハードドライブがオーバーヒートしました。	コンピュータ後部の換気口がふさがれていないか、またはコンピュータ内部のファンが正しく動作しているか確認します。また、マイクロプロセッサのヒートシンクが正しく取り付けられているか確認します。
`Alert! Previous voltage failure.`	コンピュータによって使用される電圧が限界値を越えたか、および必要な最低電圧以下になりました。	「電源の問題」および「システム基板の問題」を参照してください。
`Alert! System battery voltage is low.`	コンピュータバッテリからの電圧が適切ではありません。	「バッテリの問題」を参照してください。
`Alert! Unable to initialize all installed memory.`	1つまたは複数のメモリモジュールが不良か、正しく取り付けられていない可能性があります。	「コンピュータメモリの問題」を参照してください。
`Alert! Uncorrectable memory error previously detected...` `Address` *XXXXXXXXh*`,` `Device RIMM_`*Y*	1つまたは複数のメモリモジュールが不良か、正しく取り付けられていない可能性があります。またシステム基板が不良である可能性があります。	「コンピュータメモリの問題」または「システム基板の問題」を参照してください。
`Attachment failed to respond`	フロッピードライブまたはハードドライブコントローラは、関連するドライブにデータを送れません。	「フロッピードライブの問題」または「ハードドライブの問題」を参照してください。
`Bad command or file name`	入力したコマンドが存在しないか、指定したファイル名ではあり	コマンドのスペルが正しいか、スペースを適切な位置に置いたか、正しくパス名を使用したか確認します。

	ません。	
Bad error- correction code (ECC) on disk read	フロッピードライブまたはハードドライブコントローラが、修正不能な読み取りエラーを検出しました。	「フロッピードライブの問題」または「ハードドライブの問題」を参照してください。
Controller has failed	ハードドライブまたはそれに関連するコントローラが不良です。	「ハードライブの問題」を参照してください。
Data error	フロッピーまたはハードドライブがデータを読み取れません。	Microsoftre® Windows® 2000の場合、**ScanDisk**ユーティリティを実行し、Windows XPの場合、**chkdsk**ユーティリティを実行して、フロッピーまたはハードドライブのファイルの構造を調べます。詳細については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。 異なるオペレーティングシステムを使用しているときは、対応するユーティリティを実行し、フロッピーまたはハードドライブの構造を調べてください。オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。
Decreasing available memory	1つまたは複数のメモリモジュールが不良か、正しく取り付けられていない可能性があります。	「コンピュータメモリの問題」を参照してください。
Diskette drive 0 seek failure	ケーブルがゆるんでいるか、コンピュータ設定情報がハードウェア構成と一致していない可能性があります。	「フロッピードライブの問題」を参照してください。
Diskette read failure	ケーブルがゆるんでいるか、フロッピーディスクが不良の可能性があります。	「フロッピードライブの問題」を参照してください。
Diskette subsystem reset failed	フロッピードライブコントローラが不良の可能性があります。	Dell診断プログラムを実行します。
Diskette write protected	フロッピーディスクの書き込み保護機能が有効になっています。	ドライブAからフロッピーディスクを取り出し、書き込み保護タブをロックされていない位置に移動してください。
Drive not ready	フロッピーディスクがドライブ内にありません。フロッピーディスクがないと、操作を続行できません。	ドライブにフロッピーディスクを入れるか、ドライブラッチを閉じてください。
ゲートA20の障害	1つまたは複数のメモリモジュールがゆるんでいる可能性があります。	「コンピュータメモリの問題」を参照してください。
General failure	オペレーティングシステムがコマンドを実行できません。	通常、このメッセージの後ろには具体的な情報が付きます（例えば、PRINTER OUT OF PAPER）。 適切な処置をとって対応してください。
Hard disk configuration error	ハードドライブが初期化をおこなえませんでした。	「ハードライブの問題」を参照してください。
Hard disk controller failure Hard disk failure Hard drive read failure	ハードドライブが初期化をおこなえませんでした。	「ハードライブの問題」を参照してください。
Invalid configuration information - please run SETUP program	コンピュータ設定情報がハードウェア構成に合っていません。	セットアップユーティリティを起動し、コンピュータ設定情報を修正してください。
Keyboard controller failure Keyboard failure Keyboard stuck key failure	ケーブルまたはコネクタにゆるみがあるか、キーボードまたはキーボード／マウスコントローラが不良の可能性があります。	「キーボードの問題」を参照してください。
Memory address line failure at *address*, read *value* expecting *value*	1つまたは複数のメモリモジュールが不良か、正しく取り付けられていない可能性があります。	「コンピュータメモリの問題」を参照してください。
Memory allocation error	実行しようとするソフトウェアが、オペレーティングシステムまたは他のアプリケーションプログラムあるいはユーティリティとコンフリクトしています。	コンピュータの電源を切り、30秒待ってから電源を入れます。再度プログラムを実行してみます。問題が解消しない場合、ソフトウェア会社にお問い合わせください。
Memory address line failure at *address*, read *value* expecting *value* Memory address line failure at *address*, read *value* expecting *value* Memory address line failure at *address*, read *value* expecting *value* Memory address line failure at *address*, read *value* expecting *value*	1つまたは複数のメモリモジュールが不良か、正しく取り付けられていない可能性があります。	「コンピュータメモリの問題」を参照してください。
Memory size in CMOS invalid	コンピュータ設定情報に記録されているメモリ量がコンピュータに実際取り付けられているメモリと一致していません。	コンピュータを再起動します。エラーが再度表示される場合は、「コンピュータメモリの問題」を参照してください。
No boot device available	コンピュータがフロッピーまたはハードドライブを検出できません。	セットアップユーティリティを起動し、フロッピーとハードドライブに関するコンピュータ設定情報を確認し、必要であれば、その情報を修正してください。
No boot sector on hard drive	セットアップユーティリティのコンピュータ設定情報が正しくないか、オペレーティングシステムが不良である可能性があります。	セットアップユーティリティを起動し、ハードドライブに関するコンピュータ設定情報を確認し、必要であれば、その情報を修正してください。 メッセージが消えなければ、オペレーティングシステムを再インストールしてください。オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

No timer tick interrupt	システム基板上のチップが誤作動している可能性があります。	Dell診断プログラムを実行します。
Non-system disk or disk error	ドライブAのフロッピーまたはハードドライブに起動可能オペレーティングシステムがインストールされていません。	フロッピーディスクがドライブAにあります。フロッピーディスクを、起動可能なオペレーティングシステムの入ったフロッピーディスクと交換するか、ドライブAからそのフロッピーディスクを取り出してコンピュータを再起動します。
Not a boot diskette	フロッピーディスクにオペレーティングシステムがありません。	オペレーティングシステムを含むフロッピーディスクでコンピュータを起動します。
Please connect USB Keyboard/Mouse to USB port(s) on the back of the computer.	USBキーボードとマウスの両方またはどちらかを、コンピュータ背面のUSBコネクタに接続する必要があります。	コンピュータの電源を切り、USBキーボードとマウスの両方またはどちらかを、コンピュータ背面のUSBコネクタに接続し、コンピュータを再起動します。「背面パネルのコネクタ」を参照してください。
Plug and Play Configuration Error	1つまたは複数の拡張カードを設定しようとしてコンピュータに問題が生じました。	「拡張カードの問題」を参照してください。
Read fault Requested sector not found	オペレーティングシステムがフロッピードライブまたはハードドライブからデータを読み取れません。 ディスク上の特定のセクタが見つからなかったか、要求されたセクタが不良です。	「フロッピードライブの問題」または「ハードドライブの問題」を参照してください。
Reset failed	ディスクのリセットに失敗しました。	「フロッピードライブの問題」または「ハードドライブの問題」を参照してください。
Sector not found	オペレーティングシステムがフロッピーまたはハードドライブ上のセクタを見つけることができません。	「フロッピードライブの問題」または「ハードドライブの問題」を参照してください。
Seek error	オペレーティングシステムがフロッピーまたはハードドライブ上の特定のトラックを見つけることができません。	フロッピードライブ上にエラーがある場合、そのドライブ内に異なるフロッピーを入れてみてください。
シャットダウン障害	システム基板上のチップが誤作動している可能性があります。	Dell診断プログラムを実行します。
刻時機構が停止	バッテリが消耗している可能性があります。	セットアップユーティリティを起動し、日時を訂正します。 問題が解消しない場合、「バッテリの問題」を参照してください。
Time-of-day not set	コンピュータ設定情報に表示される日時がコンピュータクロックに合っていません。	セットアップユーティリティを起動し、日時を訂正します。
Timer chip counter 2 failed	システム基板上のチップが誤作動している可能性があります。	Dell診断プログラムを実行します。
Unexpected interrupt in protected mode	キーボードコントローラが誤動作しているか、1つまたは複数のメモリモジュールがゆるんでいる可能性があります。	Dell診断プログラムを実行します。
WARNING: Dell's Disk Monitoring System has detected that drive [0/1] on the [primary/secondary] EIDE controller is operating outside of normal specifications. It is advisable to immediately back up your data and replace your hard drive by calling your support desk or Dell Computer Corporation.	?{}?POSTがIDEドライブのステータス情報を調べました。?{}?ドライブが、動作仕様のエラー状態を検出したことを示します。	コンピュータが起動を終了したら、ただちにデータのバックアップをとり、ハードドライブを交換します。?{}?データを交換用ドライブに再記録します。 ?{}?ハードドライブのデータをバックアップします。交換用ドライブをすぐには使用できず、そのドライブが唯一の起動ドライブではない場合、セットアップユーティリティを起動し、対応するドライブの設定を**None**に変更します。ドライブをコンピュータから取り外します。
Write fault Write fault on selected drive	オペレーティングシステムがフロッピーまたはハードドライブにデータを書き込めません。	「フロッピードライブの問題」または「ハードドライブの問題」を参照してください。

コンピュータビープコード

モニタ上で報告できないエラーが起動時に発生すると、コンピュータは問題を識別するビープコードを出す場合があります。ビープコードは音のパターンです。ビープコードは音のパターンです。たとえば、1つのビープの後に2番目のビープが付き、その後に3つのビープの連続音（コード1-1-3）が付いた場合、これはコンピュータがNVRAM内のデータを読み取れなかったことを意味します。

ビープコードが発生したら、診断チェックリストを印刷し、そのコードを書き留め、次の表でそのコードを調べてください。ビープコードの意味を調べても問題を解決できなかった場合、Dell診断プログラムを使用してその原因をつきとめてください。それでも問題が解決しない場合、Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

コード	原因
1-1-2	マイクロプロセッサレジスタ障害
1-1-3	NVRAM読み書き障害
1-1-4	ROM BIOSチェックサム障害
1-2-1	プログラム可能インターバルタイマ
1-2-2	DMA初期化障害
1-2-3	DMAページレジスタ読み書き障害
1-3	ビデオメモリの不良
1-3-1 ～ 2-4-4	メモリモジュールが正しく認識されていないか使用されていない

3-1-1	スレーブDMAレジスタ障害
3-1-2	マスタDMAレジスタ障害
3-1-3	マスタ割り込みマスクレジスタ障害
3-1-4	スレーブ割り込みマスクレジスタ障害
3-2-2	割り込みベクタロード障害
3-2-4	キーボードコントローラ障害
3-3-1	NVRAM電力損失
3-3-2	NVRAM構成
3-3-3	リアルタイムクロック（RTC）またはキーボードコントローラが検出されません
3-3-4	ビデオメモリの不良
3-4-1	ビデオ初期化障害
3-4-2	ビデオリトレース障害
3-4-3	ビデオROMの検索障害
4-2-1	タイマーチック障害
4-2-2	シャットダウン障害
4-2-3	ゲートA20の障害
4-2-4	保護モードで予測外の中断が発生
4-3-1	アドレス0FFFFh以上のメモリ障害
4-3-3	タイマーチップチャネル2障害
4-3-4	刻時機構が停止
4-4-1	シリアルまたはパラレルコネクタ障害
5-1-2-3	メモリ読み書き障害
5-2-2-1	メモリモジュールが不一致またはサポートされていない
5-2-2-2	メモリモジュールペアの不一致
5-2-2-3	メモリモジュールを初期化できない

警告メッセージ

アプリケーションプログラムまたはオペレーティングシステムは、問題が発生している可能性があることを知らせ、処置をおこなってから実行を続けるように指示します。たとえば、フロッピーディスクをフォーマットする前に、間違ってデータを消去または上書きしないようにする方法として、フロッピーディスク上のすべてのデータを失う可能性があるということをメッセージで警告します。これらの警告メッセージは通常、手順を中断し、y(はい)またはn(いいえ)と入力して応答することを要求します。

診断メッセージ

Dell診断プログラムでテストグループまたはサブテストを実行すると、エラーメッセージが発生する場合があります。この項では、これらのエラーメッセージについては説明していません。診断チェックリストのコピーにメッセージを記入し、Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

診断ライト

警告：コンピュータ内部のコンポーネントの作業をする前に、「作業にあたっての注意」を参照してください。

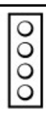
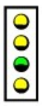
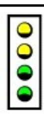
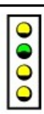
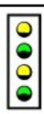
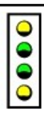
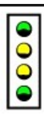
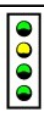
ライトによって、問題に対する対応処置を決めることができます。問題に対する対応処置を行う際、コンピュータカバーを開ける必要がある場合、「コンピュータカバー」を参照して、推奨する対応処置をとる前の必要な手順を完了してください。推奨する対応処置をとった後も、問題が解決しない場合は、Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

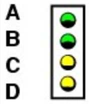
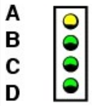
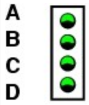
電源ライト	ハードドライブライト	原因	対応処置
緑色の点灯	—	電源がオンで、コンピュータは正常に動作しています。	対応処置は必要ありません。
緑色に点滅	オフ	コンピュータはサスペンド状態（Windows 2000およびWindows XP）です。	適切な方法の1つを使用して、コンピュータを「ウェイクアップ」します。「電源管理」を参照してください。
緑色に数回点滅したあとオフになる	—	設定エラーがあります。	固有の問題を識別できるかどうか確認するために、診断ライトを確認します。
黄色の点灯	—	Dell診断プログラムがテストを実行中、またはシステム基板のデバイスが不良か、正しく取り付けられていない可能性があります。	Dell診断プログラムが実行中であれば、テストを終了させます。 固有の問題を識別できるかどうか確認するために、診断ライトを確認します。また、「システム基板の問題」を参照してください。 コンピュータが起動しない場合、Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。
黄色の点滅	オフ	電源装置またはシステム基板に障害があります。	固有の問題を識別できるかどうか確認するために、診断ライトを確認します。また、「電源の問題」または「システム基板の問題」を参照してください。
黄色の点滅	緑色の点灯	システム基板に障害があります。	固有の問題を識別できるかどうか確認するために、診断ライトを確認します。また、「システム基板の問題」を参照してください。
POST中の緑色の点灯とビープコード	—	BIOS実行中に問題が検出されました。	ビープコードによる診断については、「コンピュータビープコード」を参照してください。また、固有の問題を識別できるかどうか確認するために、診断ライトを確認

			します。
POST中の緑色の点灯、ビープコードおよびビデオ表示なし	—	モニタまたはグラフィックカードが不良か、正しく取り付けられていない可能性があります。	固有の問題を識別できるかどうか確認するために、診断ライトを確認します。また、「ビデオの問題」を参照してください。
POST中の緑色の点灯、ビープコードはないがコンピュータがロック	—	内蔵システム基板に欠陥がある可能性があります。	固有の問題を識別できるかどうか確認するために、診断ライトを確認します。問題を識別できない場合、Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

コンピュータの電源を入れると、一連の自己診断用のチェックを実行します。POSTが正常に終了すると、ビープ音が1つ聞こえ、通常の操作が始まったことを示します。コンピュータがPOSTを完了できない場合、コンピュータの一連のライトで、どのPOSTテストが失敗したか、あるいはシステムが反応しなくなった原因がわかります。これらのライトは、POST実行前および実行中の問題のみを示し、通常の操作中の問題は示しません。

次の表に診断ライトのコード、考えられる原因、推奨する対応処置を示します。お使いのコンピュータのパターンを、表に示されたパターンの1つと簡単に一致させられるように、ライトはラベルされています。

ライトパターン		**原因**	**処置**
A B C D 	オフ オフ オフ オフ	コンピュータに電力が供給されていません。	コンピュータをコンセントに接続します。正面パネル電源ライトがオンになっているか確認します。電源ライトが点灯していない場合、コンピュータが動作しているコンセントに接続されているか確認し、電源ボタンを押します。 それでも問題が解決しない場合、Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。
A B C D 	黄色 黄色 緑色 黄色	マイクロプロセッサが不良の可能性があります。	「マイクロプロセッサの問題」の手順を実行します。
A B C D 	黄色 黄色 緑色 緑色	メモリに不具合の可能性があります。	「コンピュータメモリの問題」の手順を実行します。
A B C D 	黄色 緑色 黄色 黄色	拡張カードに不具合またはコンフリクトの可能性があります。	「拡張カードの問題」または「ハードウェアのコンフリクト」の手順を実行します。
A B C D 	黄色 緑色 黄色 緑色	ビデオカードに不具合の可能性があります。	ビデオカードを装着しなおし、再テストのためコンピュータを再起動します。拡張カードの取り外しおよび取り付けの手順については、「拡張カードの取り外し」を参照してください。 問題が解決しない場合、「拡張カードの問題」の手順を実行します。 それでも問題が解決しない場合、Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。
A B C D 	黄色 緑色 緑色 黄色	フロッピードライブまたはハードドライブに不具合の可能性があります。	「フロッピードライブの問題」または「ハードドライブの問題」の手順を実行します。
A B C D 	緑色 緑色 緑色 黄色	ビデオの初期化の後、警告が検出されました。コンピュータの画面でエラーメッセージを確認します。	コンピュータ画面に表示されるすべてのメッセージを記録し、「システム基板の問題」および「ハードウェアのコンフリクト」の手順を実行します。
A B C D 	緑色 黄色 黄色 緑色	システム基板リソースおよびハードウェアのどちらかまたは両方に不具合の可能性があります。	「システム基板の問題」および「ハードウェアのコンフリクト」の手順を実行します。
A B C D 	緑色 黄色 緑色 緑色	システム基板リソースおよびハードウェアのどちらかまたは両方に不具合の可能性があります。	「システム基板の問題」および「ハードウェアのコンフリクト」の手順を実行します。

	緑色 緑色 黄色 黄色	拡張カードに不具合またはコンフリクトの可能性があります。	「システム基板の問題」および「ハードウェアのコンフリクト」の手順を実行します。
	黄色 緑色 緑色 緑色	USB障害の可能性があります。	すべてのUSBデバイスとケーブルを外し、再テストのためコンピュータを再起動します。それからすべてのUSBデバイスとケーブルを再接続し、再テストのためコンピュータを再起動します。 それでも問題が解決しない場合、Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。
	緑色 緑色 緑色 緑色	POST後の通常の動作状態を示します。	対処する必要はありません。
			

SNMPプラットフォームイベントトラップ

お使いのコンピュータは、ネットワーク管理ソフトウェアを通して、ネットワーク管理者にコンピュータで特定のイベントが発生したことを伝える、SNMP PETメッセージを生成します。

次の表に、コンピュータが作成するSNMPプラットフォームイベントトラップを示します。

説明	**コード**
BIOS起動失敗	02 03 23 6f 00
シャーシイントルージョン	02 03 23 6f 00
不適切な温度	02 03 01 06 01
無効なパスワード	02 03 06 6f 01
不適切な電圧	02 03 02 06 01

目次ページに戻る

目次ページに戻る

アプリケーションとデバイスの互換性

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

- プログラム互換性ウィザード

Windows XPは広範囲なアプリケーションプログラムやハードウェアデバイスに対応するよう設計されていますが、古いプログラムやデバイスの中には使用できないものもあります。**www.microsoft.com/japan**のMicrosoftウェブサイトで、アプリケーションプログラムとハードウェアデバイスについての互換性情報をお読みください。新しいソフトウェアやデバイスを御購入になる際は、Windows XP対応のラベルがあるか確認してください。以前のWindowsオペレーティングシステム用に設計されているアプリケーションプログラムを使用していて問題が発生した場合、Windows XPが互換性モード機能を提供します（「プログラム互換性ウィザード」を参照）。以前のWindowsオペレーティングシステムで動作するよう設計されているアプリケーションプログラムやハードウェアデバイスのインストールがうまくいかなかった場合、Windows XPについての情報やWindows XPへのアップデートについては、製品の製造元にお問い合わせください。

Windows XPには、Windows用アプリケーションプログラムを使うと以前のオペレーティングシステムで発生することのあった問題を解決する新しいテクノロジも含まれています。これらのアプリケーションプログラムはインストール時に、特定のWindowsファイルの特定のバージョンを古いバージョンに置き換えます。この状態が原因で、置き換えられたファイルに依存する新しいアプリケーションプログラムに不具合が発生することがあります。オペレーティングシステムの安定性の問題を解消し、改善するために、Windows XPは複数のバージョンのファイルを管理して、プログラムに必要な正しいバージョンを使用します。

メモ: インストール後にオペレーティングシステムや他のアプリケーションに問題が発生する場合、システムの復元を使っ、以前の安定した状態にコンピュータを戻すことができます。

プログラム互換性ウィザード

Windows XPでは、古いアプリケーションプログラムを実行しようとするときに発生する可能性のある問題のうちのいくつかを解決するプログラム互換性機能が提供されています。プログラム互換性ウィザードを使って、Windows 95、Windows 98/Me、Windows NT 4.0 Service Pack 5、またはWindows 2000に近い環境でプログラムを実行するよう設定することができます。

プログラム互換性ウィザードを使用するには、次の手順を実行します。

1. **スタート**をクリックし、**すべてのプログラム → アクセサリ**とポイントして、**プログラム互換性ウィザード**をクリックします。
2. **プログラム互換性ウィザード**が表示されたら、**次へ**をクリックします。
3. 互換性設定を実行するプログラムの場所の指定方法を、リストから、CDを利用、または手動で指定の中から選びます。**次へ**をクリックします。
4. プログラムが対応している、または正常に実行したオペレーティングシステムのタイプを選んでから、**次へ**をクリックします。
5. ゲームについては、必要に応じてプログラムの画面設定を選びます。
6. **次へ**をクリックします。
7. プログラムの設定の互換性をテストするには、**次へ**をクリックします。

   プログラムが正常に実行することを確認したら、**プログラム互換性ウィザード**ウィンドウに戻ります。

8. プログラムが正常に実行されたら**はい**を選び、そうでない場合、**いいえ、別の互換性の設定を試します**または**いいえ、互換性の設定を完了します**を選んで、**次へ**をクリックします。
9. **はい**を選んで使用した設定についての情報、および問題が解決したかどうかの情報を送信するか、**いいえ**を選んでから、**次へ**をクリックします。
10. **完了**をクリックしてウィザードを閉じます。

目次ページに戻る

目次ページに戻る

コンピュータカバー

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

コンピュータカバーを開く

警告：この手順を実行する前に、「作業にあたっての注意」を参照してください。

注意：コンピュータをコンセントから外した後10～20秒待ってからコンピュータからデバイスを取り外してください。システム基板上のスタンバイ電源ライトがオフになっていることを確認してから、システム基板からコンポーネントを取り外してください。このライトの位置を確認するには、「システム基板のコンポーネント」のイラストを参照してください。

1. コンピュータとデバイスの電源をオフにし、それらをコンセントから抜いて10～20秒待ちます。
2. 背面パネルのパドロックリングを通してパドロックを取り付けている場合は、パドロックを取り外します。
3. ミニタワーコンピュータの場合は、コンピュータの側面を下にして置きます。

メモ：スモールデスクトップコンピュータの場合、コンピュータカバーを開く前に、スタンドを取り外してください。ミニタワーコンピュータの場合、カバーを開く前にコンピュータの側面を下にして置きます。

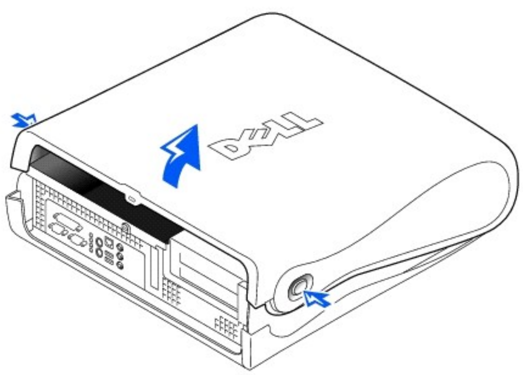
注意：コンピュータが机やテーブルの端に置いてある場合、カバーを開けないでください。その状態でカバーを開けると、コンピュータが傾いて落ちる場合があります。カバーを置いておくために、机またはテーブルの端から少なくとも30 cm離してコンピュータを設置してください。

4. カバーが自由に持ち上がるようになるまで、2つのリリースボタンを押します。

注意： ケーブルに損傷を与えないようにゆっくりとカバーを開きます。

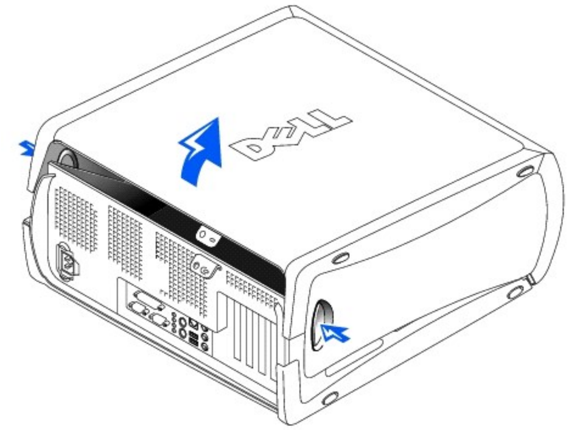
5. カバーの後部を持ち上げ、コンピュータの前方へ起こします。

スモールデスクトップコンピュータ

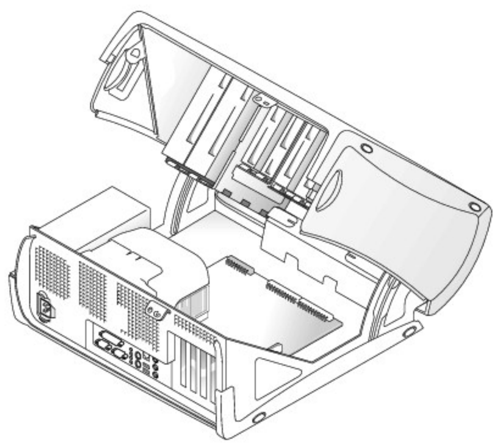


注意：ミニタワーコンピュータのシステム基板への損傷を防ぐため、45度で固定されるまでカバーを開きます。次に、取り外し可能メディアドライブデータケーブルとハードドライブデータケーブルの両方またはどちらか一方をシステム基板から取り外し、カバーを90度の角度まで開きます。

ミニタワーコンピュータ



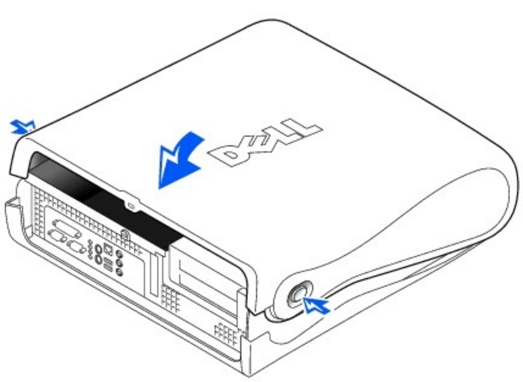
ミニタワーコンピュータ — カバーを45度の角度に開いた状態



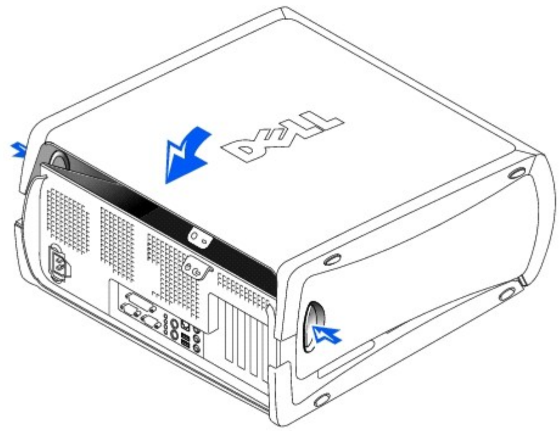
コンピュータカバーを閉じる

1. すべてのケーブル接続、特に作業中に緩んだと思われるケーブル接続を確認します。ケーブルは邪魔にならない場所に束ね、コンピュータカバーに挟まれないようにします。
2. コンピュータの内部に工具や余った部品（ネジなど）が残っていないか確認します。
3. スモールミニタワーコンピュータの場合、カバーを45度の角度に閉じ、取り外し可能メディアドライブデータケーブルとハードドライブケーブルの両方またはどちらか一方を接続します。
4. カバーをコンピュータ後部に向かって押し、所定の位置にはめ込んでコンピュータカバーを閉じます。リリースボタンが所定の位置にカチッとはまったことを確認します。

スモールデスクトップコンピュータ



ミニタワーコンピュータ



5. コンピュータのセキュリティのためにパドロックを使用している場合、パドロックを取り付けます。

[目次ページに戻る]

目次ページに戻る

Dell診断プログラム

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

- Dell診断プログラムを使用するとき
- Dell診断プログラムの起動

Dell診断プログラムを使用するとき

コンピュータに問題が発生した場合、Dellテクニカルサポートに問い合わせる前に、「問題の特定と解決方法」のチェックを実行し、Dell診断プログラムを実行してください。Dell診断プログラムを実行することによって、Dellに問い合わせなくても問題を解決できる場合があります。Dellに問い合わせる場合、テストの結果はDellのサポート担当者に重要な情報を提供します。

Dell診断プログラムでは、以下のことが可能です。

- 1つまたはすべてのデバイスのクイックテスト、全体テスト、またはカスタムテストの実行
- 起きている問題の症状に基いたテストの選択
- テストが実行される回数の選択
- テスト結果の表示
- エラーが検出された場合のテストの中断
- テストとデバイスについて説明したオンラインヘルプ情報へのアクセス
- テストが正常終了したかどうかを知らせるステータスメッセージの受信
- 問題が検出された場合のエラーメッセージの受信

Dell診断プログラムの起動

作業を始める前に、これらの手順を印刷しておくことをお勧めします。

注意： Dell診断プログラムは、Dell™コンピュータ専用です。このプログラムを別のコンピュータで使用すると、エラーメッセージが表示されます。

セットアップユーティリティを起動し、コンピュータの設定情報を閲覧して、テストするデバイスがセットアップユーティリティに表示され、アクティブであることを確認します。

ハードドライブまたは『Drivers and Utilities CD』(『ResourceCD』とも呼ばれます）からDell診断プログラムを開きます。

ハードドライブからのDell診断プログラムの起動

1. コンピュータをシャットダウンして、再起動します。
2. DELL™ロゴが表示されたらすぐに、<F12>を押します。

メモ： 診断プログラムユーティリティパーティションが検出されませんというメッセージを受信した場合、手順に従って『Drivers and Utilities CD』からDell診断プログラムを実行します。

ここで時間をおきすぎてMicrosoft® Windows®ロゴが表示されてしまったら、Windowsデスクトップが表示されるまで待ちます。次に、**スタート**メニューを介してコンピュータをシャットダウンし、再度試みます。

3. 起動デバイスの一覧が表示されたら、**Boot to Utility Partition**をハイライト表示し、<Enter>を押します。
4. Dell Diagnostics Main Menuが表示されたら、実行するテストを選びます。

『Drivers and Utilities CD』からのDell診断プログラムの起動

1. CDドライブに『Drivers and Utilities CD』を挿入します。
2. コンピュータをシャットダウンして、再起動します。

DELL™ロゴが表示されたらすぐに、<F12>を押します。

ここで時間をおきすぎてWindowsのロゴが表示されてしまったら、Windowsデスクトップが表示されるまで待ちます。次に、**スタート**メニューを介してコンピュータをシャットダウンし、再度試みます。

メモ： この機能は、起動順序を1回だけ変更します。次回の起動時には、コンピュータはセットアップユーティリティで指定したデバイスから起動します。

3. 起動デバイスの一覧が表示されたら、**IDE CD-ROM Device**をハイライト表示し、<Enter>を押します。
4. CDの起動メニューから**IDE CD-ROM Device**オプションを選びます。
5. 表示されたメニューから**Boot from CD-ROM**オプションを選びます。
6. 1 と入力してResourceCDメニューを起動します。
7. 2 と入力してDell診断プログラムを起動します。
8. 番号の付いた一覧から **Run the 32 Bit Dell Diagnostics**を選びます。複数のバージョンが表示されている場合、お使いのプラットフォームに該当するバージョンを選びます。

9. Dell Diagnostics Main Menuが表示されたら、実行するテストを選びます。

Dell診断プログラムのメインメニュー

1. Dell診断プログラムがロードされ**Main Menu**画面が表示されたら、希望のオプション用のボタンをクリックします。

メモ： お使いのコンピュータのサービスタグナンバーは、各テスト画面の一番上にあります。

オプション	機 能
Express Test	デバイスのクイックテストを実行します。通常このテストは10～20分かかり、お客様の操作は必要ありません。最初にExpress Testを実行すると、問題をすばやく特定できる可能性が増します。
Extended Test	デバイスの全体チェックを実行します。通常このテストは1時間以上かかり、質問に定期的に応答する必要があります。
Custom Test	特定のデバイスをテストします。実行するテストをカスタマイズできます。
Symptom Tree	検出した最も一般的な症状を一覧表示し、問題の症状に基いたテストを選択することができます。

2. テスト中に問題を検出すると、エラーコードと問題の説明を示すメッセージが表示されます。エラーコードと問題の説明を記録し、画面の指示に従います。

   エラーが解決できない場合、Dellにお問い合わせください。

3. **Custom Test**または**Symptom Tree**オプションからテストを実行する場合、以下の表でタブの詳細を確認し、適切なタブをクリックします。

タブ	機 能
Results	テストの結果、および発生したすべてのエラーの状態を表示します。
Errors	発生したエラーの状態、エラーコード、および問題の説明を表示します。
Help	テストについて説明します。また、テストを実行するための要件を示す場合もあります。
Configuration	選択したデバイスのハードウェア構成を表示します。 Dell診断プログラムは、セットアップユーティリティ、メモリ、および様々な内部テストからすべてのデバイスの設定情報を入手し、画面の左ペインのデバイス一覧に表示します。デバイス一覧には、コンピュータに取り付けられたすべてのコンポーネント名、またはコンピュータに接続されたすべてのデバイス名が表示されるとはかぎりません。
Parameters	テストの設定を変更してテストをカスタマイズすることができます。

4. テストが終了したら、『Drivers and Utilities CD』からDell診断プログラムを実行している場合、CDを取り出します。
5. テスト画面を閉じ、**Main Menu**画面に戻ります。Dell診断プログラムを終了しコンピュータを再起動するには、**Main Menu**画面を閉じます。

目次ページに戻る

目次ページに戻る

ドライブ

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

警告： 感電の恐れがあるので、コンピュータおよびすべてのデバイスの電源を切り、コンセントからプラグを抜きます。次に5秒以上待ってからコンピュータカバーを開きます。また、ドライブを取り付ける前に、「作業にあたっての注意」に示すその他の注意事項を参照してください。

注意： ESDによる損傷を防ぐため、コンピュータ背面の塗装されていない金属部分に触れて身体の静電気を逃がしてください。

1. ドライブを箱から出して、取り付けの準備をします。

   ドライブに付属のマニュアルを確認して、ドライブの設定がお使いのコンピュータに合っていることを確認します。必要に応じて、ドライブの設定を変更します。

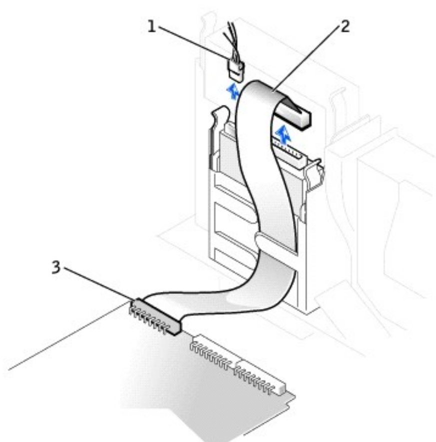
2. EIDEドライブを取り付ける場合は、ドライブをケーブルセレクトに設定します。

   通常は、ドライブの種類によりジャンパまたはスイッチをケーブルセレクトに設定してドライブを構成します。ケーブルセレクトの設定手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

フロッピードライブの取り外しと取り付け — スモールデスクトップコンピュータ

1. コンピュータカバーを開きます。
2. ドライブがすでにベイに取り付けられており、そのドライブを交換しようとしている場合は、ドライブとブラケットアセンブリを取り外す前に、ドライブ背面の電源ケーブルとフロッピードライブケーブルを取り外していることを確認します。

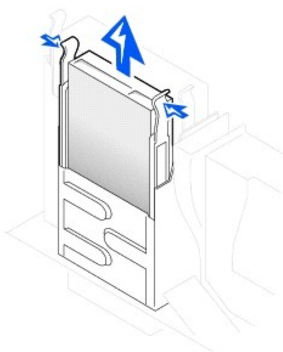
フロッピードライブケーブルの取り外し



1	電源ケーブル
2	フロッピードライブケーブル
3	フロッピードライブコネクタ

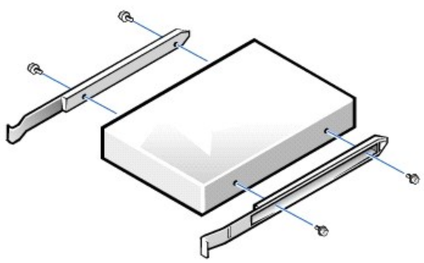
3. ドライブベイの両側にある2個のタブを内側へ押し込み、ブラケットをシャーシから外します。
4. ブラケットを引き上げ、シャーシから取り外します。

フロッピードライブの取り外し



5. 交換するドライブにブラケットレールが付いていない場合、各レールをドライブに固定している2本のネジを外して、レールを古いドライブから取り外します。

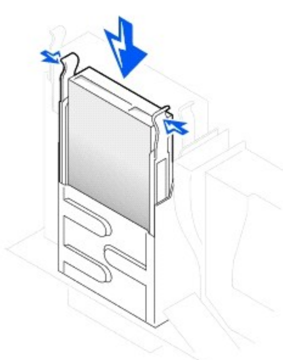
ドライブレールブラケットの取り外しと取り付け



6. ドライブのネジ穴とレールのネジ穴を合わせてから4本のネジをすべて締めて、ブラケットを新しいドライブに取り付けます。

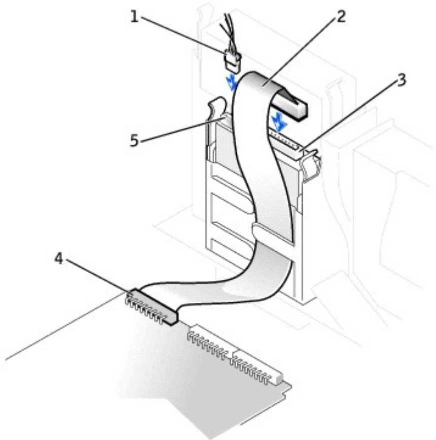
7. タブが所定の位置にカチッと確実に収まるまでブラケットを慎重にスライドさせて、3.5インチフロッピードライブおよびブラケットアセンブリをシャーシに取り付けます。

フロッピードライブの取り付け



8. 電源ケーブルとフロッピードライブケーブルをドライブのコネクタに接続します。
9. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータおよびデバイスをコンセントに再度接続してから電源を入れます。

フロッピードライブケーブルの取り付け

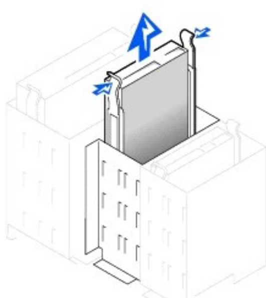


1	電源ケーブル	4	フロッピードライブコネクタ
2	フロッピーケーブル	5	電源コネクタ
3	フロッピーケーブルコネクタ		

フロッピードライブの取り外しと取り付け — ミニタワーコンピュータ

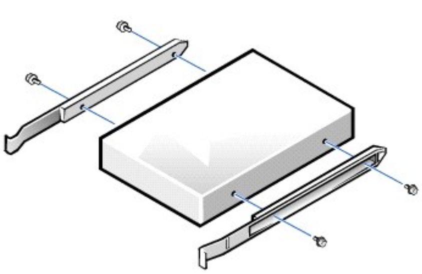
1. コンピュータカバーを開きます。
2. 電源ケーブルとフロッピードライブデータケーブルをドライブから取り外します。
3. ドライブベイの両側にある2個のタブを内側へ押し込み、ブラケットをシャーシから外します。
4. ドライブを引き上げ、コンピュータから取り外します。

フロッピードライブの取り外し



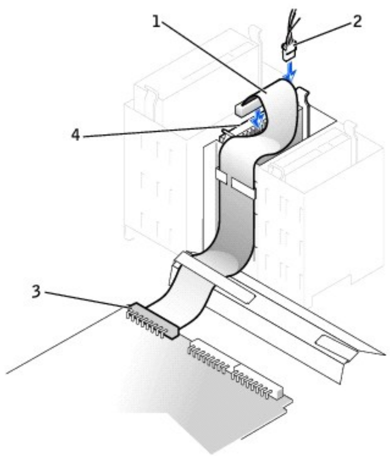
5. 交換するドライブにブラケットレールが付いていない場合、各レールをドライブに固定している2本のネジを外して、レールを古いドライブから取り外します。
6. ドライブのネジ穴とブラケットレールのネジ穴を合わせてから4本のネジをすべて締めて、ブラケットを新しいドライブに取り付けます。

ドライブレールブラケットの取り外しと取り付け



7. タブが所定の位置にカチッと確実に収まるまで、慎重にドライブを所定の位置にスライドします。
8. フロッピードライブデータケーブルを、フロッピードライブの背面に取り付けます。
9. 電源ケーブルをドライブの電源入力コネクタに接続します。
10. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータおよびデバイスをコンセントに再度接続してから電源を入れます。

フロッピードライブケーブルの取り付け

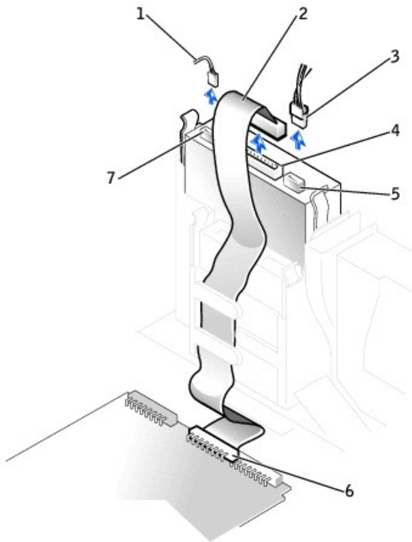


1	フロッピードライブケーブル	3	フロッピードライブコネクタ
2	電源ケーブル	4	フロッピードライブケーブルコネクタ

5.25インチ取り外し可能メディアドライブの取り外しと取り付け — スモールデスクトップコンピュータ

1. コンピュータカバーを開きます。
2. 取り外し可能メディアドライブデータケーブルをドライブから取り外します。
3. 電源ケーブルおよびオーディオケーブルをドライブから取り外します。

取り外し可能メディアドライブケーブルの取り外し



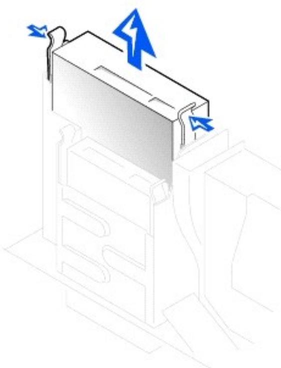
1	オーディオケーブル	5	電源ケーブルコネクタ

2	取り外し可能メディアドライブデータケーブル	6	取り外し可能メディアドライブコネクタ（IDE SEC）
3	電源ケーブル	7	オーディオケーブルコネクタ
4	データケーブルコネクタ		

4. ドライブベイの両側にある2個のタブを内側へ押し込み、ドライブをコンピュータから取り外します。

5. ドライブを引き上げ、コンピュータから取り外します。

取り外し可 能メディアドライブの取り外し

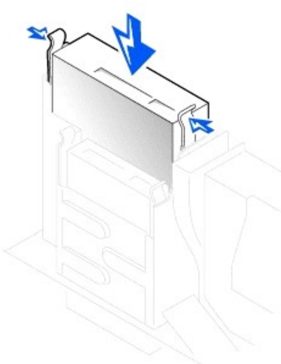


6. 交換するドライブにブラケットレールが付いていない場合、各レールをドライブに固定している2本のネジを外して、レールを古いドライブから取り外します。

7. ドライブのネジ穴とレールのネジ穴を合わせてから4本のネジをすべて締めて、レールを新しいドライブに取り付けます。

8. 新しいドライブを取り付ける場合、カバーの内側に取り付けてあるレールに接続します。

取り外し可 能メディアドライブの取り付け



9. タブが所定の位置にカチッと確実に収まるまでブラケットを慎重にスライドさせて、取り外し可能メディアドライブおよびブラケットアセンブリをシャーシに取り付けます。

10. 専用のコントローラカードが付いているドライブを取り付ける場合、コントローラカードは拡張スロットに取り付けます。

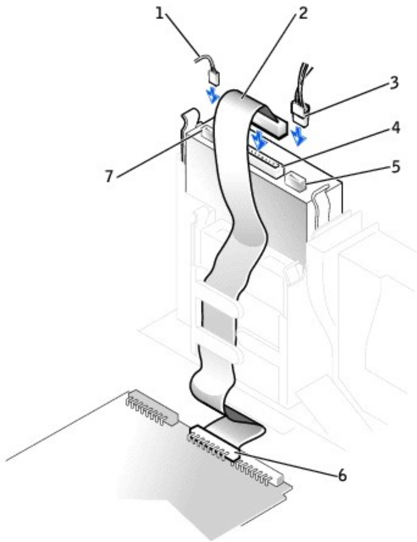
メモ： 2つの拡張カードが同じリソース（メモリ、I/Oアドレス、IRQ）を使用しようとすると、問題が発生する場合があります。この種類のコンフリクトを避けるため、詳細については、「割り込み割り当てコンフリクト」やカードに付属のマニュアルを参照してください。

11. 電源ケーブルをドライブ背面にある電源入力コネクタに接続します。

12. 適切なインタフェースケーブルをドライブ背面にあるインタフェースコネクタに接続します。

お使いのコンピュータにEIDE CDドライブが搭載されている場合、既存のインタフェースケーブルに付いている予備コネクタを使用します。それ以外の場合、ドライブキットに付属のIDEインタフェースケーブルを使用します。

取り外し可 能メディアドライブケーブルの取り付け



1	オーディオケーブル	5	電源ケーブルコネクタ
2	取り外し可能メディアドライブデータケーブル	6	取り外し可能メディアドライブコネクタ（IDE SEC）
3	電源ケーブル	7	オーディオケーブルコネクタ
4	データケーブルコネクタ		

13. ドライブの種類により、システム基板またはコントローラカードにインタフェースケーブルを接続します。
    - CDドライブの場合、インタフェースケーブルのもう一方の端をシステム基板の「IDE SEC」とラベルされたインタフェースコネクタに接続します。
    - 専用コントローラカードが付いているドライブの場合、インタフェースケーブルのもう一方の端をコントローラカードに接続します。
14. すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通風孔の妨げにならないようにケーブルをまとめておきます。
15. それまで取り外し可能メディアドライブベイに何も取り付けていなかった場合、正面パネルからドライブベイカバーを取り外します。
16. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータおよびデバイスをコンセントに再度接続してから電源を入れます。
17. 設定情報を更新します。
18. Dell診断プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作することを確認します。

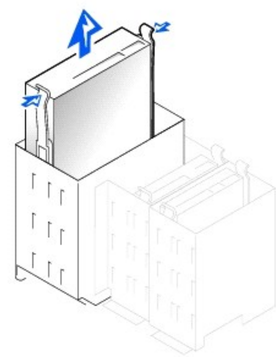
5.25インチ取り外し可能メディアドライブの取り外しと取り付け — ミニタワーコンピュータ

取り外し可能メディアドライブおよびブラケットアセンブリを取り付ける場合、次の手順を実行します。ブラケットレールが付いていない新しいドライブを取り付ける場合、カバーの内側に取り付けてあるレールに接続します。

メモ： ミニタワーコンピュータ内のブラケットにネジが付いていない場合、Dellにお問い合わせください。Dellへのお問い合わせの詳細については、「困ったときは」を参照してください。

1. コンピュータカバーを開きます。
2. 取り外し可能メディアドライブデータケーブルを取り外し可能メディアドライブから取り外します。
3. 取り外し可能メディアドライブ電源ケーブルとオーディオケーブルを取り外し可能メディアドライブから取り外します。
4. ドライブベイの両側にある2個のタブを内側へ押し込み、ドライブをコンピュータから取り外します。

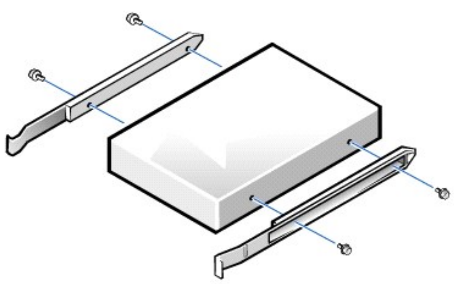
取り外し可能メディアドライブの取り外し



5. ドライブを引き上げ、コンピュータから取り外します。

6. 交換するドライブにブラケットレールが付いていない場合、各レールをドライブに固定している2本のネジを外して、レールを古いドライブから取り外します。

ドライブブラケットレールの取り外しと取り付け



7. ドライブのネジ穴とブラケットレールのネジ穴を合わせてから4本のネジをすべて締めて、ブラケットを新しいドライブに取り付けます。

8. タブが所定の位置に確実にカチッと収まるまで慎重にドライブをスライドさせて、取り外し可能メディアドライブおよびブラケットアセンブリをコンピュータに取り付けます。

9. 専用のコントローラカードが付いているドライブを取り付ける場合、コントローラカードは拡張スロットに取り付けます。

メモ： 2つの拡張カードが同じリソース（メモリ、I/Oアドレス、IRQ）を使用しようとすると、問題が発生する場合があります。この種類のコンフリクトを避けるため、詳細については、「割り込み割り当てコンフリクト」やカードに付属のマニュアルを参照してください。

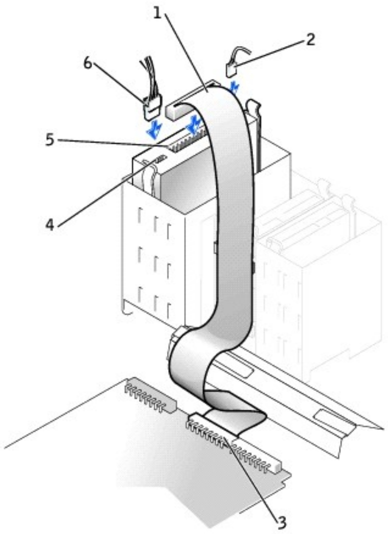
10. 取り外し可能メディアドライブ電源ケーブルとオーディオケーブルを、取り外し可能メディアドライブに接続します。

11. 取り外し可能メディアドライブデータケーブルを取り外し可能メディアドライブに取り付けます。

    コンピュータにIDE CDドライブが搭載されている場合、既存のインタフェースケーブルに付いている予備コネクタを使用します。それ以外の場合、ドライブキットに付属のIDEインタフェースケーブルを使用します。

12. それまで取り外し可能メディアドライブベイに何も取り付けていなかった場合、正面パネルからドライブベイカバーを取り外します。

取り外し可 能メディア ドライブケーブルの取り付け



1	取り外し可能メディアドライブデータケーブル	4	電源ケーブルコネクタ
2	オーディオケーブル	5	データケーブルコネクタ
3	取り外し可能メディアドライブコネクタ（IDE SEC）	6	電源ケーブル

メモ： 2台目の取り外し可能メディアドライブを取り付ける場合、ケーブルをフロッピードライブベイの側面にあるプラスチック製のクリップを通して配線しないでください。

13. コンピュータカバーを閉じます。

ハードドライブの取り外しと取り付け — スモールデスクトップコンピュータ

警告：感電の恐れがあるので、コンピュータおよびすべてのデバイスの電源を切り、コンセントからプラグを抜きます。次に5秒以上待ってからコンピュータカバーを開きます。また、ドライブを取り付ける前に、「作業にあたっての注意」に示すその他の注意事項を参照してください。

1. 残しておきたいデータを保存しているハードドライブを交換する場合、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。

注意： コンピュータ背面の塗装されていない金属面に触れて、身体から静電気を逃がしてください。

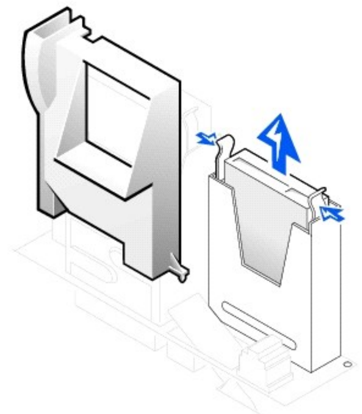
注意： ドライブを梱包から取り出すときは、ドライブが損傷する恐れがあるので表面が硬いものの上に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

2. ドライブを箱から出して、取り付けの準備をします。

   ドライブのマニュアルを参照し、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されていることを確認します。

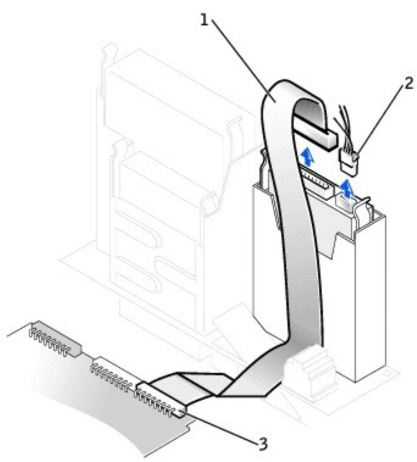
3. コンピュータカバーを開きます。
4. ハードドライブカバー上部にあるインデントタブを押し込みながらカバーを持ち上げるようにして、ハードドライブに被さっているプラスチック製のカバーを取り外します。

ハードドライブカバーとハードドライブの取り外し



5. 電源ケーブルとハードドライブデータケーブルをドライブから外します。

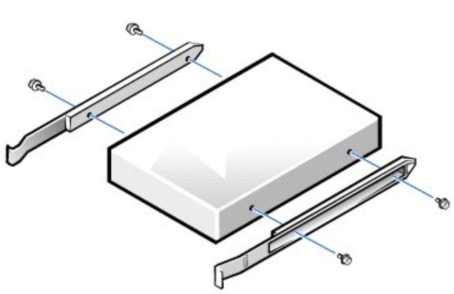
ハードドライブケーブルの取り外し



1	ハードドライブデータケーブル
2	電源ケーブル
3	ハードドライブコネクタ（IDE PRI）

6. シャーシからドライブブラケットを取り外します。
   a. すでにドライブブラケットにハードディスクドライブが取り付けられている場合、電源ケーブルとインタフェースケーブルを取り外します。
   b. ブラケットの両側のタブを押し込んでから、ブラケットを持ち上げて外します。
7. 交換するドライブにブラケットレールが付いていない場合、各レールをドライブに固定している2本のネジを外して、レールを古いドライブから取り外します。

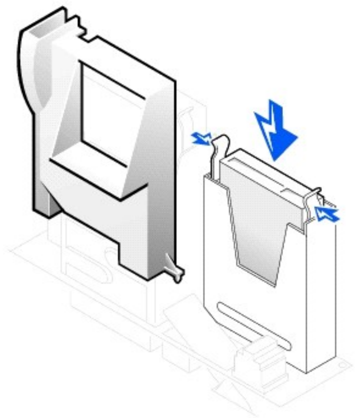
ドライブブラケットレールの取り外しと取り付け



8. ドライブとブラケットの4つのネジ穴を合わせ、アップグレードキットに付属のネジを差し込んで締めて、ブラケットレールを新しいハードドライブに取り付けます。

9. ハードドライブブラケットが所定の位置にカチッと収まるまで慎重にブラケットを押し込んで、シャーシに取り付けます。

ハードドライブの取り付け

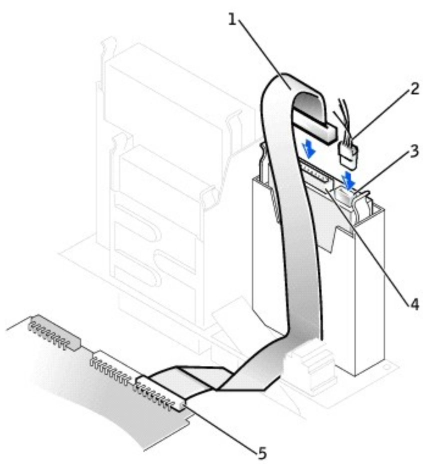


注意： コンピュータへの損傷を防ぐため、IDEケーブルの色帯をドライブのインタフェースコネクタの1番ピンに合わせてください。

10. 電源ケーブルをドライブの電源コネクタに接続し、ハードドライブデータケーブルをハードドライブに接続します。

すべてのコネクタが正しく接続され、しっかりと固定されていることを確認します。

ハードドライブケーブルの取り付け



1	ハードドライブデータケーブル	4	ハードドライブデータケーブルコネクタ
2	電源ケーブル	5	ハードドライブコネクタ（IDE PRI）
3	電源ケーブルコネクタ		

11. まだ接続していない場合、ハードドライブケーブルのもう一方の端をシステム基板のIDE PRI コネクタに接続します。

12. 底部の2つのタブをシャーシの穴に入れ、上端を所定の位置にカチッと収めて、ドライブを覆うプラスティック製のカバーを取り付けます。

13. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータおよびデバイスをコンセントに再度接続してから電源を入れます。

14. 取り付けたドライブがプライマリドライブの場合、起動フロッピーをドライブAに挿入します。

15. コンピュータの電源を入れます。

16. セットアップユーティリティを起動し、適切な**Primary Drive**オプション（**0**または**1**）をアップデートします。

セットアップユーティリティの詳細については、「システム設定」を参照してください。

17. シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

18. コンピュータを再起動します。

19. 次の手順に進む前に、コンピュータのハードドライブにパーティションを作成し、論理フォーマットを実行します。

パーティションとフォーマットの手順については、お使いのオペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

20. Dell診断プログラムを実行して、ハードドライブをテストします。

詳細については、「問題の解決」を参照してください。

21. 取り付けたドライブがプライマリドライブの場合、そのハードドライブにオペレーティングシステムをインストールします。

手順については、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

ハードドライブの取り外しと取り付け — ミニタワーコンピュータ

1. 残しておきたいデータを保存しているハードドライブを交換する場合、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。

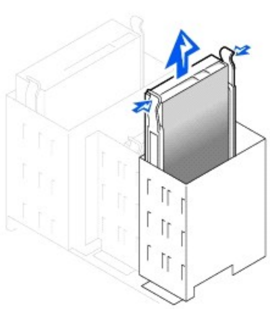
2台目のハードドライブを取り付ける際は、「2台目のハードドライブの追加」を参照してください。

注意： シャーシ背面の塗装されていない金属面に触れて、身体から静電気を逃がしてください。

注意： ドライブを梱包から取り出すときは、ドライブが損傷する恐れがあるので表面が硬いものの上に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

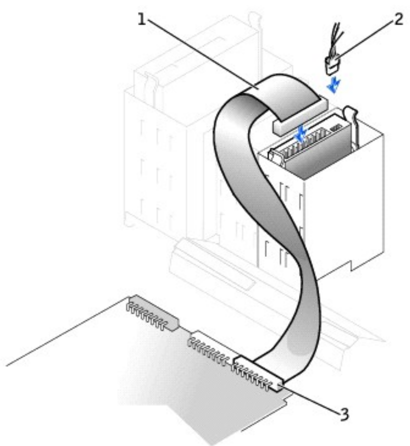
2. ドライブを箱から出して、取り付けの準備をします。
3. ドライブのマニュアルを参照し、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されていることを確認します。
4. コンピュータカバーを開きます。

ハードドライブの取り外し



5. 電源ケーブルとハードドライブデータケーブルをドライブから外します。

ハードドライブケーブルの取り外し



1	ハードドライブデータケーブル
2	電源ケーブル
3	ハードドライブコネクタ（IDE PRI）

6. ブラケットの両側のタブを押し込み、ブラケットを持ち上げて取り外します。

7. 交換するドライブにブラケットレールが付いていない場合、各レールをドライブに固定している2本のネジを外して、レールを古いドライブから取り外します。

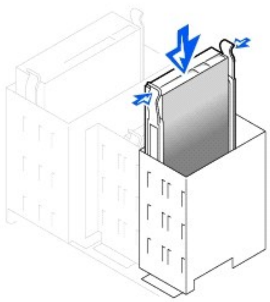
注意： 静電気放出(ESD)による損傷を防ぐため、シャーシ背面の塗装されていない金属部分に触れて身体の静電気を逃がしてください。

注意： ドライブを梱包から取り出すときは、ドライブが損傷する恐れがあるので表面が硬いものの上に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

8. 必要に応じて、ドライブとブラケットの4つのネジ穴を合わせて、アップグレードキットに付属のネジを差し込んで締め、ブラケットレールを新しいハードドライブに取り付けます。

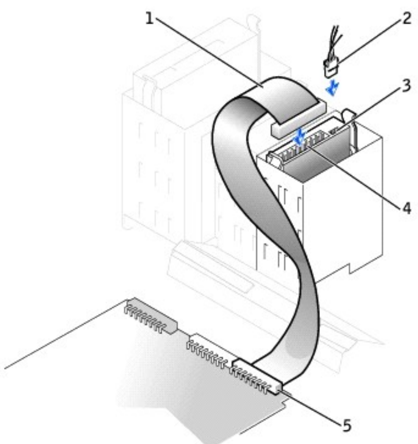
9. ハードドライブブラケットが所定の位置にカチッと収まるまで、慎重にブラケットを押し込んでシャーシに取り付けます。

ハードドライブの取り付け



10. 電源ケーブルをドライブ背面の電源コネクタに接続し、ハードドライブデータケーブルをドライブのコネクタに接続します。

ハードドライブケーブルの取り付け



1	ハードドライブデータケーブル	4	ハードドライブデータケーブルコネクタ
2	電源ケーブル	5	ハードドライブコネクタ（IDE PRI）
3	電源ケーブルコネクタ		

11. すべてのコネクタが正しく接続され、しっかりと固定されていることを確認します。

注意： コンピュータへの損傷を防ぐため、IDEインタフェースケーブルの色帯をドライブのインタフェースコネクタの1番ピン、およびシステム基板のIDEインタフェースコネクタ（IDE PRIとラベルされている）に合わせてください。

12. まだ接続していない場合、IDEケーブルのもう一方の端をシステム基板のIDE1コネクタに接続します。

13. コンピュータカバーを閉じます。

14. 取り付けたドライブがプライマリドライブの場合、起動システムフロッピーディスクをフロッピードライブに挿入します。

15. コンピュータの電源を入れます。

16. セットアップユーティリティを起動し、適切な**Primary Drive**オプション（**0**または**1**）をアップデートします。

セットアップユーティリティの詳細については、「システム設定」を参照してください。

17. シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

18. コンピュータを再起動します。

19. 次の手順に進む前に、コンピュータのハードドライブにパーティションを作成し、論理フォーマットを実行します。

    パーティションとフォーマットの手順については、お使いのオペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

20. Dell診断プログラムを実行して、ハードドライブをテストします。

    詳細については、「問題の特定と解決方法」を参照してください。

21. 取り付けたドライブがプライマリドライブの場合、そのハードドライブにオペレーティングシステムをインストールします。

    手順については、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

2台目のハードドライブの追加

注意： シャーシ背面の塗装されていない金属面に触れて、身体から静電気を逃がしてください。

注意： ドライブを梱包から取り出すときは、ドライブが損傷する恐れがあるので表面が硬いものの上に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

1. ドライブを箱から出して、取り付けの準備をします。

2. ドライブのマニュアルを参照し、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されていることを確認します。

3. コンピュータカバーを開きます。

4. ハードドライブベイの内側にある2本の緑色のプラスチック製のレールを取り外します。

   これらのレールは、ハードドライブベイの内側にネジを使って取り付けられていません。レールを取り外すには、慎重にレールをベイから引き上げます。

5. レールに付いている2本のネジを使って、レールをハードドライブに取り付けます。

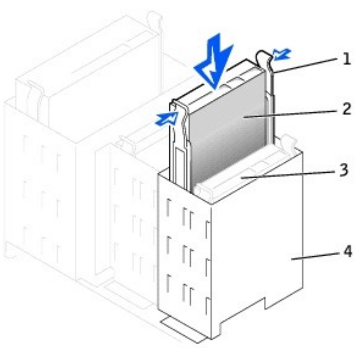
   レールのタブがハードドライブの背面に位置していることを確認します。

注意： 緑色のドライブレールをハードドライブケージの内側から取り外すまで、ドライブを下段のハードドライブベイに取り付けないでください。

6. 1台目のハードドライブを上段のベイから取り外し、それを下段のベイに取り付けます。
   a. 電源ケーブルおよびデータケーブルを1台目のハードドライブの背面から取り外します。
   b. 2つの緑色のレールタブを押し込み、1台目のハードドライブを上段のベイから引き出します。
   c. カチッという音が聞こえるまで、慎重に1台目のハードドライブを下段のベイに押し込みます。
   d. 電源ケーブルおよびデータケーブルをハードドライブの背面に取り付けなおします。

7. カチッという音が聞こえるまで、慎重に新しいハードドライブを上段のベイに押し込みます。

2台目のハードドライブの取り付け



1	レールタブ(2)
2	上段のベイの2台目のハードドライブ
3	下段のベイの1台目のハードドライブ
4	ハードドライブケージ

注意： ケーブルの色帯をドライブの1番ピンに合わせます。

8. 1台目のハードドライブに接続されているドライブケーブルの予備のコネクタを探し、そのコネクタを2台目のハードドライブに接続します。

   詳細については、「IDEドライブのアドレス指定」を参照してください。

IDEドライブのアドレス指定

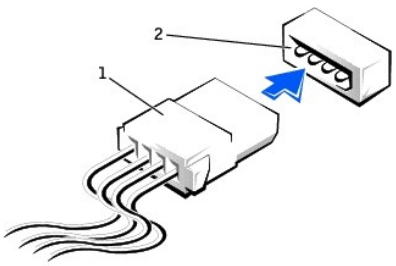
すべてのIDEデバイスは、ケーブルセレクト設定をおこなう必要があります。インタフェースケーブル上でのデバイスの位置によって、マスタとスレーブのステータスがデバイスに割り当てられます。通常は、ドライブの種類によりジャンパまたはスイッチをケーブルセレクトに設定してドライブを構成します。デバイスのケーブルセレクト設定の方法については、アップグレードキットに付属しているドライブのマニュアルを参照してください。1本のIDEインタフェースケーブルに2台のIDEデバイスを接続し、ケーブルセレクト設定をおこなう場合、インタフェースケーブル上の末端のコネクタに接続されたデバイスが、マスタまたは起動デバイス（ドライブ0）となり、ケーブル上の中間のコネクタに接続されたデバイスがスレーブデバイス（ドライブ1）となります。

システム基板にはIDEインタフェースコネクタが2つ搭載されているので、IDEデバイスを2台まで取り付けることができます。IDEハードドライブは、「IDE PRI」とラベルされたIDEインタフェースコネクタに接続する必要があります。（取り外し可能メディアドライブは、必ず「IDE SEC」とラベルされたIDEインタフェースコネクタに接続してください。）

ドライブの接続

ドライブを取り付ける場合、2本のケーブル（DC電源ケーブルとインタフェースケーブル）をドライブの背面に接続します。ドライブの電源入力コネクタ（DC電源ケーブルの接続先）は、次のようになっています。

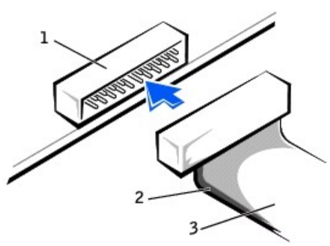
電源ケーブルコネクタ



1	電源ケーブル
2	電源入力コネクタ

ドライブのインタフェースコネクタは、次の図のようなカードエッジコネクタまたはヘッダコネクタです。

ドライブインタフェースコネクタ



1	ヘッダコネクタ
2	ケーブルの色帯
3	インタフェースケーブル

インタフェースケーブルをドライブに接続する場合、ドライブのインタフェースコネクタの1番ピンとインタフェースケーブルの色帯を必ず合わせてください。ドライブのインタフェースコネクタの1番ピンの位置については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

インタフェースケーブルをシステム基板から外す場合、ケーブルコネクタのロックタブを押し込でから、インタフェースケーブルを外します。インタフェースケーブルをシステム基板に取り付ける場合、ロックタブがカチッと音がして所定の位置に収まり、ケーブルがシステム基板上のコネクタにしっかりと取り付けられていることを確認します。

インタフェースコネクタは、正しく接続されるように設計されています。つまり、片方のコネクタの切り込みやピンの欠けが、もう一方のコネクタのタブや差し込み穴と一致します。これらのコネクタによって、ケーブルの1番ピンワイヤ（ケーブルの片側に色帯が付いています）が、コネクタの1番ピンの端に正しく接続されます。基板またはカード上にあるコネクタの1番ピンの端を表すために、通常、基板やカード上に「1」と直接シルクスクリーン印刷されています。

注意： インタフェースケーブルを接続する場合、インタフェースケーブルを裏返しにしないでください（色帯をインタフェースコネクタの1番ピンの反対側にしないでください）。インタフェースケーブルを裏返しにするとドライブが動作しなかったり、コントローラやドライブ、またはその両方を損傷する恐れがあります。

目次ページに戻る

目次ページに戻る

快適な使い方

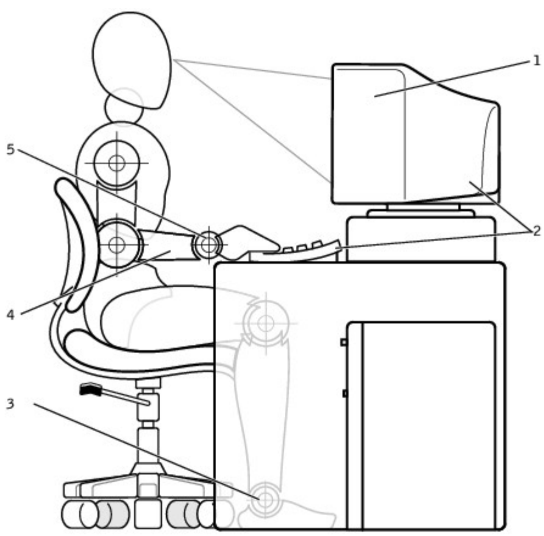
Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

⚠ **警告：無理な姿勢で長時間キーボードを使用すると、身体に悪影響を及ぼす可能性があります。**

⚠ **警告：モニタ画面を長時間見続けると、眼精疲労の原因となる場合があります。**

コンピュータを快適に効率よく使用するために、システムの設置と使用に関しては、以下の注意事項を守ってください。

- 作業中は、モニタとキーボードが身体の正面にくるようにシステムを配置します。キーボードの位置を調節できる専用の棚が販売されています。
- モニタを使用する場合は、目が疲れないようにモニタとの距離を調整します（通常は510～610 mm）。
- モニタの正面に座ったときに、画面が目の高さかそれよりも少し下になるように設置します。
- モニタの角度、コントラスト、輝度、および周囲の照明（天井の照明、卓上ライト、周囲の窓にかかっているカーテンやブラインド）を調整し、モニタ画面の反射を最小限に抑えます。
- しっかりとした背もたれの付いた椅子を使用します。
- キーボードやマウスを使用する際は、前腕部と手首を水平にし、リラックスした快適な位置に保ちます。
- キーボードやマウスを使用する際に、手を休めることができるスペースを確保します。
- 上腕部は身体の横に自然に下ろします。
- 足の裏を床につけ、太ももを床と平行にし、背筋を伸ばして座ります。
- 椅子に座っているときは、足の重さが椅子のシートではなく足の裏にかかるようにします。必要に応じて、椅子の高さを調節したり足台を使用して正しい姿勢を維持します。
- 作業に変化を持たせるようにします。長時間続けてタイプしないようにします。タイプしていないときはなるべく両手を使う作業をおこなうようにします。



1	モニタは目線以下に設置する	4	腕は机と同じ高さにする
2	モニタおよびキーボードはユーザーの正面に設置する	5	手首はリラックスさせて水平にする
3	足の裏は床にしっかりとつける		

目次ページに戻る

目次ページに戻る

静電気障害への対処

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

静電気は、コンピュータ内部のデリケートな部品を損傷する恐れがあります。静電気による損傷を防ぐため、マイクロプロセッサなどのコンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を逃がしてください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を逃がすことができます。

コンピュータ内部の作業を続ける間も定期的に塗装されていない金属面に触れて、身体内に蓄積した静電気を逃がしてください。

さらに、ESDによる損傷を防ぐため、次の手順を実行することをお勧めします。

- 静電気に敏感な部品を出荷用梱包から取り出す場合は、コンピュータに部品を取り付ける用意ができるまで、その部品を静電気防止梱包材から取り出さないでください。静電気防止パッケージを開梱する直前に、必ず身体から静電気を逃がしてください。
- 静電気に敏感な部品を運ぶ場合は、最初に静電気防止容器またはパッケージに入れてください。
- 静電気に敏感な部品の取り扱いは、静電気のない場所でおこないます。可能であれば、静電気防止用のフロアパッドと作業台パッドを使用してください。

目次ページに戻る

[目次ページに戻る]

拡張カード

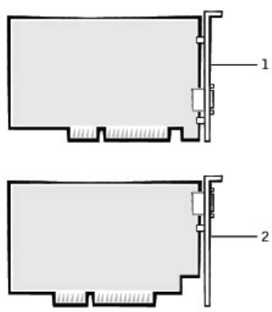
Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

お使いのコンピュータの拡張スロットには、以下のカードを搭載できます。

- スモールデスクトップコンピュータには、32ビット、33 MHzのPCIカードを最大2枚。
- ミニタワーコンピュータには、32ビット、33 MHzのPCIカードを最大4枚。
- 32ビットAGPカード1枚。拡張スロットは1.5 VでのAGP 4倍速（スモールデスクトップコンピュータのロープロファイル）をサポートします。

メモ： PC99 Workstation要件を満たすため、Dell™ コンピュータはISA拡張カードに対応していません。このことは、使いやすいという理由で業界の標準になっています。

拡張カードのタイプ

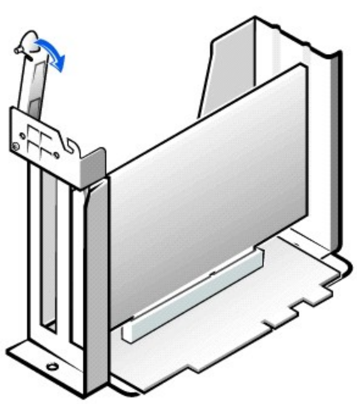


1	32ビットPCI カード
2	AGP 4倍速カード

メモ： AGP拡張スロットは1.5 V信号を使用するカードのみに対応しています。

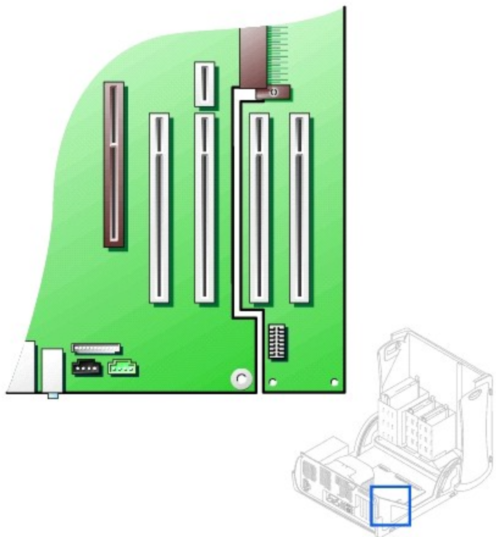
スモールデスクトップコンピュータ





メモ： カードケージの取り外しに関する情報は、「拡張カードケージ（スモールデスクトップコンピュータのみ）」を参照してください。

ミニタワーコンピュータ



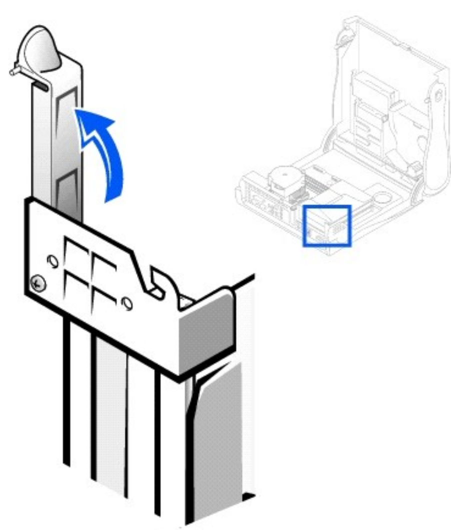
拡張カードの取り付け

警告：この手順を実行する前に、「作業にあたっての注意」を参照してください。

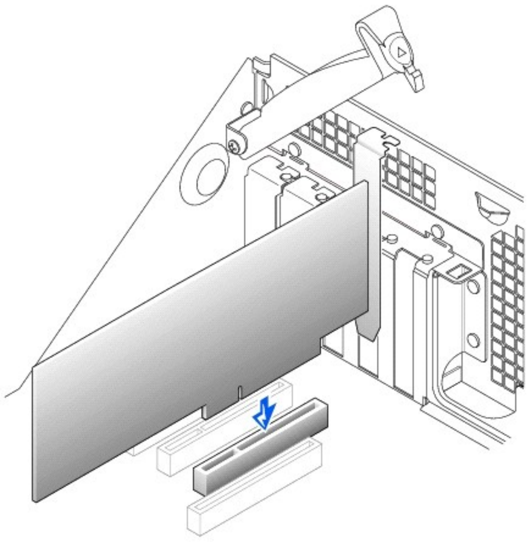
注意： コンピュータをコンセントから外した後10～20秒待ってから、コンピュータからデバイスを取り外してください。システム基板上のスタンバイ電源ライトがオフになっていることを確認してから、システム基板からコンポーネントを取り外してください。このライトの位置を確認するには、「システム基板のコンポーネント」のイラストを参照してください。

1. 拡張カードを交換する場合、拡張カード用の現在のドライバをオペレーティングシステムから削除します。
2. コンピュータとデバイスの電源をオフにし、それらをコンセントから抜いて10～20秒待ちます。
3. コンピュータカバーを開きます。
4. 拡張カード保持アームのレバーを押し、保持アームを持ち上げます。

拡張カード保持アーム — スモールデスクトップコンピュータ



拡張カード保持アーム — ミニタワーコンピュータ



5. 新しい拡張カードを取り付ける場合、空のカードスロット開口部用のフィラーブラケットを取り外します。 次に手順6に進みます。

6. 既にコンピュータに取り付けられている拡張カードを交換する場合、拡張カードを取り外します。

   必要に応じて、カードに接続されているすべてのケーブルを外します。次にカードの上端を持って、コネクタから取り外します。

7. 新しい拡張カードを取り付ける準備をします。

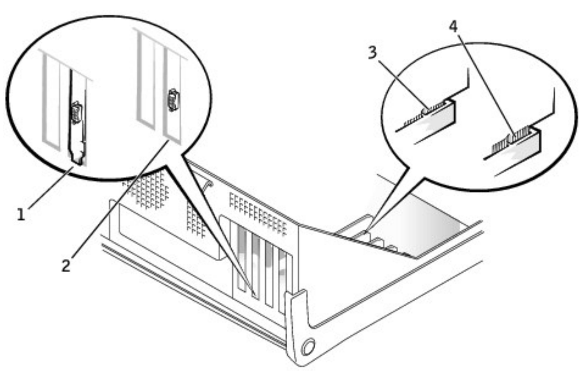
   カードの設定、内部の接続、またはコンピュータに合わせたカスタマイズの情報については、拡張カードに付属のマニュアルを参照してください。

⚠ **警告 : ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。 感電防止のため、拡張カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いて、システム基板のスタンバイ電源ライトが消えていることを確認してください。 このライトの位置を確認するには、「システム基板のコンポーネント」のイラストを参照してください。**

8. 拡張カードを拡張カードコネクタに挿入し、しっかりと下に押します。 カードがスロットにしっかりと装着されていることを確認します。

   フルレングスの拡張カードの場合、カードをシステム基板のコネクタの方へ下げながら、カードの端を拡張カードガイドブラケットに差し込みます。 カードをシステム基板の拡張カードコネクタにしっかりと挿入します。

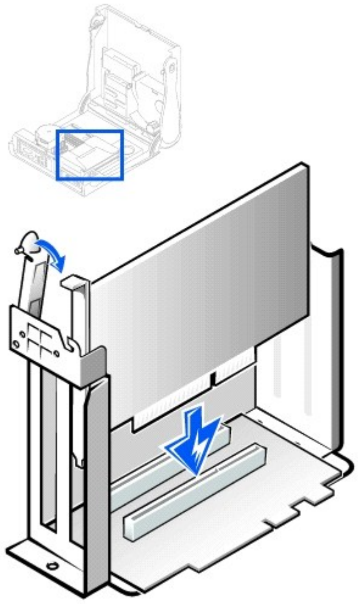
拡張カードコネクタ



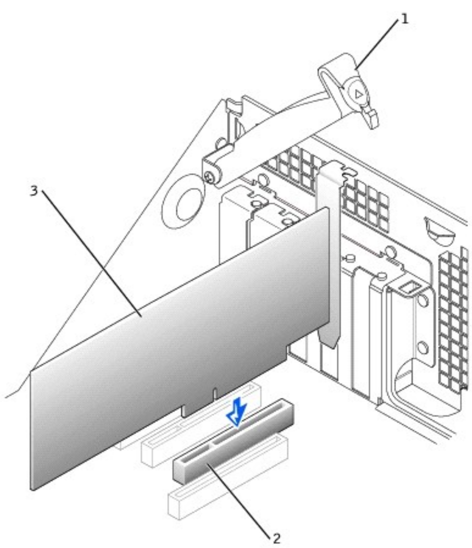
1	スロットの外側にはみ出したブラケット
2	スロット内のブラケット
3	カードが完全に装着された状態
4	カードが完全に装着されていない状態

9. 保持アームを下げる際は、すべての拡張カードとフィラーブラケットが位置合わせバーとぴったり揃っていることを確認します。 アームを所定の位置に押し、拡張カードをコンピュータに固定します。

拡張カードの取り付け — スモールデスクトップコンピュータ



拡張カードの取り付け — ミニタワーコンピュータ



1	カード保持アーム
2	カードコネクタ
3	拡張カード

10. 拡張カード保持アームを下ろして所定の位置に押し込み、拡張カードをシャーシに固定します。
11. 必要なケーブルをカードに接続します。

    カードのケーブル接続については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

注意： 拡張カードケーブルは、拡張カードの上や後ろを通して配線しないでください。 ケーブルを拡張カードの上に配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

12. コンピュータカバーを閉じます。

13. コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。
14. セットアップユーティリティを起動し、新しい拡張カードを有効にします。

メモ: **Chassis Intrusion**オプションが有効な場合、次のコンピュータ起動時に以下のメッセージが表示されます。

`Alert! Cover was previously removed.`（警告！カバーが取り外されました。）

サウンドカードを取り付ける場合、次の手順を実行します。

a. セットアップユーティリティを起動し、**Integrated Devices (LegacySelect)**を選択してから、**Sound**の設定を**Off**に変更します。
b. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、システムの背面パネルのマイクコネクタ、スピーカー／ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタに接続しないでください（「背面パネルのコネクタ」を参照）。

アドインネットワークアダプタを取り付ける場合、次の手順を実行します。

a. セットアップユーティリティを起動し、**Integrated Devices (LegacySelect)**を選択してから、**Network Interface Card**の設定を**Off**に変更します。
b. ネットワークケーブルをアドインネットワークアダプタのコネクタに接続します。ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵コネクタに接続しないでください（「背面パネルのコネクタ」を参照）。

15. 拡張カード用の適切なドライバをインストールします。

拡張カードの取り外し

警告：この手順を実行する前に、「作業にあたっての注意」を参照してください。

注意： コンピュータをコンセントから外した後10～20秒待ってから、コンピュータからデバイスを取り外してください。システム基板上のスタンバイ電源ライトがオフになっていることを確認してから、システム基板からコンポーネントを取り外してください。このライトの位置を確認するには、「システム基板のコンポーネント」のイラストを参照してください。

1. コンピュータとデバイスの電源をオフにし、それらをコンセントから抜いて10～20秒待ちます。
2. コンピュータカバーを開きます。
3. 拡張カード保持アームのレバーを押し、保持アームを持ち上げます（コンピュータ拡張カード保持アームのイラストのを参照）。
4. 必要に応じて、カードに接続されたケーブルを外します。
5. カードの上端の角をつかみ、コネクタから引き抜きます。
6. カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

フィラーブラケットが必要な場合、Dellにお問い合わせください。

メモ： コンピュータのFCC認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

7. 拡張カード保持アームを下ろして所定の位置に押し込み、拡張カードをシャーシに固定します。
8. コンピュータカバーを閉じます。
9. コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。
10. オペレーティングシステムから拡張カードのドライバをアンインストールします。

メモ： **Chassis Intrusion**オプションが有効な場合、次のコンピュータ起動時に以下のメッセージが表示されます。

`Alert! Cover was previously removed.`（警告！カバーが取り外されました。）

11. セットアップユーティリティを起動し、拡張カードを無効にします。

サウンドカードを取り外す場合、次の手順を実行します。

a. セットアップユーティリティを起動し、**Integrated Devices**を選択してから、**Sound**の設定を**On**に変更します。
b. 外付けオーディオデバイスを、コンピュータ背面パネルのオーディオコネクタに接続します（「背面パネルのコネクタ」を参照）。

アドインネットワークアダプタを取り外す場合、次の手順を実行します。

a. セットアップユーティリティを起動し、**Integrated Devices (LegacySelect)**を選択してから、**Network Interface Card**の設定を**On**に変更します。
b. ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵コネクタに接続します（「背面パネルのコネクタ」を参照）。

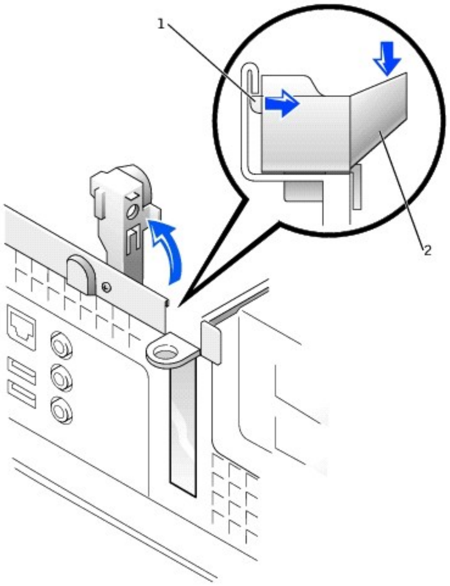
AGPグラフィックカードの取り付け

メモ： スモールデスクトップコンピュータは、ロープロファイルAGPカードをサポートします。

1. コンピュータカバーを開きます。
2. ヒンジレバーを持ち上げてからフィラーブラケットを引き上げて、ブラケットを上にスライドします。

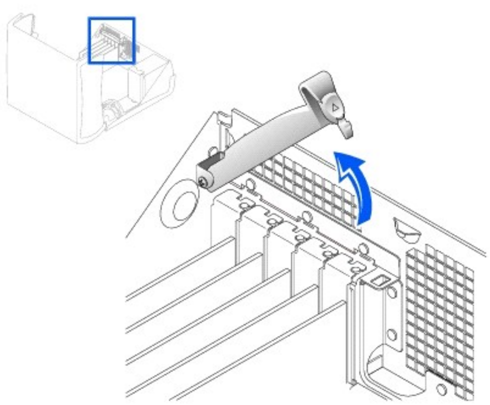
スモールデスクトップコンピュータの場合、タブが外れるまで親指を使って、インデントをシステム基板の方へ斜めに押します。レバーをつかんだまま持ち上げます。

AGPスロットフィラーブラケットの取り外し — スモールデスクトップシャーシ



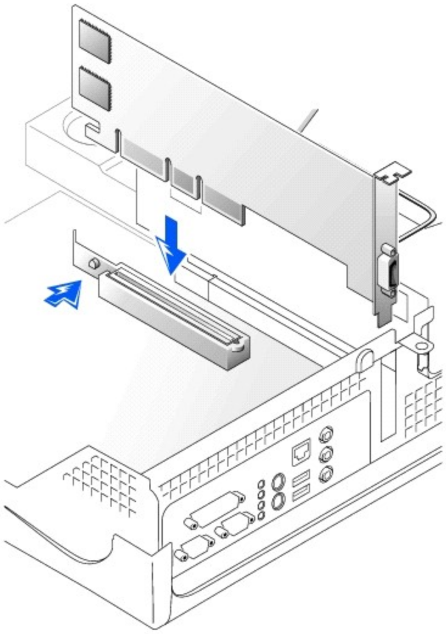
1	タブ
2	インデント

AGPスロットフィラーブラケットの取り外し — ミニタワーシャーシ



3. AGPカードクリップレバーをPCIスロット1の方へ押します。
4. AGPカードを所定の位置に押し込みます。

AGPカードの取り付け



5. AGPカードクリップレバーのタブがAGPカード上の正面角の切り込みとかみ合っていることを確認して、AGPカードクリップレバーを離します。
6. 背面パネル上の固定レバーを下げて、AGPカードを固定します。
7. コンピュータカバーを閉じます。

AGPカードの取り外し

1. コンピュータ背面のヒンジレバーを持ち上げます。
2. AGPカードクリップのレバーをPCIスロット1の方へ押します。
3. AGPカードを引き上げてAGPカードクリップから取り出します。

目次ページに戻る

[目次ページに戻る]

拡張カードケージ(スモールデスクトップコンピュータのみ)

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

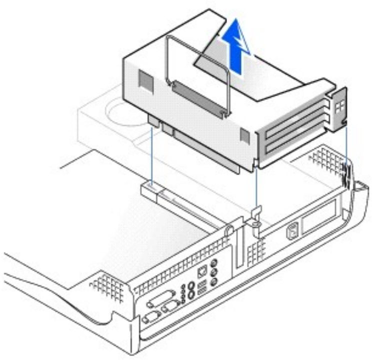
スモールデスクトップコンピュータのPCIライザボードには、PCI拡張カードスロットが2つあります。

拡張カードケージの取り外し

⚠ **警告:この手順を実行する前に、「作業にあたっての注意」を参照してください。**

1. コンピュータカバーを開きます。
2. 背面パネルの開口部を通して拡張カードに接続されているすべてのケーブルを確認します。シャーシから取り外した際に、ケージに届かないすべてのケーブルを取り外します。

拡張カードケージの取り外し

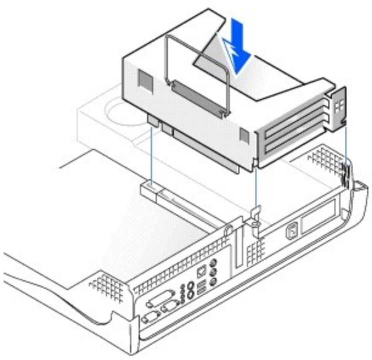


3. ハンドルを慎重に引き上げ、拡張カードケージをシャーシから持ち上げて取り出します。

拡張カードケージの取り付け

1. 拡張カードケージの側面のスロットを、コンピュータの側面のタブに合わせ、拡張カードケージを下にスライドして所定の位置に装着します。

拡張カードケージの取り付け



2. ライザボードがシステム基板のコネクタにしっかりと装着されていることを確認します。
3. 「拡張カードケージの取り外し」の手順2で取り外したすべてのケーブルを取り付けます。

[目次ページに戻る]

目次ページに戻る

問題の特定と解決方法

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

この章では、コンピュータのハードウェアおよびソフトウェアの問題について説明し、その対処法を提供します。また、Dell診断プログラムユーティリティおよびコンピュータのメッセージとコードについて説明します。Dellテクニカルサポートに問い合わせる前に、コンピュータの問題を解決する手助けとなる以下の作業を完了してください。

- 「情報およびサポートの検索」をお読みください。
- 「作業にあたっての注意」をお読みください。
- 適切に動作していないコンポーネントまたは装置に関して、次の表で一覧表示している問題解決策を実行してください。

問題	処置
グラフィックカード、ネットワークアダプタ、サウンドカード、ソフトウェア、またはその他のデバイスのドライバが必要	「お使いのコンピュータ用のドライバ」を参照してください。
コンピュータの電源ライトが緑色に点灯しない	「電源の問題」を参照してください。
モニタ電源ライトが点灯しない	「モニタの問題」を参照してください。
モニタにビデオ画像が表示されない	「ビデオの問題」を参照してください。
音が出ない	「サウンドとスピーカーの問題」を参照してください。
プリンタが正しく動作しない	「プリンタの問題」を参照してください。
シリアルまたはその他のパラレルデバイスが正しく動作しない	「シリアルまたはパラレルデバイスの問題」を参照してください。
マウスが正しく動作しない	「マウスの問題」を参照してください。
キーボードが正しく動作しない	「キーボードの問題」を参照してください。
ディスクに読み書きできない	「フロッピードライブの問題」を参照してください。
コンピュータが起動しない、またはハードドライブにアクセスできない。	「ハードドライブの問題」を参照してください。
コンピュータの時間がリセットされる、または時間が消える	「バッテリの問題」を参照してください。
拡張カードのエラーまたは誤作動	「拡張カードの問題」を参照してください。
ネットワークと通信できない	「ネットワークの問題」を参照してください。
プログラムがロックする	「応答しないプログラムからの回復」を参照してください。
コンピュータがロックする	「応答しないコンピュータの再起動」を参照してください。
コンピュータが濡れてしまった	「濡れたコンピュータの修復」を参照してください。
コンピュータを落とした、または損傷を与えた	「落としたり損傷を与えたコンピュータの修復」を参照してください。
ハードウェアデバイスのコンフリクト	「ハードウェアのコンフリクト」を参照してください。
コンピュータメモリの容量が正しくない	「コンピュータメモリの問題」を参照してください。
マイクロプロセッサの誤作動	「マイクロプロセッサの問題」を参照してください。
システム基板の誤作動	「システム基板の問題」を参照してください。
システム基板が損傷を受けた	「破損したBIOS設定のリセット」を参照してください。
エラーメッセージ	「メッセージとコード」を参照してください。
コンピュータ起動時の連続したビープ音	「メッセージとコード」を参照してください。

Dell Precision ResourceCDの使い方

Microsoft® Windows®オペレーティングシステムを実行中に『Dell Precision ResourceCD』を使用するには、次の手順を実行します。

1. CDドライブに、『Dell Precision ResourceCD』を挿入します。

   このコンピュータで『Dell Precision ResourceCD』を初めて使用する場合、ResourceCDがインストールを開始しようとしていることを伝える**ResourceCD インストール**ウィンドウが開きます。

2. **OK**をクリックして作業を続行します。

   インストールを完了するには、インストールプログラムの出す指示に応答してください。

3. **Dell ResourceCD用のInstallShieldウィザードへようこそ**画面で、**次へ**をクリックします。
4. 適切な**システムモデル**、**オペレーティングシステム**、**デバイスの種類**、および**トピック**を選びます。

『Dell Precision ResourceCD ガイド』にアクセスするには、**トピック**プルダウンメニューで**ユーザーズガイド**をクリックし、**Dell Precision ResourceCD**をクリックします。

お使いのコンピュータ用のドライバ

『Dell Precision ResourceCD』を使ってコンピュータのデバイスドライバの一覧を表示するには、次の手順を実行します。

1. **トピック**プルダウンメニューで**マイドライバ**をクリックします。

   ResourceCDはコンピュータのハードウェアとオペレーティングシステムをスキャンし、次にシステム設定用のデバイスドライバの一覧が画面に表示されます。

2. 該当するドライバをクリックし、指示に従ってお使いのコンピュータ用のドライバをダウンロードします。

お使いのコンピュータに利用できるすべてのドライバの一覧を表示させるには、**トピック**プルダウンメニューから**デバイスドライバ**をクリックします。

電源の問題

正面パネルの電源ライトが、コンピュータに問題があるかどうかを判断するのに役に立つコードを示します。次の表は、電源ライトのコード一覧です。詳細については、「診断ライト」を参照してください。

電源ライト	**原因**
緑色の点灯	電源がオンで、コンピュータは正常に動作しています。
緑色に点滅	コンピュータはスリープ状態（Microsoft Windows 2000およびWindows XP）です。 詳細については、「電源管理」を参照してください。
緑色に数回点滅したあとオフになる	設定エラーがあります。 固有の問題を識別できるかどうか確認するために、診断ライトを確認します。
黄色の点灯	Dell診断プログラムがテストを実行中、またはシステム基板のデバイスが不良か、正しく取り付けられていない可能性があります。
黄色の点滅	システム基板または電源装置に障害があります。

基本チェック：

- 固有の問題を識別できるかどうか確認するために、診断ライトを確認します。
- コンセントのテスト：ランプなどの異なるデバイスを使って、コンセントが正常に機能しているか確認します。
- 問題の診断中は、コンピュータの電源ケーブルを機能しているコンセントに直接差し込んで、コンピュータがオンになるか確認します。電源保護装置、UPS、電源タップまたは延長コードに接続しないでください。
- すべての電源ケーブルがコンピュータデバイスとコンセントに適切に、かつしっかりと接続されていることを確認します。
- 干渉のチェック：コンピュータと同じ回路に接続されている、またはコンピュータの近くで動作している電気機器が干渉を起こすことがあります。
- 電源ケーブルのテスト：コンピュータとモニタ間で電源ケーブルを交換して、問題の状態が変化するか見ます。

基本チェックを完了しても問題が解決しない場合、次の手順を実行して、診断チェックリストに必要事項を記載してください。

1. コンピュータとデバイスの電源をオフにし、それらをコンセントから抜いて10～20秒待ちます。
2. コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。
3. コンピュータの電源を入れます。

   コンピュータの正面の電源ライトは点灯しますか？

   はい： 問題は解決しました。

   いいえ： 手順 4に進みます。

4. コンピュータの電源を切り、電源ケーブルを機能しているケーブル（モニタケーブルなど）と交換してから、コンピュータの電源を入れます。

   コンピュータは正しく動作していますか？

   はい： 新しい電源ケーブルが必要です。Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

いいえ： コンピュータが故障している可能性があります。Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

モニタの問題

モニタの電源ライトが、問題があるかどうかを判断するのに役に立つコードを示します。次の表は、モニタの電源ライトのコード一覧です。詳細はモニタに付属のマニュアルを参照してください。

モニタ電源ライト	原因
緑色の点灯	電源がオンで、モニタはコンピュータからビデオ入力を受信しています。コンピュータは正常に動作しています。
黄色の点灯	電源はオンですが、モニタはコンピュータからビデオ入力を受信していません。

基本チェック：

- モニタのユーザーズガイドの手順に従って、モニタのセルフテストを実行します。
- 問題の診断中は、モニタの電源ケーブルを機能しているコンセントに直接差し込んで、モニタがオンになるか確認します。電源保護装置、UPS、電源タップまたは延長コードに接続しないでください。
- モニタの電源ケーブルがしっかりと接続されていて、電源ケーブルがモニタとコンセントに適切に接続されているか確認します。
- コンセントのテスト：ランプなどの異なるデバイスを使って、コンセントが正常に機能しているか確認します。
- 電源ケーブルのテスト：コンピュータとモニタ間で電源ケーブルを交換して、問題の状態が変化するか見ます。
- モニタ画面に何も映らない場合、コンピュータはサスペンド状態か休止状態に入っていると思われます。電源ボタンを押してから離すか、マウスを動かすか、またはキーボードのキーを押してサスペンド状態からコンピュータを復帰させます。
- コンピュータからモニタのインタフェースケーブルを外し、ケーブルコネクタが曲がっていないか、ピンが壊れていないか確認します。ケーブルが損傷を受けていない、または擦り切れていないか確認します。
- モニタのインタフェースケーブルが損傷を受けていない場合、ケーブルがコンピュータにしっかりと接続されているか確認します。
- モニタの輝度およびコントラストの設定を調節します。
- 画質が悪い場合、近くのファン、ライト、ランプまたはその他の電気機器の電源をオフにします。これらのデバイスがモニタと干渉を起こしている可能性があります。

基本チェックを完了しても問題が解決しない場合、次の手順を実行して、診断チェックリストに必要事項を記載してください。

1. コンピュータの電源を切り、30秒待ってから電源を入れなおします。
2. コンピュータがコンポーネントの初期化をおこなうのに1分程要しますので、それからモニタの輝度とコントラストを調整します。

   モニタの文字は読めますか？

   はい： 問題は解決しました。

   いいえ： 手順 3に進みます。

3. コンピュータとモニタの電源を切り、モニタのケーブルを機能しているケーブル（コンピュータのケーブルなど）と交換してから、コンピュータとモニタの電源を入れます。

   モニタは正しく動作していますか？

   はい： 新しい電源ケーブルが必要です。Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

   いいえ： 次の質問に進みます。

   正常に動作しているモニタを別にお持ちですか？

   はい： 手順 4に進みます。

   いいえ： Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

4. コンピュータとモニタの電源を切り、10～20秒待ってからモニタを外します。別のモニタをコンピュータに接続し、電源をオンにします。
5. コンピュータがコンポーネントの初期化をおこなうのに1分程要しますので、それからモニタの輝度とコントラストを調整します。

   モニタの文字は読めますか？

   はい： 元のモニタが故障しています。問題は解決しました。

   いいえ： Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

ビデオの問題

基本チェック：

- 固有の問題を識別できるかどうか確認するために、診断ライトを確認します。
- モニタのユーザーズガイドの手順に従って、モニタのセルフテストを実行します。
- モニタ電源ライトをチェックします。
- ディスプレイの問題を知らせるコンピュータビープコード を聞きます。
- モニタの電源ケーブルをコンセントに直接差し込んで、モニタがオンになるか確認します。電源保護装置、UPS、電源タップまたは延長コードに接続しないでください。

- モニタ画面に何も映らない場合、コンピュータはサスペンド状態か休止状態に入っていると思われます。電源ボタンを押してから離すか、マウスを動かすか、またはキーボードのキーを押してサスペンド状態からコンピュータを復帰させます。
- コンピュータからモニタのインタフェースケーブルを外し、ケーブルコネクタが曲がっていないか、ピンが壊れていないか確認します。ケーブルが損傷を受けていない、または擦り切れていないか確認します。
- モニタのインタフェースケーブルが損傷を受けていない場合、ケーブルがコンピュータにしっかりと接続されているか確認します。
- モニタの輝度およびコントラストの設定を調節します。
- 干渉をチェックします。
  - 同じ回路に接続されている、あるいはコンピュータの近くで動作している電気機器が干渉を起こすことがあります。
  - コンピュータのすぐ近くで動作しているオーディオ機器やある種の電灯が干渉を起こすことがあります。
- コンピュータを再起動します。
- セットアップユーティリティを起動し、**Integrated Devices**オプションの**Primary Video Controller**が正しく設定されているか確認します。AGPまたはPCIカードは、**Primary Video Controller**を**Auto**または**AGP**（デフォルト）のどちらかに設定して動作させます。

メモ： お使いのコンピュータにAGPとPCIビデオ拡張カードが取り付けてある場合、AGP拡張カードを使用するには**Primary Video Controller**を**AGP**に設定し、PCI拡張カードを使用するには**Primary Video Controller**を**Auto**に設定します。

基本チェックを完了しても問題が解決しない場合、次の手順を実行して、診断チェックリストに必要事項を記載してください。

1. 「モニタの問題」の手順を実行します。

   コンピュータは正しく動作していますか？

   はい： 問題は解決しました。

   いいえ： 次の質問に進みます。

   正常に動作しているコンピュータを別にお持ちですか？

   はい： 手順 2に進みます。

   いいえ： 手順 6に進みます。

2. 元のコンピュータとモニタの電源を切り、10～20秒待ってからモニタを外します。
3. 別のコンピュータの電源を切り、10～20秒待ってからモニタを外します。元のコンピュータのモニタを接続し、電源をオンにします。
4. コンピュータがコンポーネントの初期化をおこなうのに1分程要しますので、それからモニタの輝度とコントラストを調整します。

   モニタの文字は読めますか？

   はい： モニタは正しく動作しています。元のコンピュータのビデオカードに問題があるかもしれません。手順 5に進みます。

   いいえ： モニタに欠陥があります。「モニタの問題」を参照してください。

5. コンピュータとモニタの電源を切り、10～20秒待ってからモニタを外します。元のコンピュータにモニタを接続しなおし、それらの電源をオンにします。
6. 近くのファン、ライト、ランプまたはその他の電気製品の電源をオフにします。

   モニタの文字は読めますか？

   はい： それらのデバイスの1つまたは複数が干渉の原因となっています。問題は解決しました。

   いいえ： 手順 7に進みます。

7. Dell診断プログラムを実行します。

   いずれかのテストに失敗しましたか？

   はい： システム基板のビデオコントローラに障害がある可能性があります。Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

   いいえ： 手順 8に進みます。

8. Dell診断プログラムを実行します。
9. いずれかのテストに失敗しましたか？

   はい： システム基板のビデオコントローラに障害がある可能性があります。Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

   いいえ： Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

サウンドとスピーカーの問題

基本チェック：

- 固有の問題を識別できるかどうか確認するために、診断ライトを確認します。
- 外付けスピーカーを使用している場合：
  - 外付けオーディオデバイスがコンピュータの背面パネルのマイクコネクタ、スピーカー／ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタに正しく接続されているか確認します。
  - スピーカーケーブルがコンピュータにしっかりと接続されているか確認します。

- コンセントのテスト：スピーカーが機能しているコンセントに接続されているか確認します。
- スピーカーの電源がオンになっていることを確認します。

- ヘッドフォンを使用している場合、ヘッドフォンケーブルがスピーカー／ヘッドフォンコネクタに接続されていることを確認します（「コンピュータの正面図」および「コンピュータの背面図」参照。）
- サウンドカードをお使いの場合は、外付けオーディオデバイスが、コンピュータの背面パネルのサウンドカードコネクタに接続されており、マイクコネクタ、スピーカー／ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタには接続されていないことを確認します（「コンピュータの背面図」参照）。
- OSの設定でオーディオの音声が出ないように設定されていないか確認します。詳細については、OSのマニュアルを参照してください。
- スピーカーの音量が付いている場合、音量ボタンを調節します。
- オーディオソフトウェアにある音量コントロールを調節します。詳細は、OSまたはオーディオソフトウェアのマニュアルを参照してください。
- オーディオCDを聞こうとする場合は、異なるCDを試してください。
- お使いのオペレーティングシステム用のオーディオドライバを再インストールします。
- 干渉のチェック：コンピュータと同じ回路に接続されている、またはコンピュータの近くで動作している電気機器が干渉を起こすことがあります。

基本チェックを完了しても問題が解決しない場合、次の手順を実行して、診断チェックリストに必要事項を記載してください。

1. 近くのファン、ライト、ランプまたはその他の電気製品の電源をオフにします。

   外付けスピーカーは正しく動作していますか？

   はい： それらの電気製品の1つまたは複数が干渉の原因となっています。問題は解決しました。

   いいえ： 手順 2に進みます。

2. オーディオ拡張カードをお使いでない場合、セットアップユーティリティを起動し、**Integrated Devices**オプションの**Sound**が**On**に設定されているか確認します。次に、セットアップユーティリティを正常に終了して情報を保存し、システムの電源を入れます。

   オーディオ拡張カードをお使いの場合、セットアップユーティリティを起動し、**Integrated Devices**オプションの**Sound**が**Off**に設定されていることを確認します。次に、セットアップユーティリティを正常に終了して情報を保存し、システムの電源を入れます。

   デバイスは正しく動作していますか？

   はい： 問題は解決しました。

   いいえ： 手順 3に進みます。

3. Dell診断プログラムを実行します。

   テストは問題なく終了しましたか？

   はい： 拡張カードは正しく動作しています。次の質問に進みます。

   いいえ： Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

   ヘッドフォンをお持ちですか？

   はい： 手順 4に進みます。

   いいえ： Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

4. ヘッドフォンをスピーカー／ヘッドフォンコネクタに接続します。

   ヘッドフォンから音が聞こえますか？

   はい： スピーカーが故障しています。問題は解決しました。

   いいえ： Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

プリンタの問題

基本チェック：

- 固有の問題を識別できるかどうか確認するために、診断ライトを確認します。
- コンピュータからケーブルを外し、ケーブルコネクタが曲がっていないか、ピンが壊れていないか確認します。ケーブルが損傷を受けていない、または擦り切れていないか確認します。
- ケーブルが損傷を受けていない場合、ケーブルがコンピュータにしっかりと接続されているか確認します。
- コンセントのテスト：ランプなどの異なるデバイスを使って、コンセントが正常に機能しているか確認します。
- プリンタの電源がオンになっていることを確認します。
- 干渉のチェック：コンピュータと同じ回路に接続されている、またはコンピュータの近くで動作している電気機器が干渉を起こすことがあります。
- 正しいパラレルコネクタのモードについては、キーボードに付属のマニュアルを参照してください。セットアップユーティリティを起動し、**Integrated Device**メニューで適切なモードが選択されていることを確認します。

基本チェックを完了しても問題が解決しない場合、次の手順を実行して、診断チェックリストに必要事項を記載してください。

1. 「シリアルまたはパラレルデバイスの問題」の手順を実行します。

   デバイスは正しく動作していますか？

   はい： 問題は解決しました。

いいえ: 手順 2に進みます。

2. プリンタのセルフテストを実行します。

   セルフテストは問題なく終了しましたか？

   はい: 手順 3に進みます。

   いいえ: プリンタに欠陥がある可能性があります。プリンタをDellからご購入いただいた場合、Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。そうでない場合、修理のため認可されたサービスセンターにお持ちください。

3. 再度プリントします。

   問題なくプリントできましたか？

   はい: 問題は解決しました。

   いいえ: Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

シリアルまたはパラレルデバイスの問題

メモ: プリンタに問題がある場合、「プリンタの問題」を参照してください。

コンピュータのエラーメッセージがシリアルまたはパラレルコネクタの問題を示している場合、ポートに接続されている周辺機器が正しく動作していない、または全く動作していない場合には、問題の原因は以下の項目のいずれかの可能性があります。

- ポートとデバイス間の接続不良
- セットアップユーティリオプションの間違った設定
- オペレーティングシステムの設定ファイルの設定が正しくない
- ポートとデバイス間のケーブルの不良
- デバイスの不良
- システム基板上のポートロジックの不良
- 問題がシリアルコネクタにある場合、COMポート設定のコンフリクト
- 問題がパラレルコネクタにある場合、LPTポート設定のコンフリクト
- 間違ったドライバまたはドライバが存在しない

基本チェック:

- 固有の問題を識別できるかどうか確認するために、診断ライトを確認します。
- コンピュータからケーブルを外し、ケーブルコネクタが曲がっていないか、ピンが壊れていないか確認します。ケーブルが損傷を受けていない、または擦り切れていないか確認します。
- ケーブルが損傷を受けていない場合、ケーブルがコンピュータにしっかりと接続されているか確認します。
- コンセントをテストします。デバイスが正常に機能しているコンセントに接続されているか確認します。
- デバイスの電源がオンになっているか確認します。
- 干渉のチェック: コンピュータと同じ回路に接続されている、またはコンピュータの近くで動作している電気機器が干渉を起こすことがあります。

基本チェックを完了しても問題が解決しない場合、次の手順を実行して、診断チェックリストに必要事項を記載してください。

1. セットアップユーティリティを起動し、<fc 1>Integrated Devices<:/fc>オプションの設定を確認します。次に、セットアップユーティリティを正常に終了して情報を保存し、コンピュータを再起動します。

   シリアルデバイスの場合、**Serial Port**オプションを確認し、またパラレルデバイスの場合は、**Parallel Port**オプションを確認します。ポートの設定および設定要件についての詳細は、デバイスのマニュアルを参照してください。

   デバイスは正しく動作していますか？

   はい: 問題は解決しました。

   いいえ: 手順 2に進みます。

2. Dell診断プログラムを実行します。

   これらのデバイスグループは、システム基板のI/Oポートロジックの基本的機能を調べます。プリンタがパラレルコネクタに接続されている場合、Parallel Portsデバイスグループはシステム基板のI/Oポートロジックとプリンタ間の通信リンクをテストします。

   テストは問題なく終了しましたか？

   はい: 手順 3に進みます。

   いいえ: Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

3. 問題が特定のアプリケーションプログラムに限定される場合、特殊なポート設定要件についてはアプリケーションプログラムのマニュアルを参照してください。

   デバイスは正しく動作していますか？

   はい: 問題は解決しました。

   いいえ: 手順 4に進みます。

4. コンピュータとデバイスの電源を切り、デバイスのケーブルを機能しているケーブルと交換してから、コンピュータとデバイスの電源を入れます。

   デバイスは正しく動作していますか？

   はい： 新しいデバイスケーブルが必要です。Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

   いいえ： 手順 5に進みます。

5. コンピュータとデバイスの電源を切り、そのデバイスを機能している同種のデバイスと交換してから、コンピュータとデバイスの電源を入れます。

   デバイスは正しく動作していますか？

   はい： 新しいデバイスが必要です。Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

   いいえ： Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

マウスの問題

基本チェック：

- 固有の問題を識別できるかどうか確認するために、診断ライトを確認します。
- コンピュータからケーブルを外し、ケーブルコネクタが曲がっていないか、ピンが壊れていないか確認します。ケーブルが損傷を受けていない、または擦り切れていないか確認します。
- ケーブルがコンピュータにしっかり接続されているか確認します。
- USBマウスをお使いの場合、コンピュータの背面パネルのポート1 USBコネクタの1つに必ず接続してください（「背面パネルのコネクタ」参照）。
- お使いのオペレーティングシステム用のマウスドライバを再インストールします。
- コンピュータを再起動します。

基本チェックを完了しても問題が解決しない場合、次の手順を実行して、診断チェックリストに必要事項を記載してください。

1. コンピュータの電源を切り、10～20秒待ってからマウスを外します。コンピュータにマウスを接続しなおし、電源をオンにします。

   デバイスは正しく動作していますか？

   はい： 問題は解決しました。

   いいえ： 手順 2に進みます。

2. PS/2ウスをお使いの場合、セットアップユーティリティを起動し、**Integrated Devices**オプションの**Mouse Port**が**On**に設定されていることを確認します。次に、セットアップユーティリティを正常に終了して情報を保存し、コンピュータを再起動します。

   デバイスは正しく動作していますか？

   はい： 問題は解決しました。

   いいえ： 手順 3に進みます。

3. Dell診断プログラムを実行します。

   テストは問題なく終了しましたか？

   はい： 次の質問に進みます。

   いいえ： Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

   正常に動作しているコンピュータを別にお持ちですか？

   はい： 手順 4に進みます。

   いいえ： 次の質問に進みます。

   正常に機能しているマウスを別にお持ちですか？

   はい： コンピュータの電源を切り、10～20秒待ってからマウスを外します。次に手順 6に進みます。

   いいえ： Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

4. 元のコンピュータの電源を切り、10～20秒待ってからマウスを外します。
5. 別のコンピュータの電源を切り、10～20秒待ってからマウスを外します。元のコンピュータのマウスを接続し、コンピュータの電源をオンにします。

   マウスは正しく動作していますか？

   はい： 元のコンピュータに問題があります。Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

   いいえ： マウスに欠陥がある可能性があります。Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

6. 別のマウスをコンピュータに接続し、コンピュータの電源をオンにします。

   マウスは正しく動作していますか？

   はい： 元のマウスに欠陥があります。問題は解決しました。

いいえ: Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

キーボードの問題

基本チェック:

- 固有の問題を識別できるかどうか確認するために、診断ライトを確認します。
- コンピュータからケーブルを外し、ケーブルコネクタが曲がっていないか、ピンが壊れていないか確認します。ケーブルが損傷を受けていない、または擦り切れていないか確認します。
- ケーブルがコンピュータにしっかり接続されているか確認します。
- USBキーボードをお使いの場合、コンピュータの背面パネルのポート1 USBコネクタの1つに必ず接続してください(「背面パネルのコネクタ」参照)。
- 多様なスイッチ設定が可能なPS/2 キーボードをお使いの場合、スイッチは必ず**PS/2**、**Enhanced XT/AT**、または**PC/AT**に設定します。スイッチの設定は、通常キーボードの裏面にありますが、パネルの裏側にあることもあります。詳細は、キーボードに付属のマニュアルを参照してください。
- 干渉のチェック: キーボードの延長ケーブルが問題の原因となる場合があります。
- コンピュータを再起動します。

基本チェックを完了しても問題が解決しない場合、次の手順を実行して、診断チェックリストに必要事項を記載してください。

1. コンピュータの電源を切り、30秒待ってから再度電源を入れます。

   起動ルーチン中に、キーボードのNum Lock、Caps Lock、およびScroll Lockライトは瞬間点滅しますか？

   はい: 手順 2に進みます。

   いいえ: 手順 3に進みます。

2. キーボードを使っていくつかの文字を入力します。

   文字が画面に表示されましたか？

   はい: 問題は解決しました。

   いいえ: Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

3. Dell診断プログラムを実行します。

   いずれかの診断テストに失敗しましたか？

   はい: 元のキーボードに欠陥がある可能性があります。手順 4に進みます。

   いいえ: 次の質問に進みます。

   正常に動作しているコンピュータを別にお持ちですか？

   はい: 手順 4に進みます。

   いいえ: 次の質問に進みます。

   正常に動作しているキーボードを別にお持ちですか？

   はい: コンピュータの電源を切り、10～20秒待ってからキーボードを外します。手順 6に進みます。

   いいえ: Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

4. 元のコンピュータの電源を切り、10～20秒待ってからキーボードを外します。
5. 別のコンピュータの電源を切り、10～20秒待ってからキーボードを外します。元のコンピュータのキーボードを接続し、コンピュータの電源をオンにします。

   キーボードは正しく動作していますか？

   はい: 元のコンピュータに問題があります。Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

   いいえ: キーボードに欠陥がある可能性があります。Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

6. 別のキーボードをコンピュータに接続し、コンピュータの電源をオンにします。

   キーボードは正しく動作していますか？

   はい: 元のキーボードに欠陥があります。問題は解決しました。

   いいえ: Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

フロッピードライブの問題

POST中に、コンピュータはフロッピードライブをチェックし、コンピュータの設定情報とその特徴を比較します。コンピュータがこのチェックを実行している間、フロッピードライブライトは点滅します。

基本チェック:

- 固有の問題を識別できるかどうか確認するために、診断ライトを確認します。

- ドライブがアクセスされているときに、聞きなれない引っかくような音、または擦るような音が聞こえる場合、ハードウェアが誤作動を起こしています。Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。
- コンピュータの電源を入れると、起動ルーチン中にドライブが動作している音が聞こえます。コンピュータが起動しない場合は、Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。
- データをディスクにコピーする場合、書込み禁止になっていないか確認します。
- 別のディスクをドライブに挿入します。新しいディスクが作動する場合、元のディスクに欠陥がある可能性があります。
- 次のいずれかの方法で、フロッピードライブライトをテストします。
  - MS-DOS®をお使いの場合、ディスクをドライブに挿入し、プロンプトに`dir a:`と入力し <Enter>を押します。
  - Microsoft Windowsをお使いの場合、ディスクをドライブに挿入し、デスクトップの**マイコンピュータ**を開いて**フロッピードライブ**アイコンをダブルクリックします。
- セットアップユーティリティの設定を確認します。
- 市販のクリーニングキットを使ってドライブをきれいにします。

注意： 綿棒でドライブヘッドを拭かないでください。誤ってヘッドがずれてしまい、ドライブが操作できなくなる場合があります。

基本チェックを完了しても問題が解決しない場合、次の手順を実行し、診断チェックリストに必要事項を記載してください。

警告：この手順を実行する前に、「作業にあたっての注意」を参照してください。

注意： コンピュータをコンセントから外した後10～20秒待ってから、コンピュータからデバイスを取り外してください。システム基板上のスタンバイ電源ライトがオフになっていることを確認してから、システム基板からコンポーネントを取り外してください。このライトの位置を確認するには、「システム基板のコンポーネント」のイラストを参照してください。

1. Dell診断プログラムを実行します。

   いずれかのテストに失敗しましたか？

   はい： Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

   いいえ： 手順 2に進みます。

2. コンピュータとデバイスの電源をオフにし、それらをコンセントから抜いて10～20秒待ちます。
3. コンピュータカバーを開きます。
4. フロッピードライブを取り外してから取り付けます。
5. コンピュータカバーを閉じます。
6. コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。

   起動ルーチン中に、フロッピードライブライトは点滅しますか？

   はい： 次の質問に進みます。

   いいえ： Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

   ドライブエラーメッセージが表示されますか？

   はい： メッセージの説明について「コンピュータのメッセージ」を参照して、手順 7に進みます。

   いいえ： 問題は解決しました。

7. 起動ディスクをフロッピードライブに挿入し、コンピュータを再起動します。

   ドライブはオペレーティングシステムを起動しますか？

   はい： 問題は解決したと思われます。問題が解決しない場合は、Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

   いいえ： Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

ハードドライブの問題

基本チェック：

- 固有の問題を識別できるかどうか確認するために、診断ライトを確認します。
- ドライブがアクセスされているときに、聞きなれない引っかくような音、または擦るような音が聞こえる場合、ハードウェアが誤作動を起こしています。Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。
- コンピュータの電源を入れると、起動ルーチン中にドライブが動作している音が聞こえます。コンピュータが起動しない場合は、Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。
- 次のいずれかの方法で、ハードドライブをテストします。
  - Windows 2000の場合、**スタート**ボタンをクリックし、**ファイル名を指定して実行**をポイントし、<cs "Screen Text" 4>scandskw</cs> と入力してから**OK**をクリックして、ScanDiskユーティリティを実行します。
  - Windows XPの場合、次の手順に従って **chkdsk** ユーティリティを実行します。

    スタートボタンをクリックし、**終了オプション**を選んでから、**再起動**をクリックします。

    C: promptで**CD\Windows\Command**と入力し、<Enter>を押します。

    `chkdsk`と入力し、<Enter>を押します。

このユーティリティは、ステータスレポートを作成して表示し、ディスク上のエラーを一覧表示して訂正します。

- Microsoft Windows NT®の場合、影響を受けている箇所のプロパティシート開き、**ツール**タブの**エラーチェック**項目の**チェックする**をクリックして、エラーチェックユーティリティを実行します。

基本チェックを完了しても問題が解決しない場合、次の手順を実行し、診断チェックリストに必要事項を記載してください。

警告：この手順を実行する前に、「作業にあたっての注意」を参照してください。

注意：コンピュータをコンセントから外した後10～20秒待ってから、コンピュータからデバイスを取り外してください。システム基板上のスタンバイ電源ライトがオフになっていることを確認してから、システム基板からコンポーネントを取り外してください。このライトの位置を確認するには、「システム基板のコンポーネント」のイラストを参照してください。

1. セットアップユーティリティを起動して、問題のドライブが正しく設定されていることを確認します。必要な場合は設定を変更して、コンピュータを再起動します。

   ドライブは正しく動作していますか？

   はい： 問題は解決しました。

   いいえ： 手順 2に進みます。

2. 次のいずれかの方法で、ハードドライブをテストします。
   - Microsoft Windows 2000の場合、**スタート**ボタンをクリックし、**ファイル名を指定して実行**をポイントし、scandskw と入力してから**OK**をクリックして、ScanDiskユーティリティを実行します。
   - Windows XPの場合、次の手順に従って **chkdsk** ユーティリティを実行します。
   - **スタート**ボタンをクリックし、**終了オプション**を選んでから、**再起動**をクリックします。
   - **C:** プロンプトで**CD\Windows\Command**と入力し、<Enter>を押します。
   - chkdskと入力し、<Enter>を押します。

     このユーティリティは、ステータスレポートを作成して表示し、ディスク上のエラーを一覧表示して訂正します。
   - Microsoft Windows NTの場合、影響を受けている箇所のプロパティシート開き、**ツール**タブの**エラーチェック**項目の**チェックする**をクリックして、エラーチェックユーティリティを実行します。

   ドライブは正しく動作していますか？

   はい： 問題は解決しました。

   いいえ： 手順 3に進みます。

3. Dell診断プログラムを実行します。
   - IDEハードドライブの場合、IDE Devicesデバイスグループを実行します。
   - SCSIハードドライブの場合、SCSI Devicesデバイスグループを実行します。

   いずれかの診断テストに失敗しましたか？

   はい： 次の質問に進みます。

   いいえ： 手順 4に進みます。

   いずれかの診断テストが、ドライブに障害があることを示しましたか？

   はい： ハードドライブに欠陥がある可能性があります。Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

   いいえ： 次の質問に進みます。

   いずれかの診断テストが、ドライブコントローラに障害があることを示しましたか？

   はい： システム基板に欠陥がある可能性があります。Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

   いいえ： 手順 4に進みます。

4. コンピュータとデバイスの電源をオフにし、それらをコンセントから抜いて10～20秒待ちます。
5. コンピュータカバーを開きます。
6. 電源装置のDC電源ケーブルが、各ドライブのコネクタにしっかりと接続されていることを確認します。さらに、各ドライブのインタフェースケーブルが、ドライブおよびシステム基板にしっかりと接続されていることを確認します。
7. 正面パネルケーブルが、システム基板および正面パネルにしっかりと接続されているか確認します。また、コントロールパネルケーブルが、正面パネルにしっかりと接続されているか確認します。

   コントロールパネルには、ハードドライブライトがあります。システム基板と正面パネルコネクタの位置を確認するには、「システム基板のコンポーネント」のイラストを参照してください。

8. コンピュータカバーを閉じます。
9. コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。

   起動ルーチン中に、ハードドライブ動作ライトは点滅しますか？

   はい： 次の質問に進みます。

   いいえ： システム基板に欠陥がある可能性があります。Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

   ドライブエラーメッセージが表示されますか？

   はい： メッセージの説明は、「コンピュータメッセージ」を参照してください。表に記載された対策を実行しても問題が解決しない場合は、Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

いいえ： 次の質問に進みます。

このプライマリハードドライブにはオペレーティングシステムが含まれていますか？

はい： 次の質問に進みます。

いいえ： Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

ドライブはオペレーティングシステムを起動しますか？

はい： 次の質問に進みます。

いいえ： オペレーティングシステムのファイルが壊れています。オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

ドライブは正しく動作していますか？

はい： 問題は解決しました。

いいえ： Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

バッテリの問題

バッテリの問題を示すエラーメッセージが表示されたり、コンピュータの電源を切ったときにセットアップユーティリティからシステム設定情報が失われた場合は、バッテリが不良である可能性があります。

警告：新しいバッテリは、正しく装着しないと破裂する恐れがあります。バッテリを交換する場合、同じバッテリ、または製造元が推奨する同等のバッテリのみを使用してください。使用済みのバッテリは、製造元の指示に従って廃棄してください。

警告：この手順を実行する前に、「作業にあたっての注意」を参照してください。

注意： コンピュータをコンセントから外した後10～20秒待ってから、コンピュータからデバイスを取り外してください。システム基板上のスタンバイ電源ライトがオフになっていることを確認してから、システム基板からコンポーネントを取り外してください。このライトの位置は、「システム基板のコンポーネント」を参照してください。

1. コンピュータとデバイスの電源をオフにし、それらをコンセントから抜いて10～20秒待ちます。
2. コンピュータカバーを開きます。
3. 「+」とラベルされた面を上に向け、ソケットにバッテリを装着しなおします。
4. コンピュータカバーを閉じます。
5. コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。
6. セットアップユーティリティを起動し、現在の日時を再入力します。次に、セットアップユーティリティを正常に終了して情報を保存します。
7. コンピュータの電源を切って、コンセントから外します。コンピュータを10分以上オフの状態にします。
8. コンピュータの電源プラグを接続し、電源を入れます。
9. セットアップユーティリティを起動し、日時を確認します。

   日付と時刻は正しいですか？

   はい： 問題は解決しました。

   いいえ： バッテリに欠陥がある可能性があります。手順 10に進みます。

10. バッテリを取り付けます。

   バッテリは正しく機能していますか？

   はい： 問題は解決しました。

   いいえ： システム基板に欠陥がある可能性があります。Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

拡張カードの問題

拡張カードの問題を示すエラーメッセージが表示されたり、拡張カードが正常に動作しなかったり、まったく動作しない場合は、接続が間違っているか、ソフトウェアや他のハードウェアとのコンフリクトが発生しているか、または拡張カードが故障している可能性があります。次の手順を実行する前に、固有の問題を識別できるかどうか確認するために、診断ライトを確認してください。また、デバイス間でハードウェアのコンフリクトがないか確認します。また、デバイス間でハードウェアのコンフリクトがないか確認します。

次の手順を実行し、診断チェックリストに必要事項を記入してください。

警告：この手順を実行する前に、「作業にあたっての注意」を参照してください。

注意： コンピュータをコンセントから外した後10～20秒待ってから、コンピュータからデバイスを取り外してください。システム基板上のスタンバイ電源ライトがオフになっていることを確認してから、システム基板からコンポーネントを取り外してください。このライトの位置を確認するには、「システム基板のコンポーネント」のイラストを参照してください。

1. コンピュータに取り付けられたすべての拡張カードについて、製造元によって提供された診断プログラムを実行します。

メモ： ビデオカード、ネットワークインタフェースカード、およびサウンドカードなどの多くのカードの製造元は、診断プログラムを提供しています。お使いのカードの診断プログラムをお持ちでない場合、手順 2に進みます。

   診断テストにより問題が確認されましたか？

はい: カードの製造元に連絡してください。

いいえ: 手順 2に進みます。

2. コンピュータとデバイスの電源をオフにし、それらをコンセントから抜いて10～20秒待ちます。
3. コンピュータカバーを開きます。
4. 拡張カードがコネクタにしっかりと装着されているか確認します。拡張カードがゆるんでいる場合、装着しなおします。
5. 拡張カードのコネクタに対応するすべてのケーブルがしっかりと接続されているか確認します。ゆるんでいるケーブルは接続しなおします。

   拡張カード上の特定のコネクタにどのケーブルを接続するかについては、拡張カードのマニュアルを参照してください。

6. コンピュータカバーを閉じます。
7. コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。

   コンピュータは正しく動作していますか？

   はい: 問題は解決しました。

   いいえ: 拡張カードに欠陥がある可能性があります。手順 8に進みます。

8. コンピュータとデバイスの電源をオフにし、それらをコンセントから抜いて10～20秒待ちます。
9. コンピュータカバーを開きます。
10. ビデオカードを除き、コンピュータに取り付けられているすべての拡張カードを取り外します。

メモ: プライマリハードドライブがドライブコントローラカードに接続されていて、システム基板のIDEコネクタのいずれかに接続されていない場合、コンピュータに取り付けられたドライブコントローラカードはそのままにしておきます。

11. コンピュータカバーを閉じます。
12. コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。
13. Dell診断プログラムを実行します。

    いずれかの診断テストに失敗しましたか？

    はい: Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

    いいえ: 手順 14に進みます。

14. コンピュータとデバイスの電源をオフにし、それらをコンセントから抜いて10～20秒待ちます。
15. コンピュータカバーを開きます。
16. 前の手順で取り外した拡張カードの1つを取り付けなおして、手順 11～手順 13を繰り返します。

    いずれかの診断テストに失敗しましたか？

    はい: 装着しなおした拡張カードが不良ですので、交換する必要があります。

    いいえ: 異なる拡張カードについて手順 14と手順 16を繰り返します。手順 17に進みます。

17. 拡張カードをすべて取り付けなおしても、拡張カードの問題が解決しない場合、Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

ネットワークの問題

基本チェック:

- 固有の問題が識別できるかどうか参照するために、ネットワーク動作ライトを確認します。
- モデムおよびネットワークアダプタをお使いの場合、モデムケーブルがネットワークアダプタに接続されていないことを確認します。
- コンピュータからネットワークケーブルを外し、ケーブルコネクタが曲がっていないか、ピンが壊れていないか確認します。ケーブルが損傷を受けていない、または擦り切れていないか確認します。
- ケーブルが損傷を受けていない場合、ケーブルがコンピュータにしっかりと接続されているか確認します。
- デバイス間でハードウェアのコンフリクトがないか確認します。
- セットアップユーティリティを起動して、ネットワーク操作が正しく設定されていることを確認します。
- コンピュータに接続するネットワークデバイスの種類を確認します。通常ハブは10 Mbpsで動作します。スイッチは10または100 Mbpsで動作します。ネットワークアダプタが適切な速度に設定されていることを確認します。Dell診断プログラムを参照してください。

次の手順を実行し、診断チェックリストに必要事項を記入してください。

注意: モデムケーブルをネットワークアダプタに接続しないでください。電話通信からの電圧は、ネットワークアダプタを損傷する恐れがあります。

1. ネットワークアダプタの種類を確認します。

   ネットワーク拡張カードの場合、手順 2に進みます。

   内蔵ネットワークアダプタの場合、手順 3に進みます。

2. 「拡張カードの問題」の手順を実行します。

   コンピュータは正しく動作していますか？

   はい： 問題は解決しました。

   いいえ： 手順 3に進みます。

3. Dell診断プログラムを実行します。

   いずれかのテストに失敗しましたか？

   はい： Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

   いいえ： 手順 3に進みます。

4. Dell診断プログラムを実行します。

   テストは問題なく終了しましたか？

   はい： 問題は解決しました。

   いいえ： 手順 4に進みます。

5. コンピュータの電源を切り、ネットワークケーブルを機能しているケーブルと交換してから、コンピュータの電源を入れます。

   コンピュータは正しく動作していますか？

   はい： 新しいネットワークケーブルが必要です。Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

   いいえ： Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

応答しないプログラムからの回復

1. <Ctrl><Alt><Delete>を押し、**タスクマネージャ**をクリックして**アプリケーション**を選択します。

   タスクマネージャウィンドウが表示されましたか？

   はい： 手順 2に進みます。

   いいえ： 手順 4に進みます。

2. 応答しなくなったプログラムをクリックします。
3. **タスクの終了**をクリックします。

   コンピュータは正しく動作していますか？

   はい： 問題は解決しました。

   いいえ： 手順 4に進みます。

4. **スタート**ボタンをクリックし、**シャットダウン**を選びます。

応答しないコンピュータの再起動

1. コンピュータをすぐにオフにするには、電源ボタンを6秒以上押し続けます。

   コンピュータの電源は切れましたか？

   はい： 手順 3に進みます。

   いいえ： 手順 2に進みます。

2. コンピュータからAC電源ケーブルを外し、10～20秒待ってからAC電源ケーブルを接続しなおします。
3. 電源ボタンを押して、コンピュータに電源を入れます。

注意： コンピュータが応答しない場合、電源をオフにするか、最後の手段として電源コードをコンセントから抜きます。そうした場合、コンピュータの設定や構成に問題が生じる場合があります。

濡れたコンピュータの修復

水滴をこぼしたり、液体をかけたり、過度の湿気にさらすとコンピュータが損傷する恐れがあります。外付けデバイス（プリンタやモデムなど）が濡れた場合、それぞれの製造元にお問い合わせください。

警告：この手順を実行する前に、「作業にあたっての注意」を参照してください。

注意： コンピュータをコンセントから外した後10～20秒待ってから、コンピュータからデバイスを取り外してください。システム基板上のスタンバイ電源ライトがオフになっていることを確認してから、システム基板からコンポーネントを取り外してください。このライトの位置を確認するには、「システム基板のコンポーネント」のイラストを参照してください。

次の手順を実行し、診断チェックリストに必要事項を記入してください。

1. コンピュータとデバイスの電源をオフにし、それらをコンセントから抜いて10～20秒待ちます。
2. コンピュータカバーを開きます。
3. コンピュータを24時間以上乾かします。以降の作業は必ずコンピュータが完全に乾いてからおこなってください。
4. ビデオカードを除き、コンピュータに取り付けられているすべての拡張カードを取り外します。

メモ： プライマリハードドライブがドライブコントローラカードに接続されていて、システム基板のIDEコネクタのいずれかに接続されていない場合、コンピュータに取り付けられたドライブコントローラカードはそのままにしておきます。

5. コンピュータカバーを閉じます。
6. コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。

コンピュータに電源が入っていますか?

はい： 手順 7に進みます。

いいえ： Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

7. コンピュータとデバイスの電源をオフにし、それらをコンセントから抜いて10～20秒待ちます。
8. コンピュータカバーを開きます。
9. すべての拡張カードを取り付けます。
10. コンピュータカバーを閉じます。
11. コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。
12. Dell診断プログラムを実行します。
13. いずれかの診断テストに失敗しましたか？

はい： Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

いいえ： 問題は解決しました。

落としたり損傷を与えたコンピュータの修復

警告：この手順を実行する前に、「作業にあたっての注意」を参照してください。

注意： コンピュータをコンセントから外した後10～20秒待ってから、コンピュータからデバイスを取り外してください。システム基板上のスタンバイ電源ライトがオフになっていることを確認してから、システム基板からコンポーネントを取り外してください。このライトの位置を確認するには、「システム基板のコンポーネント」のイラストを参照してください。

次の手順を実行し、診断チェックリストに必要事項を記入してください。

1. コンピュータとデバイスの電源をオフにし、それらをコンセントから抜いて10～20秒待ちます。
2. コンピュータカバーを開きます。
3. コンピュータ内部のすべての拡張カードの接続を確認し、ゆるんだ拡張カードを取り付けなおします。
4. すべてのケーブルが正しく接続されていることと、すべてのコンポーネントが所定のコネクタやソケットに正しく装着されていることを確認します。
5. コンピュータカバーを閉じます。
6. コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。
7. Dell診断プログラムを実行します。

いずれかの診断テストに失敗しましたか？

はい： Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

いいえ： 問題は解決しました。

ハードウェアのコンフリクト

オペレーティングシステムが、同じコンピュータリソースを操作しようとしている複数のデバイスを検出し、それらのリソースがデバイス間で共有されない場合、ハードウェアのコンフリクトが起こります。

症状：

- 特に特定のデバイスを使用している場合、コンピュータがハングまたはロックします。
- パリティが有効なコンピュータでメモリパリティエラーが発生します。
- サウンドカードからのノイズまたはその他の問題。
- 意味不明な文字がプリンタに印刷されます。
- マウスがハングして動かない、またはぎこちない動きをします。
- システムが最大の性能で動作していないことを示すメッセージが表示されます。
- Microsoft Windowsを実行している場合、コンピュータはセーフモードに変わります。

- 明確な理由がないのに、アプリケーションのエラーやクラッシュが起こります。
- ビデオモニタ画像が表示されません。

ハードウェアのコンフリクトを解決するには:

- コンフリクトがソフトウェアの問題でないことを確認します。
- 新しく追加したすべてのハードウェアを取り外し、ハードウェアの製造元に連絡します。
- OSのマニュアルを参照してください。

コンピュータメモリの問題

POST中に、コンピュータはメモリをチェックし、装着されているメモリの容量を調べます。そして利用可能なバイト数を読み書きして、適切に動作できるようにします。

基本チェック:

- 固有の問題を識別できるかどうか確認するために、診断ライトを確認します。
- メモリ不足を示すメッセージが表示された場合は、作業中のすべてのファイルを保存してから閉じ、使用していない開いているすべてのアプリケーションプログラムを終了します。追加のコンピュータメモリを取り付けることを考慮します。
- コンピュータを再起動します。
- Dell診断プログラムを実行します。
- オプションのメモリライザボードが取り付けられている場合、ライザボードを装着しなおします。
- メモリモジュールをシステム基板またはライザボードソケットに装着しなおします。
- オプションのメモリライザボードを使用していな場合、システム基板のすべてのメモリソケットにはRIMMまたはCRIMMが取り付けられていることを確認します。
- メモリモジュールは同じものを2枚1組で取り付ける必要があります。システム基板またはメモリライザボードソケットペアに装着されたモジュールが同一であることを確認します。システム基板のソケットペアを識別するには、「システム基板のメモリコンポーネント」を参照してください。メモリライザボードソケットペアを識別するには、「コンピュータメモリの取り付けガイドライン」を参照してください。

基本チェックを完了しても問題が解決しない場合、次の手順を実行し、診断チェックリストに必要事項を記載してください。

警告: この手順を実行する前に、「作業にあたっての注意」を参照してください。

注意: コンピュータをコンセントから外した後10～20秒待ってから、コンピュータからデバイスを取り外してください。システム基板上のスタンバイ電源ライトがオフになっていることを確認してから、システム基板からコンポーネントを取り外してください。このライトの位置を確認するには、「システム基板のコンポーネント」のイラストを参照してください。

1. セットアップユーティリティを起動し、System Memoryの値がコンピュータに取り付けられた実際のメモリ量と一致していることを確認します。

   メモリの合計が、コンピュータに実際に取り付けられているメモリ容量と一致していますか？

   はい: コンピュータを再起動したときに、コンピュータはメモリカウントを更新しました。問題は解決しました。

   いいえ: 手順 2に進みます。

2. Dell診断プログラムを実行します。

   いずれかの診断テストに失敗しましたか？

   はい: Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

   いいえ: 手順 3に進みます。

3. コンピュータとデバイスの電源をオフにし、それらをコンセントから抜いて10～20秒待ちます。
4. コンピュータカバーを開きます。
5. メモリモジュールを取り外してから取り付けます。
6. コンピュータカバーを閉じます。
7. コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。

   表示されたRAMの数値は、コンピュータに実際に取り付けられているメモリ容量と一致していますか？

   はい: メモリモジュールに欠陥がありました。問題は解決しました。

   いいえ: Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

マイクロプロセッサの問題

POST中に、コンピュータはマイクロプロセッサをチェックし、その動作仕様を確定します。情報はセットアップユーティリティに保存されます。また、コンピュータは取り付けられているマイクロプロセッサの数が1つか2つか判断し、2つのマイクロプロセッサが正しく動作できるように同じものであるか確認します。

基本チェック:

- 固有の問題を識別できるかどうか確認するために、診断ライトを確認します。
- コンピュータメッセージが、マイクロプロセッサに問題があることを示した場合、プロセッサを交換する必要があるかもしれません。
- Dell診断プログラムを実行します。

- マイクロプロセッサを装着しなおします。
- マイクロプロセッサ用の冷却ファンを取り付けなおします。
- コンピュータを再起動します。

基本チェックを完了しても問題が解決しない場合、次の手順を実行し、診断チェックリストに必要事項を記載してください。

警告 : この手順を実行する前に、「作業にあたっての注意」を参照してください。

注意 : コンピュータをコンセントから外した後10～20秒待ってから、コンピュータからデバイスを取り外してください。システム基板上のスタンバイ電源ライトがオフになっていることを確認してから、システム基板からコンポーネントを取り外してください。このライトの位置を確認するには、「システム基板のコンポーネント」のイラストを参照してください。

1. Dell診断プログラムを実行します。

   いずれかの診断テストが失敗したか、またはDell診断プログラムが起動しませんでしたか？

   はい : Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

   いいえ : 次の質問に進みます。

2. コンピュータとデバイスの電源をオフにし、それらをコンセントから抜いて10～20秒待ちます。
3. コンピュータカバーを開きます。
4. マイクロプロセッサを取り外して取り付けます。
5. マイクロプロセッサファンケーブルが、システム基板のコネクタにしっかりと接続されているか確認します。
6. コンピュータカバーを閉じます。
7. コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。

   コンピュータは正しく動作していますか？

   はい : 問題は解決しました。

   いいえ : Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

システム基板の問題

システム基板の問題は、システム基板のコンポーネントの故障や、電源装置の故障、またはシステム基板に故障したコンポーネントが接続されていることが原因で起こります。

次の手順を実行する前に、固有の問題を識別できるかどうか確認するために、診断ライトを確認してください。システム基板の問題を示すコンピュータメッセージが表示された場合、次の手順を実行して診断チェックリストに必要事項を記入してください。

警告 : この手順を実行する前に、「作業にあたっての注意」を参照してください。

注意 : コンピュータをコンセントから外した後10～20秒待ってから、コンピュータからデバイスを取り外してください。システム基板上のスタンバイ電源ライトがオフになっていることを確認してから、システム基板からコンポーネントを取り外してください。このライトの位置を確認するには、「システム基板のコンポーネント」のイラストを参照してください。

1. コンピュータを再起動し、Dell診断プログラムを実行します。

   いずれかのテストが失敗したか、またはDell診断プログラムが起動しませんでしたか？

   はい : Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

   いいえ : 手順 2に進みます。

2. コンピュータとデバイスの電源をオフにし、それらをコンセントから抜いて10～20秒待ちます。
3. コンピュータカバーを開きます。
4. 電源ユニットの電源ケーブルが、システム基板上のコネクタにしっかりと接続されているか確認します。
5. コンピュータカバーを閉じます。
6. コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。

   コンピュータは正しく動作していますか？

   はい : 問題は解決しました。

   いいえ : 手順 7に進みます。

7. 「コンピュータメモリの問題」の手順を実行します。

   コンピュータは正しく動作していますか？

   はい : 問題は解決しました。

   いいえ : 手順 8に進みます。

8. 「拡張カードの問題」の手順を実行します。

   コンピュータは正しく動作していますか？

   はい : 問題は解決しました。

いいえ： 手順 9に進みます。

9. 「キーボードの問題」の手順を実行します。

   コンピュータは正しく動作していますか？

   はい： 問題は解決しました。

   いいえ： 手順 10に進みます。

10. 「破損したBIOS設定のリセット」の手順を実行します。

   コンピュータは正しく動作していますか？

   はい： 問題は解決しました。

   いいえ： Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

破損したBIOS設定のリセット

コンピュータが起動せず、他に解決する手段が何もない場合、次の手順を実行します。

警告：この手順を実行する前に、「作業にあたっての注意」を参照してください。

注意： コンピュータをコンセントから外した後10～20秒待ってから、コンピュータからデバイスを取り外してください。システム基板上のスタンバイ電源ライトがオフになっていることを確認してから、システム基板からコンポーネントを取り外してください。このライトの位置を確認するには、「システム基板のコンポーネント」のイラストを参照してください。

1. コンピュータとデバイスの電源をオフにし、それらをコンセントから抜いて10～20秒待ちます。
2. コンピュータカバーを開きます。
3. ジャンパプラグをRTCRSTジャンパピンに取り付け、次に取り外します。

   これは、BIOS設定を出荷時の設定にリセットします。

   システム基板のCMOSクリアジャンパ（「CLR CM」とラベルされた）の位置は「ジャンパ設定」を参照してください。

   メモ： スペアのジャンパをお持ちでない場合、PSWDジャンパを使用することができます。ただし、コンピュータの電源を入れる前に、かならずPSWDジャンパをPSWDピンに戻してください。

4. コンピュータカバーを閉じます。
5. コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。
6. セットアップユーティリティを起動し、お使いのコンピュータに合った設定情報に変更します。

   コンピュータ設定を変更したら、セットアップユーティリティを終了し、コンピュータを再起動します。

   コンピュータは正しく動作していますか？

   はい： 問題は解決しました。

   いいえ： Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

メモ： RTCRSTジャンパを使用してリセットした後は、セットアップユーティリティを起動し、デフォルト設定にないオプション設定を復元します。

目次ページに戻る

目次ページに戻る

インターネット接続ファイアウォール

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

今日の常時接続モデムやDSLインターネット接続は、今までにはなかったバンド幅を家庭用に提供しますが、接続されているコンピュータや家庭内ネットワークがハッカーの攻撃目標になる可能性がでてきました。これらの攻撃にはいろいろありますが、目的はインターネットに接続されているコンピュータにアクセスすることです。ハッカーはコンピュータにアクセスすると、ハードドライブを参照してファイルを追加したり削除でき、パスワードやクレジットカード番号を取り出したり、他のシステムやウェブサイトを攻撃するようシステムを設定できます。そのため、これらの攻撃からコンピュータを保護するファイアウォールがますます必要になってきています。この必要性に対応するため、MicrosoftはWindows XPに組み込みのファイアウォールを提供し、外部からのアクセスへの即時保護を提供しています。インターネット接続ファイアウォールを有効にすると、ほとんどの一般ユーザーと小企業のユーザーに適切で基本的な保護が提供されます。

メモ: インターネット接続ファイアウォールを有効にしても、ウイルス検出ソフトは必要です。

ファイアウォールはネットワークセットアップウィザードを実行するときに自動的に有効になります。ネットワーク接続にファイアウォールが有効になると、コントロールパネルの**ネットワーク接続**に赤い背景のあるアイコンが表示されます。インターネット接続ファイアウォールはコンピュータの各インターネット接続に適用できます。ファイアウォールは基本ログイン機能も提供します。ログに示されるイベントすべてがハッカーの攻撃というわけではありません。インターネット接続業者がお客様のコンピュータの有無を確認(ping)するための定期的なチェックなどの害のない様々なタイプのイベントがログに表示されることがあります。

コントロールパネルの各インターネット接続に関連する**プロパティ**ダイアログボックスを使って、ファイアウォールを設定します。ファイアウォールは、有効または無効にできます。上級ユーザーには、追加の設定オプションが利用できます。詳細オプションには、特定のTCP(Transmission Control Protocol)やUDP (User Datagram Protocol)ポートを開いたり閉じたりする機能や、ポートのリダイレクションを有効にする機能などが含まれます。ポートのリダイレクションを使うと、ファイアウォールの特定のポート(ウェブサーバポートのポート80など)へのアクセス要求を、ローカルネットワークの別のコンピュータに自動的に転送することができます。この機能で、家庭用ネットワークのウェブサーバがエッジファイアウォールで保護できるようになります。

目次ページに戻る

[目次ページに戻る]

正面パネルドアおよびヒンジアーム

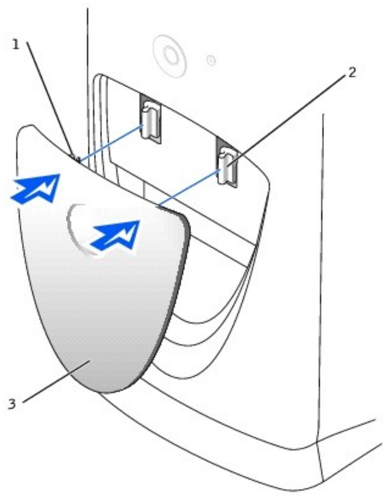
Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

コンピュータへの損傷を避けるため、正面ドアは持ち上げ過ぎると「外れる」ように設計されています。正面ドアが外れてしまった場合、正面ドアとヒンジアームを取り付けなおす必要があります。

正面ドアの取り付け

1. コンピュータをシャットダウンします。
2. ヒンジアームを垂直な位置に下ろします。
3. 正面ドア内側の2つのクリップを2つのヒンジアームに合わせます。
4. 正面ドアのクリップがカチッと両方のヒンジアームに収まるまで内側へ押し込みます。

正面パネルドア



1	正面ドアのクリップ（2）
2	垂直位置のヒンジアーム（2）
3	正面ドア

ヒンジアームの取り付け

1. コンピュータをシャットダウンします。
2. 正面パネルが装着されている場合、正面パネルを取り外します。

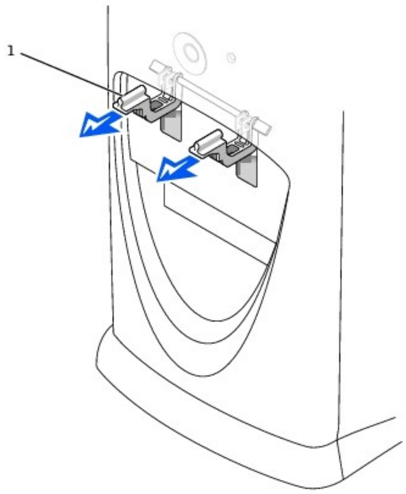
   正面ドアはカチッと音がして2つのヒンジアームから外れます。

3. 両方のヒンジアームを水平な位置に持ち上げます。次に、カチッと音がして所定の位置に収まるまでアームを手前に引きます。

注意：ヒンジアームを所定の位置に引き出す際に力を入れ過ぎると、アームまたは正面パネルに損傷を与える恐れがあります。

   1回でヒンジアームがカチッと所定の位置に戻らない場合、アームを少しだけ元の位置に戻してから再度試みます。

ヒンジアーム



1	水平位置のヒンジアーム（2）

4. ヒンジアームがカチッと所定の位置に収まったら、アームを2、3回上下させてしっかり装着します。
5. 正面ドアを取り付けます。

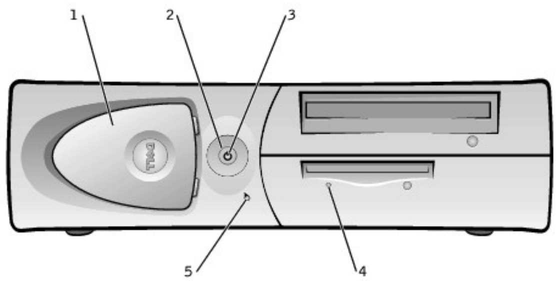
目次ページに戻る

[目次ページに戻る]

コンピュータの正面図

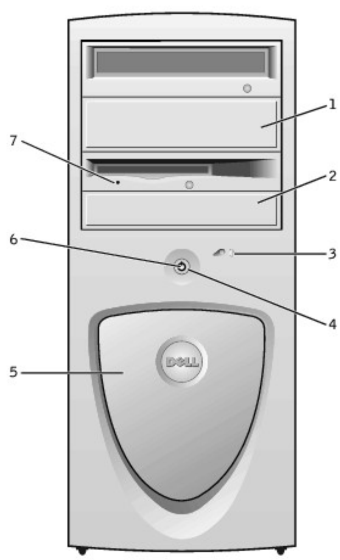
Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

スモールデスクトップコンピュータ



1	正面パネルドア	4	フロッピードライブライト
2	電源ボタン	5	ハードドライブライト
3	電源ライト		

ミニタワーコンピュータ

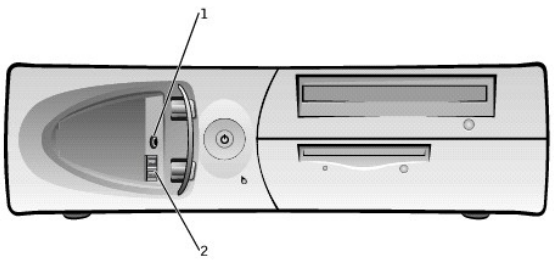


1	取り外し可能ドライブパネル	5	正面パネルドア
2	取り外し可能ドライブパネル	6	電源ライト
3	ハードドライブライト	7	フロッピードライブライト
4	電源ボタン		

正面パネルドア

正面パネルドアを開いて2つのUSBコネクタおよびヘッドフォンコネクタにアクセスします。このドアは取り外し可能です。取り外したり、間違ってヒンジから外れても所定の位置にカチッと戻ります。

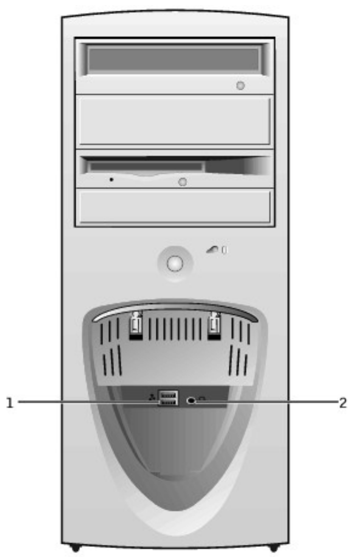
ドアを開いた状態 — スモールデスクトップコンピュータ



1	ヘッドフォンコネクタ
2	USBコネクタ(2)

メモ: USBキーボードまたはマウスのプラグをコンピュータ正面のコネクタに差し込まないでください。

ドアを開いた状態 — ミニタワーコンピュータ



1	USBコネクタ(2)
2	ヘッドフォンコネクタ

メモ: USBキーボードまたはマウスのプラグをコンピュータ正面のコネクタに差し込まないでください。

ボタンとライト

メモ: ライトコードと動作については、「診断ライト」を参照してください。

- 電源ボタン — コンピュータのAC入力電源をコントロールします。Microsoft® Windows®またはWindows NT®を実行しているコンピュータ上での電源ボタンの機能は、次の表を参照してください。

電源ボタンの機能

コンピュータの状態	電源ボタンの機能
オフ	コンピュータをオンにするには、押してから離します。
オン	コンピュータをすぐにオフにするには、6秒以上押し続けます。

	メモ: この方法でコンピュータをオフにすると、データが失われる可能性があります。この方法はコンピュータが普通にシャットダウンしない場合にのみ使用します。
オン（Windows NT）	通常のシャットダウンをおこなうには、押してから離します。 **メモ:** これは、コンピュータにDellシステムユーティリティがロードされている場合にのみ機能します。ユーティリティがない場合、コンピュータは通常のシャットダウンを実行せずにすぐに電源が切れます。
スリープ状態	スリープ状態からコンピュータを復帰させるには、押してから離します。詳細については、「電源管理」を参照してください。

- 電源ライト — このライトは、2色で点滅したり点灯することで異なる状態を示します。
- フロッピードライブライト — ドライブがフロッピーディスクからデータを読み書きしている場合に点灯します。このライトがオフになってから、ドライブからフロッピーディスクを取り出します。
- ハードドライブライト — ハードドライブがドライブからデータを読み書きしている場合に点灯します。
- 診断ライト — コンピュータの問題の診断に役立つ一連のライトです。

デバイスの接続

外付けデバイスをコンピュータの正面パネルに接続する場合は、次の手順に従います。

- 取り付けと設定の具体的な手順については、デバイスに付属のマニュアルを参照してください。

  たとえば、ほとんどのデバイスは、特定のI/Oポートかコネクタに接続しないと正常に動作しません。また、通常プリンタなどの外付けデバイスを正常に動作させるには、デバイスドライバをロードしておく必要があります。

- USBマウスまたはキーボードを接続する場合、コンピュータ背面のポート1 USBコネクタの1つに必ず接続します。
- 必ずコンピュータがオフのときに外付けデバイスを接続します。次に、コンピュータをオンにしてから、外付けデバイスをオンにします（デバイスのマニュアルに特に記載のないかぎり）。

注意: システム基板への損傷を防ぐため、コンピュータの電源を切った後10～20秒待ってから、コンピュータからデバイスを取り外してください。

スピーカー／ヘッドフォンジャック

コンピュータのスピーカー、ヘッドフォン、またはその他のオーディオ出力デバイスを接続するために使用します。このジャックは、ヘッドフォンをサポートするために増幅されています。

USBコネクタ

プリンタやスピーカーなどのUSB互換デバイスをコンピュータに接続するのに使用します。

注意 : USBデバイスは、Microsoft Windows NT環境では動作しません。

メモ: USBマウスまたはキーボードを接続する場合、コンピュータ背面のポート1 USBコネクタの1つに必ず接続してください。

目次ページに戻る

目次ページに戻る

ファイルと設定の転送ウィザード

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

ファイルと設定の転送ウィザードは、個人的なファイルと設定をコンピュータ間で移動するのに使用します（たとえば、新しいコンピュータに買い換えた場合など）。個人ファイルには、コンピュータ上の文書、イメージ、表計算、プレゼンテーション、電子メールメッセージなどが含まれます。ユーザー設定には、コンピュータのディスプレイのプロパティ、ウィンドウのサイズ、ツールバーの設定、ダイヤルアップ接続、インターネットのブックマークなどが含まれます。ファイルと設定の転送ウィザードは、元の（古い）コンピュータ上で実行してデータを集め、移行先（新しい）コンピュータでもう一度実行してデータをインポートします。古いコンピュータが以前のオペレーティングシステムを使用している場合、ウィザードはWindows XPのCD、または新しいWindows XPコンピュータで作成したディスケットから起動できます。新しいコンピュータにネットワークまたは直接シリアル接続を介してデータを移行するか、フロッピーディスク、Zipディスク、または書き込み可能CDなどのリムーバブルメディアに保存します。

ファイルと設定の転送ウィザードを使用するには、次の手順を実行します。

1. 新しいWindows XPコンピュータで、**スタート**をクリックし、**すべてのプログラム → アクセサリ → システムツール**とポイントして、**ファイルと設定の転送ウィザード**をクリックします。
2. **ファイルと設定の転送ウィザードの開始**の画面で、**次へ**をクリックします。
3. **これはどちらのコンピュータですか?** の画面で、**転送先の新しいコンピュータ**を選んでから**次へ**をクリックします。

   Windows XP CDがありますか? 画面が表示されます。

ファイルと設定の転送ウィザードは、ユーザー設定、個人ファイル、またはその両方を新しいコンピュータに移行するのに必要な手順を案内します。CDドライブが利用できない場合、ウィザードを使って、古いコンピュータ上で実行するウィザードディスケットを作成することができます。

メモ: データの収集と移行にかかる時間は、収集するデータ量によって異なります。これには数分間から数時間かかることがあります。

目次ページに戻る

[目次ページに戻る]

情報およびサポートの検索

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

以下の表では、Dellがサポートツールとして提供しているリソースについて説明します。追加のリソースがコンピュータといっしょに出荷される場合もあります。

リソース	内容	リソースの使い方
	『セットアップおよびクイックリファレンスガイド』 • セットアップユーティリティ • サポートツール • お問い合わせの多い質問 • 基本的なトラブルシューティング • アップグレード情報	以下の情報については、『セットアップおよびクイックリファレンスガイド』を参照してください。 • コンピュータのセットアップ • サポートリソースの検索および使用方法 • 問題の診断方法 • ツールとユーティリティの使用方法
 ユーザーズガイド	コンピュータとデバイスの『ユーザーズガイド』	お使いのオペレーティングシステムにもよりますが、デスクトップの**ユーザーズガイド**アイコンをダブルクリックしてハードドライブの電子マニュアルにアクセスするか、**スタート**をクリックし、**ヘルプとサポート**を選びます。次の情報が入手できます。 • コンピュータの使い方 • システムの設定方法 • 部品の取り外しと取り付け • 問題の診断方法 • 仕様 • デバイスのマニュアル • テクニカルサポートを受ける
	『Dell Precision ResourceCD』 • Dell診断プログラム • ドライバ • ユーティリティ • コンピュータとデバイスのマニュアル	コンピュータに付属のResourceCDのメインメニューを参照してください。プルダウンメニューを使って、コンピュータに最適な項目を選びます。次のタスクを実行することができます。 • 問題の診断 • ドライバ(My Drivers)のインストールまたは再インストール • コンピュータおよびデバイスについての情報の入手 **メモ：** ユーザーマニュアルおよびドライバは、Dellから出荷される際に、コンピュータにプリインストールされています。このCDを使用して、マニュアルにアクセスしたり、ドライバを再インストールしたり、診断ツールを実行することができます。 ResourceCDの使い方の詳細については、「Dell Precision ResourceCDの使い方」を参照してください。
	サービスおよび登録ラベル • エクスプレスサービスコードおよびサービスタグナンバー • プロダクトキー(プロダクトIDまたはCOAとも呼ばれます) ラベルはDellコンピュータに貼られています。	エクスプレスサービスコードおよびサービスタグナンバーは、お使いのDellコンピュータを識別するためのものです。 OSセットアップを完了するには、プロダクトキー(またはプロダクトID)が必要になります。 詳細については、『セットアップおよびクイックリファレンスガイド』を参照してください。
support.jp.dell.com	Dell Supportサイト • Dellマニュアル • ファイルライブラリ • ベンダのリンク • ダウンロード	**support.jp.dell.com**へ、お進みください。 • 通常の使用、インストール、およびトラブルシューティングに関するヘルプファイルを入手 • コンピュータおよびデバイスのマニュアルへのアクセス • お使いのコンピュータ用のドライバの入手 • Dellの主要なベンダのオンラインリンクを探索
	OS CD	オペレーティングシステムを再インストールするには、コンピュータに付属のOS CDを使用します。 **メモ：** OS CDに、お使いのコンピュータ用のすべての最新ドライバが含まれているとはかぎりません。OSを再インストールする場合、ResourceCDを使用してコンピュータに付属のデバイス用のドライバを再インストールしてください。 OSの再インストールの詳細については、コンピュータに付属のOSのインストールマニュアルを参照してください。
	OSのインストールガイド	OSの再インストールおよび設定についての情報は、OSのインストールガイドを参照してください。

		
	OSのマニュアル	**スタート**をクリックし、オペレーティングシステムに応じて**ヘルプ**または**ヘルプとサポート**を選んで、OSの情報を入手します。 Windows XPのいくつかの新しい機能に関する情報は、「Windows XPの概要」を参照してください。

目次ページに戻る

[目次ページに戻る]

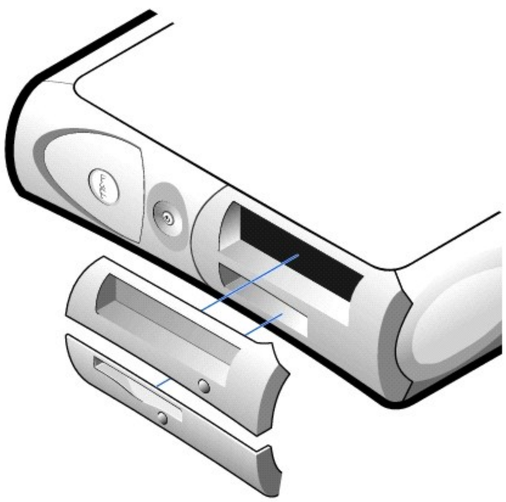
ドライブベイカバー

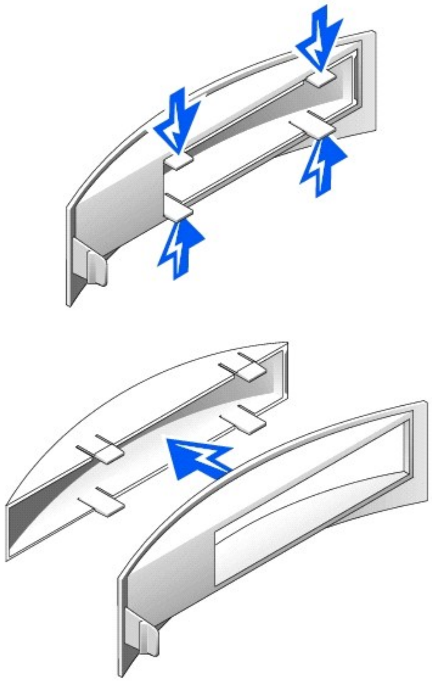
Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

ドライブベイカバーの取り外し — スモールデスクトップコンピュータ

1. コンピュータの正面を手前に向けた状態で、指を使ってドライブベイカバーを取り外します。
2. ドライブベイカバーがポンと音がして外れようになるまでカバーを押します。

ドライブベイカバーの取り外し

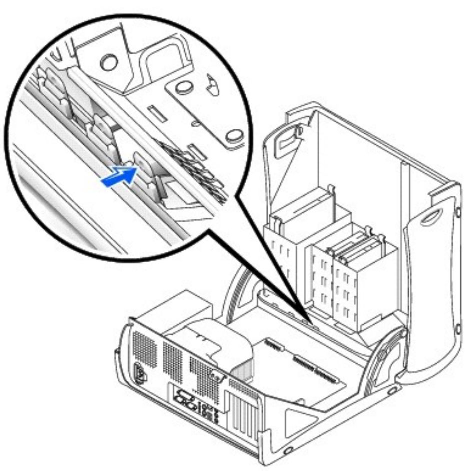




ドライブベイカバーの取り外し — ミニタワーコンピュータ

1. コンピュータカバーを45度の角度に開き、取り外し可能メディアドライブデータケーブルを外します。
2. カバーを90度の角度に開き、コンピュータの内側から挿入タブを外します。
3. ドライブベイカバーがポンと音がして外れようになるまでカバーを押します。

ドライブベイカバーの取り外し



ドライブベイカバーの取り付け

ドライブベイカバーを取り付けるには、「ドライブベイカバーの取り外し」の手順を逆の順序で実行します。

目次ページに戻る

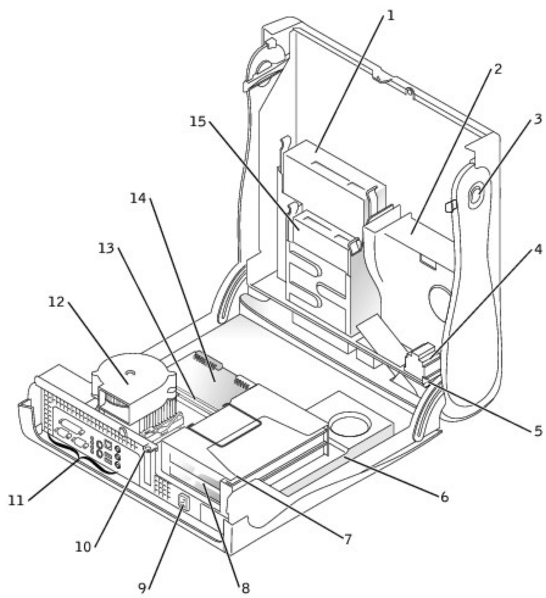
目次ページに戻る

コンピュータの内部

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

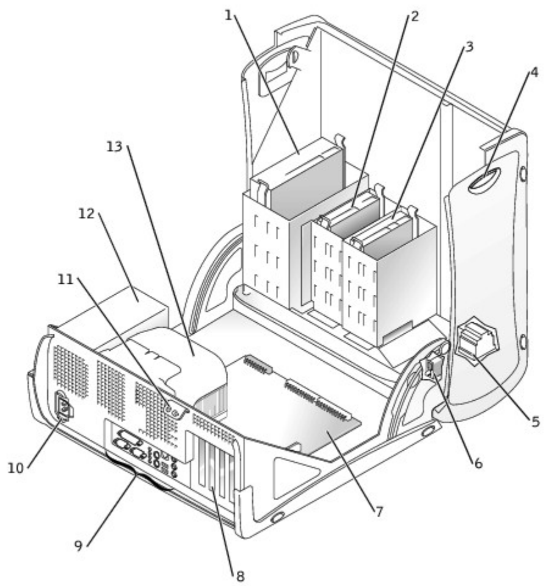
- システム基板のコンポーネント

スモールデスクトップコンピュータ



1	取り外し可能メディアドライブ	9	AC電源コネクタ
2	ハードドライブ	10	パドロックリング
3	カバーリリースボタン(2)	11	背面パネルのコネクタ
4	スピーカー	12	マイクロプロセッサ／送風装置アセンブリ
5	シャーシイントルージョンスイッチ	13	メモリモジュール
6	電源装置	14	システム基板
7	拡張カードケージ	15	フロッピードライブ
8	PCI拡張カードスロット(2)		

ミニタワーコンピュータ

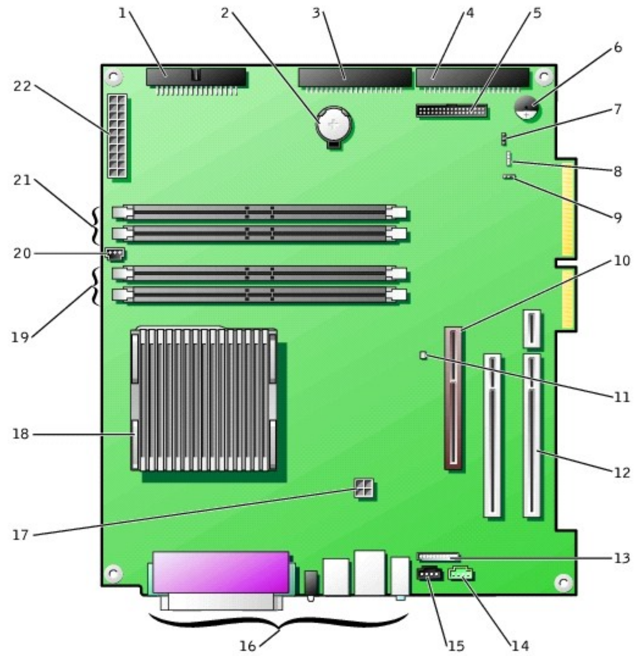


1	取り外し可能メディアドライブ	8	PCI拡張カードスロット（4）
2	フロッピードライブ	9	背面パネルのコネクタ
3	ハードドライブ	10	AC電源コネクタ
4	カバーリリースボタン（2）	11	パドロックリング
5	スピーカー	12	電源装置
6	シャーシイントルージョンスイッチ	13	マイクロプロセッサエアフローカバー
7	システム基板		

システム基板のコンポーネント

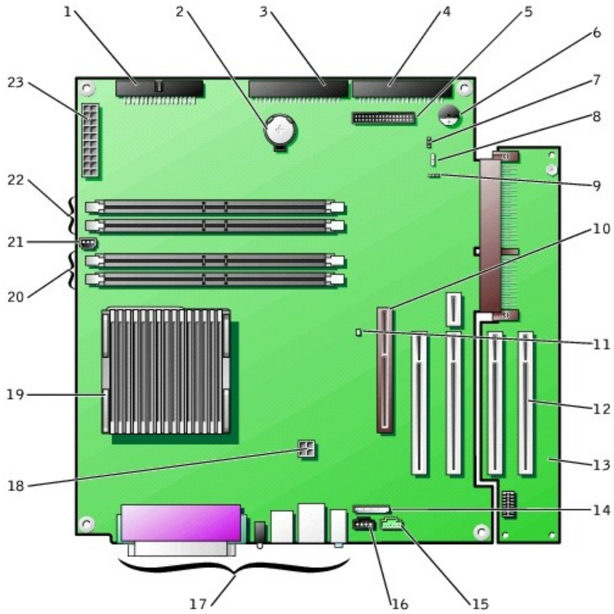
次の図に、システム基板の主要なコネクタおよびコンポーネントを示します。

スモールデスクトップコンピュータ



1	フロッピードライブコネクタ（FLOPPY）	12	PCI拡張カードコネクタ（2）
2	バッテリ	13	正面パネルオーディオコネクタ
3	取り外し可能メディアドライブコネクタ（IDE SEC）	14	テレフォニーコネクタ
4	ハードドライブコネクタ（IDE PRI）	15	CDオーディオコネクタ
5	正面パネルコネクタ	16	背面パネルのコネクタ
6	システム基板スピーカー	17	マイクロプロセッサ電源コネクタ
7	パスワードジャンパ	18	マイクロプロセッサ／ヒートシンクアセンブリ
8	補助のハードドライブ動作ライトコネクタ	19	メモリモジュールソケット（RIMM 1と2）
9	CLR CMOSジャンパ	20	ファン電源コネクタ
10	AGPカードコネクタ	21	メモリモジュールソケット（RIMM 3と4）
11	スタンバイ電源ライト	22	メイン電源コネクタ

ミニタワーコンピュータ



1	フロッピードライブコネクタ(FLOPPY)	13	PCIライザボード
2	バッテリ	14	正面パネルオーディオコネクタ
3	取り外し可能メディアドライブコネクタ(IDE SEC)	15	テレフォニーコネクタ
4	ハードドライブコネクタ(IDE PRI)	16	CDオーディオコネクタ
5	正面パネルコネクタ	17	背面パネルのコネクタ
6	システム基板スピーカー	18	マイクロプロセッサ電源コネクタ
7	パスワードジャンパ	19	マイクロプロセッサ／ヒートシンクアセンブリ
8	補助のハードドライブ動作ライトコネクタ	20	メモリモジュールソケット(RIMM 1と2)
9	CLR CMOSジャンパ	21	ファン電源コネクタ
10	AGPカードコネクタ	22	メモリモジュールソケット(RIMM 3と4)
11	スタンバイ電源ライト	23	メイン電源コネクタ
12	PCI拡張カードコネクタ(4)		

システム基板のラベル

コネクタまたはコンポーネント	**ラベル**
AGP	AGPカードコネクタ
AUDIO	オーディオコネクタ
BATTERY	バッテリソケット
CD	CDオーディオコネクタ
CLR_CM	CMOSジャンパをクリア
CPU	マイクロプロセッサ／ヒートシンクアセンブリ
DIAG LED	診断ライト
FAN1	マイクロプロセッサファンコネクタ
FLOPPY	フロッピードライブコネクタ
FNT PNL	正面パネルコネクタ
FNT PNL AUDIO	正面パネルオーディオコネクタ
KEY BRD_MOUSE	PS/2キーボード／マウスコネクタ
MAIN POWER	メイン電源コネクタ
PARALLEL	パラレルコネクタ
PCI*n*	PCI拡張カードコネクタ
IDE PRI	ハードドライブコネクタのセカンドIDEコネクタ
IDE SEC	取り外し可能メディアドライブコネクタ
PSWD	パスワードジャンパ

RIMM_*n*	メモリモジュールソケット
SERIAL*n*	シリアルコネクタ（2）
SCSI	補助のハードドライブ動作ライトコネクタ
SPEAKER	システム基板スピーカー
STANDBY_LED	スタンバイ電源ライト
TELE	テレフォニー（TAPI）コネクタ
USB_LAN	ネットワークおよびポート1 USB（2）コネクタ

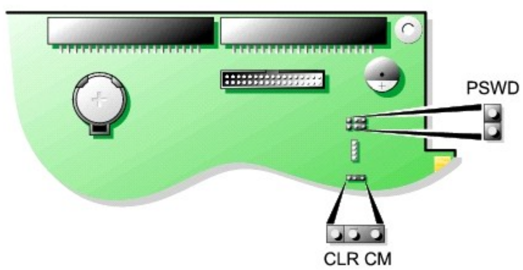
目次ページに戻る

[目次ページに戻る]

ジャンパ設定

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

システム基板ジャンパ



注意 : システム基板上のスタンバイ電源ライトがオフになっていることを確認してから、ジャンパ設定を変更してください。電源が入ったまま変更しようとすると、コンピュータを破損したり予期できない結果を招く恐れがあります。このライトの位置は、「システム基板のコンポーネント」を参照してください。

ジャンパの設定を変更するには、ピンから抜いたプラグを指定のピンに注意深く押し込みます。

システム基板のジャンパ設定

ジャンパ	設定	説明
PSWD	（デフォルト）	パスワード機能が有効になっています。
		パスワード機能が無効になっています。
CLR CM	（ピン1と2）	通常の設定 — ピン1と2は、ジャンパされています。
	（ピン2と3）	CLR CM設定 — ピン2と3は、ジャンパされています。「破損したBIOS設定のリセット」を参照してください。
ジャンパあり	ジャンパなし	

メモ: CLR CM設定は、AGPカードクリップタブの横のシステム基板にもあります。

[目次ページに戻る]

[目次ページに戻る]

管理機能

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

- Dell OpenManage IT Assistant
- Dell OpenManage Client／クライアント用ソフトウェア

次のシステム管理アプリケーションはオプションであり、注文時にコンピュータにプリインストールすることが可能です。

Dell OpenManage IT Assistant

Dell OpenManage IT Assistantは、企業ネットワーク上のコンピュータやその他のデバイスを構成、管理、および監視するための、最もすぐれたDell™システム管理アプリケーションです。IT Assistantは、最新のリモート管理テクノロジを採用しており、業界標準の管理ソフトウェアを組み込んだシステム用の、資産管理、構成管理、イベント（アラート）管理、およびセキュリティ管理を提供します。このタイプのソフトウェアは、システム管理クライアント用ソフトウェアと呼ばれています。

IT Assistantは、以下の業界標準に準拠する計装をサポートします。

- SNMP
- DMI
- CIM

お使いのコンピュータに利用できるInstrumentation（計装）は、DMIおよびCIMを基本にした、Dell OpenManage Client／クライアント用ソフトウェアです。IT Assistantの詳細については、Dell Supportウェブサイトで入手できる『Dell OpenManage IT Assistant ユーザーズガイド』を参照してください。

Dell OpenManage Client／クライアント用ソフトウェア

Dell OpenManage Client／クライアント用ソフトウェアは、IT Assistantなどのリモート管理アプリケーションプログラムが、以下のことを実行するのを可能にするソフトウェアです。

- お使いのコンピュータについての情報へのアクセス（搭載されているプロセッサの数や実行されているオペレーティングシステムの種類など）
- コンピュータのステータスの監視（温度プローブからの熱警告やストレージデバイスからのハードドライブ障害警告を受信することなど）
- コンピュータのステータスの変更（BIOSのアップデート、またはリモートでのシャットダウンなど）

Dell OpenManage Client／クライアント用ソフトウェアの情報は、Dell Supportウェブサイトで入手できる『Dell OpenManage Client／クライアント用ソフトウェアユーザーズガイド』を参照してください。

[目次ページに戻る]

[目次ページに戻る]

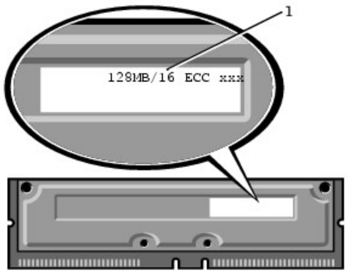
コンピュータメモリ

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

お使いのコンピュータは、容量が64、128、256、512 MBのデュアルチャネルRDRAM RIMMをサポートします。メモリモジュールを取り付ける場合、「コンピュータメモリの取り付けガイドライン」の手順に必ず従ってください。

システム基板のメモリソケットの位置は、「システム基板のメモリコンポーネント」を参照してください。

メモリモジュールのラベル



システム基板のメモリコンポーネント

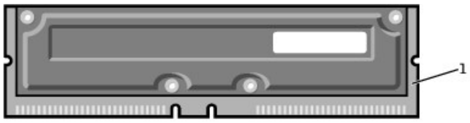


1	メモリモジュールソケット（RIMM 3および4）
2	メモリモジュールソケット（RIMM 1および2）

コンピュータメモリの取り付けガイドライン

- 新しいメモリモジュールを取り付ける前に、お使いのコンピュータ用の最新のBIOSをDell Supportウェブサイト**support.jp.dell.com**からダウンロードしてください。
- システム基板の各メモリソケットは、RIMMまたはCRIMMのどちらかによって占有されている必要があります。

メモリモジュール





1	RIMM
2	CRIMM

注意： メモリのアップグレード中にコンピュータから元のメモリモジュールを取り外した場合、新しいモジュールがDellから購入されたものであっても、お持ちの新しいモジュールとは区別して保管してください。元のメモリモジュールは、RIMM1 と RIMM 2コネクタまたはRIMM 3 と RIMM 4コネクタのどちらかにそれぞれペアで取り付ける必要があります。元のメモリモジュールと新しいメモリモジュールをペアにしないでください。ペアにすると、コンピュータが正しく起動しないことがあります。

- メモリソケットは、同じものを2枚1組で必ずアップグレードします。いいかえれば、2つ1組のソケットには、容量、コンポーネントの数、および速度が同一のモジュールを取り付ける必要があります。ソケットのペアを識別するには、「システム基板のメモリコンポーネント」を参照してください。
- ECCと非ECCモジュールを組み合わせたペアは、常に非ECCモジュールとして機能します。
- モジュールを別のソケットに装着する前に、必ず最初にRIMMをソケット1（プロセッサに最も近い）に取り付けてください。
- システム基板は、PC800メモリモジュールに対応しています。

メモリモジュールの取り外し

警告：通常の操作中に、RIMMは非常に高温になることがあります。十分な時間を置いてRIMMの温度が下がったことを確認してから、RIMMに触れてください。

警告：この手順を実行する前に、「作業にあたっての注意」を参照してください。

注意： コンピュータをコンセントから外した後10～20秒待ってから、コンピュータからデバイスを取り外してください。システム基板上のスタンバイ電源ライトがオフになっていることを確認してから、システム基板からコンポーネントを取り外してください。このライトの位置を確認するには、「システム基板のコンポーネント」のイラストを参照してください。

1. コンピュータとデバイスの電源をオフにし、それらをコンセントから抜いて10～20秒待ちます。
2. コンピュータカバーを開きます。

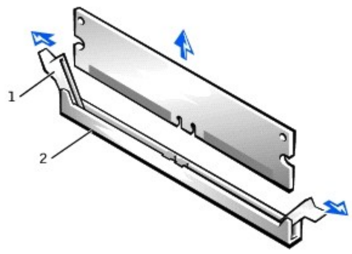
注意： メモリモジュールの損傷を防ぐため、メモリソケット両端の固定クリップを同じ力で押してください。

3. モジュールがソケットから少し持ち上がるまで、メモリソケット両端の固定クリップを同時に外側へ押し開きます。

注意： メモリのアップグレード中にコンピュータから元のメモリモジュールを取り外した場合、新しいモジュールがDellから購入されたものであっても、お持ちの新しいモジュールとは区別して保管してください。元のメモリモジュールは、RIMM 1 とRIMM 2 コネクタまたはRIMM 3 とRIMM 4 コネクタのどちらかにそれぞれペアで取り付ける必要があります。元のメモリモジュールと新しいメモリモジュールをペアにしないでください。ペアにすると、コンピュータが正しく起動しないことがあります。

4. モジュールをソケットから持ち上げて取り外します。

メモリモジュールの取り外し



1	固定クリップ
2	メモリモジュールソケット

メモリモジュールの取り付け

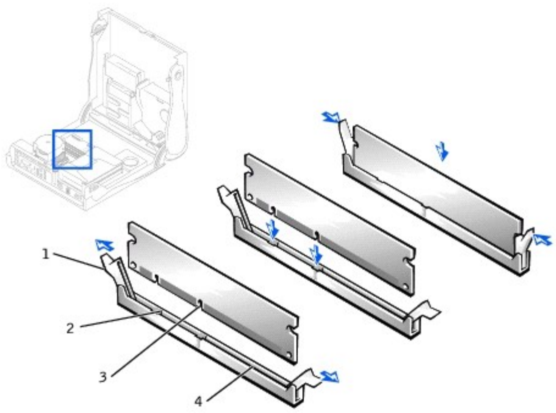
注意： メモリモジュールを取り付ける前に、お使いのコンピュータ用の最新のBIOSをDell Supportウェブサイト**support.jp.dell.com**からダウンロードしてください。

1. 必要に応じて、アップグレードモジュールを取り付ける予定のシステム基板ソケットを占有しているメモリモジュールを取り外します。
2. カチッと音がして開くまで、両側の固定クリップを同時に外側へ押し開きます。
3. モジュールの底面のスロットを、ソケット内側の隆起部に合わせます。

注意： メモリモジュールの損傷を防ぐため、モジュールを取り付ける際は、両端に均等に力をかけてソケットにまっすぐ差し込むようにしてください。

4. 固定クリップがモジュールの両端にカチッと収まるまで、モジュールをスロットに真っ直ぐに押し込みます。モジュールが正しく装着されるとカチッという音が聞こえます。

メモリモジュールの取り付け



1	固定クリップ（2）	3	スロット（2）
2	リッジ（2）	4	メモリモジュールソケット

5. コンピュータカバーを閉じます。
6. コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。

メモ： **Chassis Intrusion**オプションが有効な場合、次のコンピュータ起動時に以下のメッセージが表示されます。Alert! Cover was previously removed.（警告！カバーが取り外されました。）

新しいメモリ容量が既存のシステム設定情報と一致しないことをコンピュータが検出すると、次のメッセージが表示されます。

```
The amount of system memory has changed.
Strike the F1 key to continue, F2 to run the setup utility
```

（システムメモリの容量が変更されました。続けるにはF1キーを、セットアップユーティリティを起動するにはF2キーを押してください。）

7. セットアップユーティリティを起動し、**System Memory**の値を確認します。コンピュータは新しく増設したメモリを認識して、**System Memory**の値を変更しているはずです。新しいメモリ総量が正しければ、手順 9へ進みます。
8. メモリ総量が正しくない場合は、「メモリモジュールの取り外し」の手順 1～手順 3を繰り返します。モジュールがソケットに正しく装着されているか確認します。次に、「メモリモジュールの取り付け」の手順 7～手順 9を繰り返します。
9. **System Memory**の合計が正しい場合、セットアップユーティリティを終了します。
10. Dell診断プログラムを実行し、メモリモジュールが正しく動作していることを確認します。

目次ページに戻る

目次ページに戻る

家庭用および小企業用ネットワーク

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

- ネットワークセットアップウィザード

ネットワークセットアップウィザードには、家庭または小企業のコンピュータ間でファイル、プリンタ、またはインターネット接続などのリソースの共有処理を説明するチェックリストと手順が含まれています。Windows XPでは、Microsoftは家庭用または小企業用ネットワークのセットアップ用オンラインマニュアルとオペレーティングシステムツールの使い勝手を向上させています。オペレーティングシステムの新しい機能には、PPPoE（Point-to-Point Protocol over Ethernet）とビルトインファイアウォールのサポートが含まれています。

ネットワークセットアップウィザード

ホームネットワークウィザードはWindows Meで最初に導入されました。家庭用または小企業用ネットワークを簡単にセットアップできるよう、MicrosoftはWindows XP用により強化されたネットワークセットアップウィザードを開発しました。このバージョンでは、家庭用または小企業用ネットワークのセットアップにより完全なオンラインマニュアルとサポートを提供しています。新しいウィザードが本項で後述するパーソナルファイアウォールを自動的に有効にします（「インターネット接続ファイアウォール」を参照）。

ウィザードを利用するには、次の手順を実行します。

1. **スタート**をクリックし、**すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **通信**とポイントして、**ネットワークセットアップウィザード**をクリックします。
2. **ネットワークセットアップウィザード**が表示されたら、**次へ**をクリックします。
3. **ネットワーク作成のチェックリスト**をクリックします。

   チェックリストが家庭用または小企業用ネットワークのセットアップに必要な手順を紹介し、各手順でさまざまな情報を提供します。必要な接続と準備が完了したら、**ネットワークセットアップウィザード**に戻ります。

4. インターネット接続方法を選んで**次へ**をクリックします。
5. 必要に応じて、希望するインターネット接続を選んで**次へ**をクリックします。
6. コンピュータの説明とコンピュータ名を入力してから**次へ**をクリックします。
7. ネットワーク設定を確認し、**次へ**をクリックしてセットアップを完了します。
8. セットアップ処理が終わったら、**完了**をクリックしてウィザードを閉じます。

目次ページに戻る

[目次ページに戻る]

Windows XPの概要

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

Windows® 2000オペレーティングシステムがより強化されたWindows XPには、一般ユーザー用のWindows XP Home Editionおよびビジネス用のWindows XP Professionalがあります。このマニュアルで述べる特徴は両方のEditionで利用可能ですが、Professionalバージョンはビジネス環境に対応して、ビジネスに重要な生産性、セキュリティ、ネットワーク、および管理機能がより充実しています。

一般ユーザーの方には、Windows XPはWindows 2000/Windows NT®オペレーティングシステムで固有に備わっていた安定性とセキュリティを一層高めて提供します。ノートブックコンピュータへのサポートも向上しています。Windows XPの主な新しい機能には以下のものがあります。

- 改良されたデスクトップとユーザーインタフェース
- ファイルと設定の転送ウィザード
- アプリケーションプログラムの互換性の強化
- システムの復元
- ユーザーの簡易切り替え *
- 拡張された家庭用および小企業用ネットワーク機能*
- インターネット常時接続用パーソナルファイアウォール*

*家庭用および小企業用の機能

ヘルプとサポートセンター

ヘルプとサポートセンターは、Microsoft Windows Me（Millennium Edition）で導入された、以前のオペレーティングシステムのWindowsヘルプに代わるものです。ヘルプとサポートセンターでは、コンピュータおよび搭載されているハードウェアデバイスとインストールされたソフトウェアの使用、設定、およびトラブルシューティングの情報提供と支援をする統合リソースセンターを提供しています。Windows XPでは、ヘルプとサポートセンターはフルテキスト検索を含む充実した検索機能、およびハードドライブ上のファイルに加えて複数のリモートサイトでの検索機能を備えています。プリントコマンドを1回使用するだけで、章全体のヘルプの内容を印刷できます。

ヘルプとサポートセンターを開くには、**スタート**ボタンをクリックしてから**ヘルプとサポート**をクリックします。ホームページから検索したり、情報のカテゴリを選んで、コンピュータの使用についての作業や情報トピックに進むことができます。インストールされているハードウェアデバイスとソフトウェアを含む、お使いのDell™コンピュータの使用方法についての情報は、**ユーザーガイドおよびシステムガイド**をクリックしてください。

[目次ページに戻る]

目次ページに戻る

システムパスワードとセットアップパスワード

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

システムパスワード

システムパスワードを設定すると、パスワードを知っているユーザーでなければ、コンピュータの全機能を使用することはできません。お使いのコンピュータは、出荷時にはシステムパスワードが設定されていません。

注意：パスワードはコンピュータ内のデータに対してセキュリティを提供しますが、絶対に安全であるというわけではありません。より強固なセキュリティが必要なデータについては、データ暗号化プログラムなどの保護機能をご自身でご用意ください。

注意：システムパスワードを設定せずに作動中のコンピュータから離れたり、コンピュータをロックせずに放置した場合、第三者がジャンパの設定を変更して、パスワードを解除することができます。その結果、誰でもハードドライブ内のデータにアクセスすることができるようになります。

セットアップユーティリティの**System Password**の設定

メモ：**Enabled**または**Disabled**のいずれかが表示されている場合、システムパスワードの変更や新しいパスワードの入力はできません。**System Password**が**Not Enabled**に設定されている場合にのみ、システムパスワードを設定することができます。

- **Enabled** — システムパスワードが設定されています。
- **Disabled** — システム基板のジャンパ設定によって、システムパスワード機能が無効になっています。
- **Not Enabled** — システムパスワードが設定されていない状態で、システム基板のパスワードジャンパが有効（デフォルト）設定になっています。

システムパスワードの設定

1. **Password Status**が**Unlocked**に設定されていることを確認します。
2. **System Password**をハイライト表示し、左右矢印キーを押します。

   オプション名が**Enter Password**に変わり、その後ろに32文字分の空のフィールドが現れます。

3. 新しいシステムパスワードを入力します。

   32文字まで入力できます。

   それぞれの文字キー（または空白としてのスペースバー）を押すごとに「*」が表示されます。パスワードの設定操作では、キーボード上の位置でキーが認識され、大文字と小文字は区別されません。たとえば、パスワード設定時に*M* を入力しても、*M*と*m*の両方が正しい文字として認識されます。

   無効なキーの組み合わせもあります。そのような組み合わせで入力すると、スピーカーからビープ音が鳴ります。

   入力した文字を訂正する場合、<Backspace>または左矢印キーを押します。

メモ：システムパスワードの入力を途中で中止したい場合は、<Tab>または<Shift><Tab>を押して別のフィールドに移動するか、手順 5を終了する前に<Esc>を押します。

4. <Enter>を押します。

   新しいシステムパスワードが32文字未満の場合、フィールド全部に「*」が挿入されます。次に、オプション名が**Verify Password**に変わり、その後ろに32文字分の別の空のフィールドが現れます。

5. パスワードを確認するために、もう一度パスワードを入力して<Enter>を押します。

   パスワード設定は**Enabled**に変わります。これで、システムパスワードが設定されました。セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを使用することができます。コンピュータを再起動すると、パスワード保護機能は有効になります。

システムパスワードの使い方

コンピュータを起動すると、**Password Status**が**Unlocked**に設定されている場合、次のプロンプトが表示されます。

```
Type in the password and
- press <ENTER> to leave password security enabled.
- press <CTRL><ENTER> to disable password security.
Enter password:
```

（パスワードをタイプして、<ENTER> を押すと、パスワードセキュリティは有効なままです。<CTRL><ENTER>を押すと、パスワードセキュリティは無効になります。パスワードを入力してください。）

Password Statusが**Locked**に設定されている場合、次のプロンプトが表示されます。

```
Type the password and press <Enter>.
```

（パスワードを入力し、<Enter>を押してください。）

メモ: セットアップパスワードが設定されている場合、コンピュータはセットアップパスワードをシステムパスワードの代用として受け付けます。

入力したシステムパスワードが間違っていると、次のメッセージが表示されます。

```
** Incorrect password. **

Enter password:
```

（誤ったパスワード。パスワードを入力してください。）

入力したシステムパスワードが2回目も間違っていると、同じメッセージが表示されます。システムパスワードを3回間違えると、それ以降は以下のメッセージが表示されます。

```
** Incorrect password. **
Number of unsuccessful password attempts: 3
System halted! Must power down.
```

（誤ったパスワード。間違ったパスワード入力の回数：3システムが停止しました！電源を落としてください。）

コンピュータの電源を入れなおした後でも、再び誤ったシステムパスワード、または不完全なシステムパスワードを入力する度に、上記のメッセージが表示されます。

メモ: セットアップユーティリティのパスワードステータスオプションの他に、システムパスワードとセットアップパスワードオプションも併用すると、権限のない変更に対してシステムの保護を強化できます。

システムパスワードの取り消しと変更

1. セットアップユーティリティを起動して、**Password Status**が**Unlocked**に設定されていることを確認します。
2. コンピュータを再起動して、システムパスワードを要求するプロンプトを表示させます。
3. プロンプトが表示されたら、システムパスワードを入力します。
4. <Enter>を押して通常の操作を続ける代わりに、<Ctrl><Enter>を押して現在のシステムパスワードを無効にします。
5. **System Password**オプションに**Not Enabled**が表示されていることを確認します。

   System Passwordオプションに**Not Enabled**と表示されたら、システムパスワードは取り消されています。新しいパスワードを設定する場合、手順 6に進みます。**System Password**オプションに**Not Enabled**が表示されない場合、<Alt><B>を押してコンピュータを再起動し、手順 3～5を繰り返します。

6. 新しいパスワードを設定する場合は、「システムパスワードの設定」の手順に従います。

セットアップパスワード

セットアップパスワードを使うと、パスワードを知っているユーザーでなければセットアップユーティリティの全機能を使用することはできません。お使いのコンピュータは、出荷時にはセットアップパスワードが設定されていません。

セットアップユーティリティの**Setup Password**オプション

- **Enabled** — セットアップパスワードの設定ができません。セットアップパスワードを変更するには、セットアップパスワードを入力する必要があります。
- **Not Enabled** — セットアップパスワードの設定ができます。パスワード機能は有効ですがパスワードが設定されていません。

セットアップパスワードの設定

1. セットアップユーティリティを起動して、**Setup Password**が**Not Enabled**に設定されていることを確認します。
2. **Setup Password**をハイライト表示し、左右矢印キーを押します。

   パスワードの入力と確認のプロンプトが表示されます。パスワードに使用できない文字を指定すると警告のビープ音が鳴ります。

3. パスワードを入力して確認します。

   パスワードの確認が終わると、**Setup Password**は**Enabled**に変わります。これ以降は、セットアップユーティリティを起動する際に、セットアップパスワードの入力を求められます。

メモ: セットアップパスワードとシステムパスワードは同じでもかまいません。

メモ: これらのパスワードが異なる場合でも、セットアップパスワードをシステムパスワードの代わりに入力することができます。ただし、システムパスワードは、セットアップパスワードの代わりに使用することができません。

Setup Passwordへの変更はただちに有効になります（再起動は必要ありません）。

セットアップパスワードが有効な場合のコンピュータの操作

セットアップユーティリティを起動すると、**Setup Password**オプションがハイライト表示され、パスワードの入力を求められます。

正しいパスワードを入力しないと、セットアップユーティリティ画面は表示されますが、セットアップユーティリティのオプションを変更することはできません。

メモ: セットアップユーティリティのパスワードステータスオプションの他に、システムパスワードとセットアップパスワードオプションも併用すると、権限のない変更に対してシステムの保護を強化できます。

セットアップパスワードの取り消しと変更

既存のセットアップパスワードを変更するには、そのパスワードを知っている必要があります。

1. セットアップユーティリティを起動します。
2. セットアップパスワードを既に設定している場合、プロンプトでそれを入力します。
3. **Setup Password**をハイライト表示させてから、左右矢印キーを押して、既存のセットアップパスワードを取り消します。

   設定は**Not Enabled**に変わります。

4. 新しいセットアップパスワードを設定する場合、「セットアップパスワードの設定」の手順を実行します。

システムパスワードとセットアップパスワードの無効化

注意: この手順をおこなうと、システムパスワードとセットアップパスワードの両方が消去されます。

警告: この手順を実行する前に、「作業にあたっての注意」を参照してください。

注意: コンピュータをコンセントから外した後10～20秒待ってから、コンピュータからデバイスを取り外してください。システム基板上のスタンバイ電源ライトがオフになっていることを確認してから、システム基板からコンポーネントを取り外してください。このライトの位置は、「システム基板のコンポーネント」を参照してください。

1. コンピュータとデバイスの電源をオフにし、それらをコンセントから抜いて10～20秒待ちます。
2. コンピュータカバーを開きます。
3. PSWDジャンパからジャンパプラグを取り外し、パスワード機能を無効にします。

   システム基板のパスワードジャンパ(「PSWD」とラベルされた)の位置は「ジャンパ設定」を参照してください。

4. コンピュータカバーを閉じます。
5. コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。

   既存のパスワードは消去されます。

メモ: **Chassis Intrusion**オプションが有効な場合、次のコンピュータ起動時に以下のメッセージが表示されます。

`ALERT! Cover was previously removed.`(警告！カバーが取り外されました。)

6. 新しいパスワードを設定する場合は、手順 7に進みます。

メモ: 新しいシステムパスワードまたはセットアップパスワードを設定する前に、PSWDジャンパプラグを取り付けて、パスワード機能を有効にします。

7. コンピュータとデバイスの電源をオフにし、それらをコンセントから抜いて10～20秒待ちます。
8. コンピュータカバーを開きます。
9. PSWDジャンパプラグを取り付けます。
10. コンピュータカバーを閉じます。
11. コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。

    PSWDジャンパを取り付けてからコンピュータをオンにすると、パスワード機能が有効になります。セットアップユーティリティを起動すると、どちらのパスワードオプションも**Not Enabled**になっています。これは、パスワード機能が有効でも、パスワードが設定されていないことを意味します。

12. 新しいシステムパスワード、またはセットアップパスワードを設定します。

目次ページに戻る

目次ページに戻る

マイクロプロセッサ

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

マイクロプロセッサの取り外し

メモ: 技術者以外の方は、次の手順をおこなわないことをお勧めします。

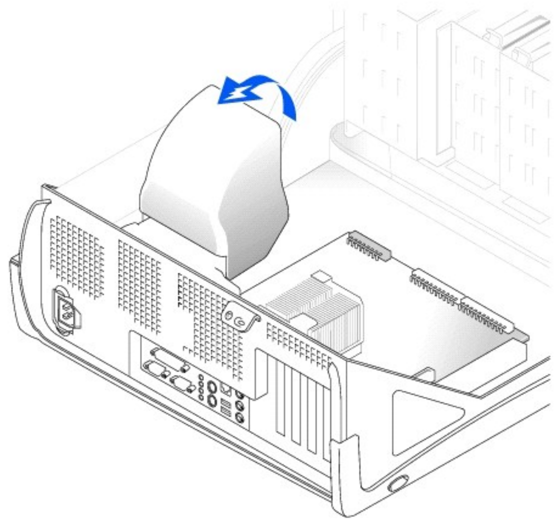
警告:通常の操作中に、プロセッサは非常に高温になります。十分な時間を置いてプロセッサの温度が下がったのを確認してから、プロセッサに触るようにしてください。

警告:この手順を実行する前に、「作業にあたっての注意」を参照してください。

注意:コンピュータをコンセントから外した後10～20秒待ってから、コンピュータからデバイスを取り外してください。システム基板上のスタンバイ電源ライトがオフになっていることを確認してから、システム基板からコンポーネントを取り外してください。このライトの位置を確認するには、「システム基板のコンポーネント」のイラストを参照してください。

1. ファン電源ケーブルをシステム基板から外します。
2. 12 V電源ケーブルをシステム基板から外します。
3. ミニタワーコンピュータの場合、エアフローカバーを引き上げます。

エアフローカバーの引き上げ — ミニタワーコンピュータ

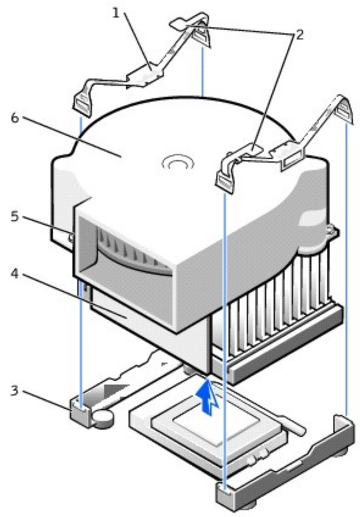


4. スモールデスクトップコンピュータの場合、ヒートシンクは送風装置に装着されています。固定クリップを取り外して、ヒートシンク／送風装置アセンブリを取り外します。

   ミニタワーコンピュータの場合、金属製の固定用ラッチを押し下げて、固定クリップが保持基盤から外れるようにします。次に、クリップを保持基盤のタブから持ち上げ、ヒートシンクから取り外します。

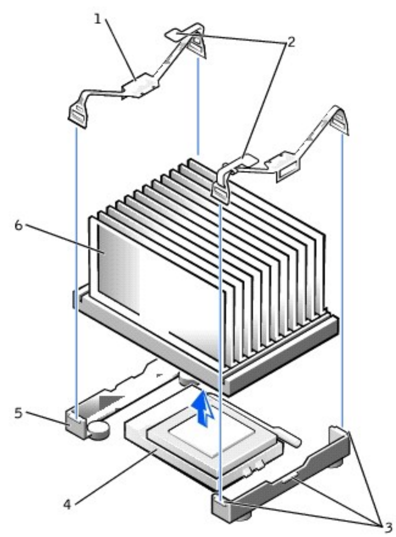
注意:サーマルグリースが付いた面を上に向けてヒートシンクを置きます。サーマルグリースが作業面に付くようにヒートシンクを置かないでください。

ヒートシンク／送風装置アセンブリの取り外し — スモールデスクトップコンピュータ



1	固定クリップ(2)	4	ヒートシンク
2	ラッチ(2)	5	ネジ(2)
3	保持基盤	6	送風装置

ヒートシンクの取り外し — ミニタワーコンピュータ



1	固定クリップ(2)	4	ZIFソケット
2	ラッチ(2)	5	保持基盤
3	タブ(3)	6	ヒートシンク

5. ヒートシンクまたはヒートシンク／送風装置アセンブリを持ち上げてマイクロプロセッサから取り外します。

6. スモールデスクトップコンピュータの場合、送風装置の2本のネジを取り外して、ヒートシンクから送風装置を取り外します。

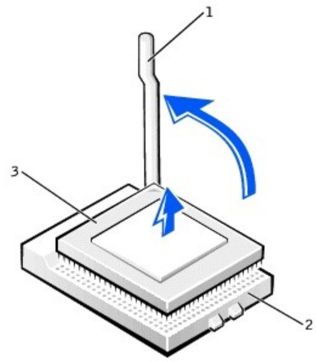
注意：Dellのマイクロプロセッサアップグレードキットを取り付ける場合以外、元のヒートシンクと固定クリップは廃棄しないでください。取り付けるマイクロプロセッサアップグレードキットがDellからのものでない場合、新しいマイクロプロセッサを取り付ける際は、元のヒートシンク、送風装置、および固定クリップを再利用してください。

ZIFソケットには、マイクロプロセッサをZIFソケットに固定したりZIFソケットから解放するための、レバータイプのハンドルが付いています。

7. マイクロプロセッサが外れるまで、ソケットレバーをまっすぐ引き上げます。

注意：マイクロプロセッサパッケージをZIFソケットから取り外すときは、ピンを曲げないように気をつけてください。パッケージのピンが曲がると、マイクロプロセッサに修復できない障害が生じます。

マイクロプロセッサの取り外し



1	ZIFソケットレバー	3	マイクロプロセッサ
2	ZIFソケット		

8. マイクロプロセッサをソケットから取り外します。

   新しいマイクロプロセッサをすぐに取り付けられるよう、リリースレバーは広げたままにしておきます。

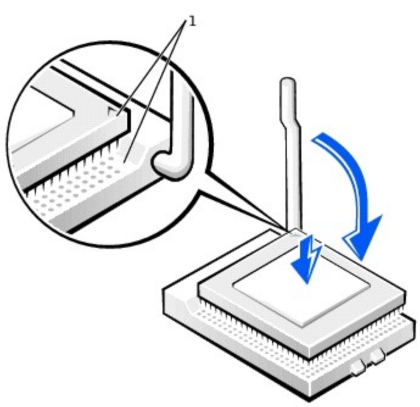
マイクロプロセッサの取り付け

注意：マイクロプロセッサとコンピュータに修復できない損傷を与えないため、マイクロプロセッサパッケージをソケットに正しく装着してください。

1. ZIFソケットのリリースレバーが完全に開いていない場合、その位置まで動かします。
2. マイクロプロセッサパッケージの1番ピン（斜角になった角）をソケットの1番ピンに合わせます。

メモ：マイクロプロセッサの1番ピンは、マイクロプロセッサの1つの角に小さな三角が付いていることでわかります。ソケットの1番ピンは、ソケットの1つの角に小さな三角が付いていることでわかります。

マイクロプロセッサの取り付け



1	マイクロプロセッサとソケットの1番ピンの角

注意：マイクロプロセッサのピンは壊れやすいものです。マイクロプロセッサへの損傷を防ぐため、マイクロプロセッサとソケットがきちんと揃っているか確認します。プロセッサを取り付ける際は、力を入れすぎないでください。

3. 慎重にマイクロプロセッサをソケットに置き、軽く押さえて装着します。

4. カチッと所定の位置に収まるまで、レバーをソケットへ押し下げて、マイクロプロセッサパッケージを固定します。

注意：取り付けるマイクロプロセッサアップグレードキットがDellからのものでない場合、マイクロプロセッサを取り付ける際は、もとのヒートシンクおよび固定クリップを再利用してください。

5. 新しいヒートシンクを取り付ける場合、ヒートシンクの底面を覆っているフィルムをはがします。

6. スモールデスクトップコンピュータの場合、送風装置をヒートシンクに装着する2本のネジを取り付けます。

7. ヒートシンクまたはヒートシンク／送風装置アセンブリをマイクロプロセッサに押し下げ、ヒートシンクが保持基盤に収まるようにします。

8. 保持基盤のタブに、ラッチが被さっていないほうの固定クリップの端をそれぞれはめ込みます。次に、クリップの中央を保持基盤の中央のタブにはめ込み、クリップのラッチを押し込んでクリップを保持基盤に固定します。

9. ミニタワーコンピュータの場合、エアフローカバーをヒートシンク上に下ろします。

10. 冷却ファン電源ケーブルのプラグを、システム基板のコネクタに差し込みます。

11. 12 V電源ケーブルのプラグをシステム基板のコネクタに差し込みます。

12. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータをコンセントに接続してから電源を入れます。

コンピュータ機能の確認

コンピュータを起動すると、コンピュータは新しいマイクロプロセッサを認識し、セットアップユーティリティのコンピュータ設定情報を自動的に変更します。

メモ：カバーを開けて閉じると、次のシステム起動時に、シャーシイントルージョンディテクタは以下のメッセージを表示します。

`ALERT! Cover was previously removed.`（警告! カバーが取り外されました。）

1. セットアップユーティリティを起動し、システムデータの領域で、搭載されたマイクロプロセッサが正しく認識されていることを確認します。

   セットアップユーテリティの使い方については、『ユーザーズガイド』を参照してください。

2. セットアップユーテリティで、左右矢印キーを押して**Reset**を選択し、それから**Enabled**、**Enabled-Silent**、または**Disabled**を選んで**Chassis Intrusion**オプションをリセットします。

メモ：セットアップパスワードが他の人によって設定されている場合は、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法をネットワーク管理者にお問い合わせください。

3. Dell診断プログラムを実行し、新しいプロセッサが正しく動作していることを確認します。

目次ページに戻る

[目次ページに戻る]

電源管理

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

お使いのコンピュータは、作業しない場合に少ない電力で動作するよう設定できます。コンピュータにインストールされたOSおよびセットアップユーティリティの特定のオプション設定を使って、電力使用をコントロールします。節電されている期間を｢スリープ状態｣と呼びます。

- **スタンバイ** — このスリープ状態では、ほとんどのコンポーネント（冷却ファンを含む）への電力は減少されるか切られます。ただし、システムメモリは活動状態にあります。

  この状態はWindows NT® 4.0ではサポートされていません。

メモ: スタンバイ状態になるには、コンピュータに取り付けられたすべてのコンポーネントがこの機能をサポートし、また適切なドライバがロードされている必要があります。詳細については、各コンポーネントの製造元のマニュアルを参照してください。

- **休止状態** — このスリープ状態は、システムメモリのすべてのデータをハードドライブに書き込み、それからシステムの電源を切ることによって、電力消費を最小にします。この状態からウェイクアップするとコンピュータが再起動し、メモリの内容が回復されます。そしてコンピュータは休止状態に入った時の状態から動作を開始します。

  この状態はWindows NT 4.0ではサポートされていません。

メモ: 休止状態になるには、コンピュータに取り付けられたすべてのコンポーネントがこの機能をサポートし、また適切なドライバがロードされている必要があります。詳細については、各コンポーネントの製造元のマニュアルを参照してください。

- **シャットダウン** — このスリープ状態では、補助用のわずかな量を除いてコンピュータからすべての電源を切ります。コンピュータがコンセントに接続されているかぎり、自動的にまたはリモートで起動することができます。たとえば、セットアップユーティリティの**Auto Power On**を使うと、コンピュータを特定した時間に自動的に起動することができます。また、ネットワーク管理者はPME（リモートウェイクアップなど）を使って、コンピュータをリモートで起動することができます。

次の表に、それぞれのオペレーティングシステムで利用できるスリープ状態と、それぞれの状態から復帰させるために使用できる方法を一覧表示します。

スリープの状態	**ウェイクアップの方法**	
	Windows® 2000およびWindows XP	**Windows NT 4.0**
スタンバイ	電源ボタンを押す オートパワーオン PME PS/2マウスを動かすかクリックする USBマウスを動かすかクリックする PS/2キーボードのキーを押す USBキーボードのキーを押す USBデバイスアクティビティ	サポートされていない
休止状態	電源ボタンを押す オートパワーオン PME	サポートされていない
シャットダウン	電源ボタンを押す オートパワーオン PME	電源ボタンを押す オートパワーオン PME

メモ: 電源管理の詳細については、OSのマニュアルを参照してください。

[目次ページに戻る]

目次ページに戻る

認可機関の情報

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

- VCCI 規定（情報処理装置等電波障害自主規制協議会規定）
- ENERGY STAR®への準拠

空間に放射されたり、電源コードやケーブルを経由して伝導されたりする、あらゆる電波や放射物を電磁干渉（EMI）といいます。この電波や放射物が、無線操縦や他の安全業務の機能を危険にさらしたり、機能低下を招いたり、妨害したり、または無線通信業務を繰り返し中断させたりすることがあります。 無線通信サービスには、AM/FMの商業放送、テレビ、携帯電話の各種サービス、レーダー、航空交通管制、ポケットベル、PCS（Personal Communication Services）などがありますが、これらに限定されません。 これらの認可サービスは、コンピュータシステムを含むデジタル装置などの意図的には電磁波を放射しない装置とともに、電磁環境に影響を与えます。

EMC（電磁的両立性）とは、多数の電子機器が同一の環境で共に正常に動作する能力のことです。 本コンピュータシステムは、認可機関のEMIに関する制限に準拠する設計がなされており、適合していますが、特定の設置条件で干渉が発生しないという保証はありません。この装置が無線通信サービスに対して干渉するかどうかは、その装置の電源をオン／オフすることによって判定できるので、以下の方法を1つ、またはそれ以上実施して問題を解決してください。

- 受信アンテナの方向を変えてください。
- 受信機に対してコンピュータを再配置してください。
- 受信機からコンピュータを遠ざけてください。
- コンピュータを別のコンセントにつないで、コンピュータと受信機を別々の分岐回路上に置いてください。

必要に応じて、Dellのテクニカルサポート担当者、またはラジオ／テレビの技術者にお問い合わせください。

Dellのコンピュータシステムは、システムが置かれる電磁環境に合わせた設計、テスト、分類がなされています。 一般に、電磁環境は、次のように分類されます。

- クラスA — 主として商工業環境用
- クラスB — 主として住宅環境用

情報技術装置（ITE; Information Technology Equipment）は、周辺機器、拡張カード、プリンタ、入出力（I/O）装置、モニタなどを含み、システムに統合または接続されるもので、コンピュータシステムの電磁環境の分類に適合しなければなりません。

シールド付き信号ケーブルに関する注意： 周辺機器のDELL製装置への接続にはシールド付きケーブルのみを使用して、無線通信サービスとの干渉の可能性を減らしてください。 シールド付きケーブルの使用により、目的とする環境に適したEMC分類基準を満たします。

大半のDell 製コンピュータシステムは、クラスB環境に分類されています。しかし、コンピュータシステムに特定のオプションを付加することにより、一部の構成はクラスAに類別されることもあります。お使いのシステムまたは周辺機器の電磁的類別を確認するには、次項を参照してください。以下の項には、EMC/EMIまたは製品の安全に関する情報が記載されています

VCCI規定（情報処理装置等電波障害自主規制協議会規定）

ほとんどのDellのコンピュータシステムは、VCCIでクラスB情報装置（ITE）として類別されています。 しかし、コンピュータシステムに特定のオプションを付加することにより、一部の構成はクラスA情報技術装置に類別されることもあります。情報技術装置は、周辺機器、拡張カード、プリンタ、入出力（I/O）装置、モニタなどを含み、システムに統合または接続されるもので、コンピュータシステムの電磁環境の類別（クラスAまたはクラスB）に適合しなければなりません。

お手元のコンピュータにどちらの類別が適用されているかを確認するには、コンピュータの底部や背面パネルに添付されているVCCI表示ラベル（「VCCI クラスA情報技術装置基準」および「VCCI クラスB情報技術装置基準」のラベルを参照）を調べてください。 VCCIの類別を確認できたら、次の該当する部分をご覧ください。

クラスA情報技術装置

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の
基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で
使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には
使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCIクラスA情報技術装置基準のマーク

VCCI表示ラベルに次のマークが含まれる場合、お使いのコンピュータはクラスA製品です。

VCCI

クラスB情報技術装置

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の
基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は家庭環境で
使用することを目的としていますが、ラジオやテレビジョン受信機
に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI クラスB情報技術装置基準のマーク

VCCI表示ラベルに次のマークが含まれる場合、お使いのコンピュータはクラスB製品です。

ENERGY STAR®への準拠

特定の構成のDell™コンピュータは、省エネコンピュータを目指した米国環境保護局(EPA)が規定する要件を満たしています。お使いのコンピュータの正面パネルにENERGY STAR®エンブレムがあれば、このコンピュータの出荷時の構成はこの規格に準拠しており、コンピュータのENERGY STAR®電力管理機能のすべてが使用できます。

メモ: ENERGY STAR® エンブレムの付いたDellコンピュータは、DellからのK出荷時にEPAENERGY STAR® の要件に従って構成されていることが証明されています。この構成になんらかの変更(拡張カードまたはドライブの増設など)をおこなうと、コンピュータの消費電力はEPAのENERGY STAR® Computersプログラムで設定されている限界を超える恐れがあります。

ENERGY STAR®エンブレム

EPAのENERGY STAR®コンピュータプログラムは、省エネコンピュータ製品を促進することによって大気汚染を減らすために、EPAとコンピュータメーカーが共同で作成したものです。EPAでは、ENERGY STAR®コンピュータ製品を使用することによって、コンピュータユーザの年間電気料が最高で20億ドル節約されると予測しています。この電気使用量の節減によって、温室効果の一番の原因となる二酸化炭素の発生、および酸性雨の主要な原因である二酸化硫黄と窒素酸化物の発生を減少させることができます。

また、夜間および週末などコンピュータを長時間使用しないときに電源を切ることによって、電気使用量とそれによる悪影響を減少させることができます。

目次ページに戻る

[目次ページに戻る]

システムの復元

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

Windows XPのシステムの復元機能は、不具合が起きた場合に個人データファイル（ワード文書、画像、電子メールなど）を失わずにオペレーティングシステムを復元する機能を提供します。

システムの復元はシステムファイルの変更やアプリケーションファイルの変更を監視して、変更が起こる前の以前のバージョンを記録または保存します。システムの復元は、復元ポイントの記録を回転させながら維持します。つまり、使用容量を抑えるために古い復元ポイントを削除して新しいポイント用のスペースを作ります。

オペレーティングシステムに重大な問題が起こった場合、システムの復元はセーフモードまたは通常モードから使用でき、最適なシステム機能を復元して以前のシステム状態に戻すことができます。

メモ: システムの復元は、ユーザーデータまたは文書ファイルを変更しませんので、復元によってファイル、メール、履歴やお気に入りがなくなることはありません。

メモ: Dell は、データファイルを定期的にバックアップすることをお勧めしています。システムの復元は変更を監視したり、データファイルを復元しません。ハードドライブの元のデータが誤って削除されたり、上書きされた場合、またはハードドライブの不具合でアクセス不能になった場合、失ったデータや損傷したデータを復元するにはバックアップファイルが必要です。

システムの復元の使い方

システムの復元は、システムおよびアプリケーションプログラムのファイルの主要なセットを監視し、変更される前のこれらのファイルの状態を記録したりコピーします。システムの復元は復元ポイントを自動的に作成しますので、ユーザーが介入する必要はありません。また、ご希望の場合、復元ポイントを手動で作成できます。

以前のシステム状態を選ぶことができるように、復元ポイントが作成されます。各復元ポイントは特定の時点のシステム状態に復元するのに必要な情報を集めます。復元ポイントには3種類あります。

- システム（自動的に作成）復元ポイント（コンピュータでスケジュールされています）
- インストール（イベントが起動）復元ポイント（プログラムがインストールされた時）
- 手動復元ポイント（ユーザーが必要に応じて作成します）

スケジュールされた自動復元ポイント

デフォルトで、システムの復元はコンピュータを実行する日すべてに復元ポイントを作成します。コンピュータの電源が1日以上切られている場合、次にコンピュータの電源を入れた時に新しい復元ポイントが作成されます。

イベントが起動する復元ポイント

イベントが起動する復元ポイントは、システムに重要な変更が加えられる前に作成されます。システムの復元は、以下のイベントの前に復元ポイントを作成します。

- アプリケーションのインストール — システムの復元が、Windows XP対応のアプリケーションプログラムをインストールする前に復元ポイントを作成します。 古いプログラムをインストールする場合、インストール前に手動で復元ポイントを作成するとよいでしょう。
- 自動更新のインストール — アップデートをインストールする場合、システムの復元はアップデートの実際のインストールが開始する前に復元ポイントを作成します。
- 復元の操作 — 元に戻せるよう復元操作自体も復元ポイントを作成します。
- Microsoftバックアップユーティリティの復元 — Microsoftバックアップユーティリティ（Windows XP Professionalでのみ利用可能）がバックアップの復元をおこなう前に、システムの復元は復元ポイントを作成します。
- 未署名ドライバのインストール — WindowsのINFインストーラは署名のないデバイスドライバのインストールを検出します。 署名のあるドライバ（デバイスの製造元が電子的に認定した）は、復元ポイントを生成しません。

手動復元ポイント

コンピュータ管理者、または管理者権限を持つユーザーとしてコンピュータにログオンする場合、オンデマンドの復元ポイントを作成したり、名前を付けることができます。（ユーザーアカウントのタイプについての情報は、「ユーザーの追加」を参照してください。） これは、特にリスクの大きい変更を加える前、共有システムを別のユーザーに任せる前、または最適だと思われる特定の状態に戻るためのチェックポイントを作成するために役立ちます。

復元ポイントを作成するには、次の手順を実行します。

1. **スタート**をクリックし、**すべてのプログラム → アクセサリ → システムツール**とポイントしてから、**システムの復元**をクリックします。
2. **復元ポイントの作成**を選んで、**次へ**をクリックします。
3. 復元ポイントの説明を入力して、**作成**をクリックします。

   日付と時刻が新しい復元ポイントの説明に自動的に追加されます。

復元処理

コンピュータを使用していくと、管理や介入をしなくても復元ポイントが集められます。オペレーティングシステムに不具合が発生した場合、システムの復元機能を使ってシステムの復元ウィザードが示す復元ポイントのいずれかを選ぶことができます。

デバイスドライバのインストール後に問題が発生した場合、まずドライバのロールバックを使ってみます。それでも問題が解決しない場合、システムの復元を使用します。

コンピュータを以前の安定した状態に戻すには、次の手順を実行します。

1. **スタート**をクリックし、**すべてのプログラム → アクセサリ → システムツール**とポイントしてから、**システムの復元**をクリックします。

2. **コンピュータを以前の状態に復元する**を選んで、**次へ**をクリックします。

   復元ポイントの選択画面が表示されます。左側のカレンダーに、復元ポイントが作成された日付が太文字で示されています。

3. 日付をクリックし、その日付の復元ポイントをクリックして、**次へ**をクリックします。
4. **次へ**をクリックして復元ポイントの選択を確認し、復元処理を完了します。

   システムの復元がデータの収集を完了したら、コンピュータが自動的に再起動し、**復元は完了しました**画面が表示されます。

5. **OK**をクリックします。

   復元の結果に満足がいかない場合、別の復元ポイントを使って前の手順を繰り返したり、復元を元に戻すことができます。

復元を元に戻すには、次の手順を実行します。

1. **スタート**をクリックし、**すべてのプログラム → アクセサリ → システムツール**とポイントしてから、**システムの復元**をクリックします。
2. **以前の復元を取り消す**を選んで、**次へ**をクリックします。
3. **次へ**をクリックして復元を元に戻すことを確認します。

   システムの復元がデータの収集を完了したら、コンピュータが自動的に再起動し、**取り消し完了**画面が表示されます。

4. **OK**をクリックします。

ドライバのロールバック

Windows XPデバイスのドライバのロールバックは、デバイスドライバを以前にインストールされたバージョンと置き換えることができます。新しいデバイスドライバをインストールしたらシステムが不安定になった場合、ドライバのロールバックを使って以前のドライバを再インストールします。ドライバのロールバックが以前のドライバを再インストールできない場合、システムの復元を使って新しいデバイスドライバのインストール前の状態にオペレーティングシステムを戻します。

ドライバのロールバックを使用するには、次の手順を実行します。

1. **スタート**をクリックしてから、**マイコンピュータ**を右クリックします。
2. **プロパティ**をクリックします。
3. **ハードウェア**タブをクリックしてから、**デバイスマネージャ**をクリックします。
4. **デバイスマネージャ**ウィンドウで、新しいドライバをインストールしたデバイスを右クリックしてから、**プロパティ**をクリックします。
5. **ドライバ**タブをクリックしてから、**ドライバのロールバック**をクリックします。

目次ページに戻る

[目次ページに戻る]

作業にあたっての注意

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

身体の安全を守り、システムの損傷を防ぐため、次の安全に関する注意に従ってください。

コンピュータ内部の作業をする場合

コンピュータカバーを開く前に、次の手順を順番どおりに実行してください。

警告：オンラインのDell™マニュアルまたはDell提供の手順書で説明されている場合を除いて、ご自身でコンピュータの保守をおこなわないでください。 必ず手順を厳密に守ってください。

注意： システム基板への損傷を防ぐため、コンピュータの電源を切った後5秒間待ってから、システム基板からコンポーネントを取り外したり、コンピュータからデバイスを取り外してください。

1. オペレーティングシステムのメニューを使って、コンピュータを適切にシャットダウンします。
2. コンピュータと接続されているすべてのデバイスの電源を切ります。
3. コンピュータ背面のカードスロット開口部など、シャーシの塗装されていない金属部分に触れてから、コンピュータ内部の部品を取り扱ってください。

   作業中も、定期的にコンピュータシャーシの塗装されていない金属部分に触れて、内蔵コンポーネントを損傷する恐れのある静電気を逃がしてください。

4. コンピュータ、およびモニタを含むデバイスをコンセントから外します。さらに、電話回線や通信回線のケーブルもコンピュータから取り外します。

   このようにすれば、けがや感電を防ぐことができます。

さらに、該当する場合は、以下の安全に関するガイドラインに従ってください。

- ケーブルを抜く際は、ケーブルそのものをつかむのではなく、コネクタまたはストレインリリーフループをつかんで抜きます。一部のケーブルには、コネクタにロッキングタブが付いています。このタイプのケーブルを抜く際は、ロッキングタブを押してからケーブルを抜きます。コネクタを抜く際は、コネクタのピンを曲げないようにまっすぐに引き抜きます。また、ケーブルを接続する前に、両方のコネクタが正しい向きに揃っていることを確認します。
- 部品やカードは丁寧に取り扱ってください。カード上のコンポーネントまたは接点に触れないでください。カードを持つ際は縁を持つか、金属製の取り付けブラケット部分を持ちます。マイクロプロセッサなどの部品を持つ際は、ピンではなく縁を持ってください。

警告：新しいバッテリは、正しく装着しないと破裂する恐れがあります。 バッテリを交換する場合は、同じバッテリ、または製造元が推奨する同等のバッテリのみを使用してください。 バッテリを一般のゴミといっしょに捨てないでください。 最寄りのごみ処分施設に問い合わせてバッテリ処分場を確認してください。



バッテリの廃棄

このコンピュータにはリチウムコイン型電池が使用されています。バッテリは寿命が長く、交換の必要はほとんどありません。万一取り替えなければならない場合、コンピュータのバッテリを参照してください。

バッテリを一般のゴミといっしょに捨てないでください。最寄りのごみ処分施設に問い合わせて電池処分場を確認してください。

注意： オンラインのDellマニュアルまたはその他のマニュアルで説明されている場合を除いて、ご自身でコンピュータの保守をおこなわないでください。必ず手順を厳密に守ってください。

1. コンピュータとすべての周辺機器の電源を切ります。
2. コンピュータ背面のカードスロット開口部など、シャーシの塗装されていない金属部分に触れてから、コンピュータ内部の部品を取り扱ってください。

   作業中も、定期的にコンピュータシャーシの塗装されていない金属部分に触れて、内蔵コンポーネントを損傷する恐れのある静電気を逃がしてください。

3. コンピュータと周辺機器をコンセントから抜きます。

   コンピュータをコンセントから外した後10～20秒待ってから、コンピュータから周辺機器を取り外してください。システム基板上のスタンバイ電源ライトがオフになっていることを確認してから、システム基板からコンポーネントを取り外してください。このライトの位置は、「システム基板のコンポーネント」を参照してください。

   電話回線や通信回線のケーブルもコンピュータから外します。このようにすれば、けがや感電を防ぐことができます。

さらに、該当する場合は、以下の安全に関するガイドラインに従ってください。

- ケーブルを抜く際は、ケーブルそのものをつかむのではなく、コネクタまたはストレインリリーフループをつかんで抜きます。一部のケーブルには、コネクタにロッキングタブが付いています。このタイプのケーブルを抜く際は、ロッキングタブを押してからケーブルを抜きます。コネクタを抜く際は、コネクタのピンを曲げないようにまっすぐに引き抜きます。また、ケーブルを接続する前に、両方のコネクタが正しい向きに揃っていることを確認します。
- 部品やカードは丁寧に取り扱ってください。カード上のコンポーネントまたは接点に触れないでください。カードを持つ際は縁を持つか、金属製の取り付けブラケット部分を持ちます。マイクロプロセッサなどの部品を持つ際は、ピンではなく縁を持ってください。

また「静電気障害への対処」を参照してください。『システム情報ガイド』の安全上の注意も定期的に確認することをお勧めします。

[目次ページに戻る]

[目次ページに戻る]

セキュリティ

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

シャーシイントルージョンディテクタ

シャーシイントリュージョン監視機能が、コンピュータが開けられたかどうかを検出します。セットアップユーティリティの**Chassis Intrusion**オプションは、監視機能のステータスを表示します。

1. セットアップユーティリティを起動します。
2. 下矢印キーを押して、**System Security**オプションへ移動します。
3. <Enter>を押して、**System Security**オプションのポップアップメニューにアクセスします。
4. 下矢印キーを押して、**Chassis Intrusion**オプションへ移動します。
5. スペースバーを押してオプション設定を選択します。

オプション設定

- **Enabled** — コンピュータカバーが外されると、DMIイベントが生成され、設定が**Detected**に変更されて、次回のシステム起動時に次のメッセージが表示されます。

  `Alert! Cover was previously removed.`(警告! カバーが取り外されました。)

  Detectedの設定をリセットするには、セットアップユーティリティを起動します。**Chassis Intrusion**オプションで、左右矢印キーで**Reset**を選択してから、**Enabled**、**Enabled-Silent**、または**Disabled**を選びます。

- **Enabled-Silent**(デフォルト) — コンピュータカバーが開けられると、DMIイベントが生成され、設定が**Detected**に変更されます。しかし、次回のシステム起動時に警告メッセージは表示されません。
- **Disabled** — イントリュージョン監視はおこなわれず、メッセージも表示されません。

メモ: セットアップパスワードが有効な場合、セットアップパスワードがわからないと**Chassis Intrusion**オプションをリセットできません。

セキュリティケーブルスロットとパドロックリング

このコンピュータは、市販の盗難防止デバイスを取り付ける機能があります。

- パドロックリング — コンピュータ内部への不正なアクセスを防ぐため、標準パドロックをコンピュータシャーシとカバーのリングを通して取り付けます。
- セキュリティケーブルスロット — コンピュータの盗難を防ぐため、固定された物に亜鉛メッキされたセキュリティケーブルを巻き付けて、コンピュータの背面のセキュリティケーブルスロットにロック用デバイスを差し込んでから、付属のキーでデバイスをロックします。

コンピュータのセキュリティ機能の位置は、「コンピュータの背面図」を参照してください。

メモ: 盗難防止デバイスを購入する前に、お使いのコンピュータに対応することを確認してください。

[目次ページに戻る]

目次ページに戻る

システム設定

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

コンピュータの電源を入れるか、リセットボタンを押すたびに、コンピュータはシステム基板上のNVRAMに記憶されているシステム設定情報と実際に取り付けられているハードウェアを比較します。コンピュータが相違を見つけると、誤ったシステム設定に対してエラーメッセージを表示します。

セットアップユーティリティは以下のような場合に使用します。

- ユーザー選択可能項目（たとえば、時刻と日付またはシステムパスワード）を設定、変更する場合
- 現在の設定情報（メモリの容量または取り付けられたハードドライブの種類など）を変更する場合

現在の設定値はいつでも参照できます。後で参照できるように、情報を記録しておくことをお勧めします。コンピュータのパラレルコネクタにプリンタが接続されている場合、<Print Screen>を押すことでセットアップユーティリティ画面を印刷することができます。

セットアップユーティリティの起動

1. コンピュータの電源を入れます。

   コン ピュータの電源が入っている場合、再起動します。

2. `F2 = Setup`が画面の右上角に表示されたら、<F2>を押します。

   セットアップユーティリティのメニューが表示されます。

メモ: `F12=Network Boot`（ネットワーク起動）が `F2= Setup` の下に表示されます。<F12> を押すと、コンピュータはNICから起動するためのリモート起動をサポートするサーバに接続できるようになります。

ここで時間をおきすぎて、オペレーティングシステムがメモリにロードされ始めてしまったら、完全にロードさせてから、コンピュータを再起動し、もう一度やりなおします。

メモ: システムのシャットダウンを正しくおこなうために、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

セットアップユーティリティ画面

セットアップユーティリティ画面には、お使いのコンピュータの現在の設定情報が表示されます。画面の情報は、以下の4つの領域から構成されています。

- **Title** — 画面の上端にあるボックスにはコンピュータのシステム名が表示されます。
- **Computer data** — タイトルボックスの下の2つのボックスには、マイクロプロセッサ、L2キャッシュ、サービスタグナンバー、およびBIOSのバージョン番号が表示されます。
- **Options** — 取り付けられたハードウェア、省電力機能、およびセキュリティ機能を含む、コンピュータの構成を定義するオプションを表示するスクロール可能なボックスです。

  オプションタイトルの右側のフィールドには、設定状態または値が表示されます。画面に明るく表示されている値は変更できます。変更できない（コンピュータによって設定されるため）値は薄く表示されます。`<Enter>`がオプションタイトルの右に表示されたら<Enter>を押して、追加オプションのポップアップメニューにアクセスします。

- **Key functions** — 画面の最下段のボックスには、セットアップユーティリティで使用できるキーとそれらの機能が表示されます。
- **Help** — <F1>を押すと現在ハイライト表示されているオプションの情報を見ることができます。

セットアップナビゲーションキー

キー	キーの動き
	次のフィールドに移動します。
	前のフィールドに移動します。
	フィールド内のオプションを移動します。多くのフィールドで、数値キーを使用して値を入力することもできます。フィールドのポップアップオプションメニューにアクセスするには、<Enter>を押します。

Page Down または Page Up	ヘルプ情報をスクロール表示します。
Enter	選択したフィールドのポップアップオプションメニューにアクセスします。
スペースバーまたは − または + =	選択したフィールドのポップアップオプションメニューでフィールド内のオプションを移動します。
Alt X	コンピュータを再起動せずにセットアップユーティリティを終了し、起動ルーチンに戻ります。
Alt B	セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動し、変更した設定を有効にします。
Alt D	選択したオプションをデフォルト値にリセットします。

メモ: ほとんどのオプションでは、変更した設定がすべて記録されますが、次にコンピュータの電源を入れるまでは有効ではありません。項目によっては（ヘルプ領域に記載）、変更がすぐに有効になるものもあります。

システム起動時の起動順序の変更

この機能は、起動順序を1回だけ変更します。次回の起動時には、コンピュータはセットアップユーティリティで指定したデバイスへ起動します。これは起動デバイスを急いで変更する必要がある場合に便利です。たとえば、Dell診断プログラムを実行するためにCDドライブから起動するように設定できますが、診断テストが完了するとコンピュータはハードドライブから起動します。

1. システムの電源を入れます。

   コン ピュータの電源が入っている場合、再起動します。

2. `F2 = Setup`が画面の右上角に表示されたら、<Ctrl><Alt><F8>を押します。

   Boot Device Menu が表示されます。

オプション設定

- **Normal** — コンピュータはセットアップユーティリティで指定したデバイスの順番で起動を試みます。
- **Diskette Drive** — コンピュータはフロッピードライブからの起動を試みます。ドライブに入っているディスクが起動用でないことをコンピュータが検出すると、エラーメッセージが表示されます。ドライブにディスクがない場合、エラーメッセージが表示されます。
- **Hard Drive** — コンピュータはプライマリハードドライブからの起動を試みます。コンピュータがドライブでOSを検出できない場合、エラーメッセージが表示されます。
- **IDE CD Drive** — コンピュータはIDE CDドライブからの起動を試みます。ドライブ内のCDをコンピュータが検出しない、またはCDにOSが入っていない場合、エラーメッセージが表示されます。

セットアップユーティリティのBoot Sequence（起動順序）の変更

1. 画面の右上角に`F2 = Setup`が表示されたら<F2>を押してセットアップユーティリティを起動します。
2. 矢印キーを使って**Boot Sequence**メニューオプションをハイライト表示し、<Enter>を押して**Boot Sequence**オプションのポップアップメニューにアクセスします。

メモ: 後で元に戻すこともできるよう、現在の起動順序を書きとめます。

3. デバイスのリスト内を移動するには、上下矢印キーを押します。
4. デバイスを有効または無効にするにはスペースバーを押します（有効にしたデバイスにはチェックマークが付きます）。
5. 選択したデバイスをリストの上または下に移動するには、プラス（+）またはマイナス（-）を押します。

オプション設定

- **Diskette Drive A:** — コンピュータはフロッピードライブからの起動を試みます。ドライブに入っているディスクが起動用でない場合、エラーメッセージが表示されます。ドライブにディスクが入っていない場合、システムは一覧にあるその次のデバイスからの起動を試みます。
- **Hard Drive** — コンピュータはプライマリハードドライブからの起動を試みます。ドライブにオペレーティングシステムが見つからない場合、システムは一覧にあるその次のデバイスからの起動を試みます。
- **CD Drive** — システムはCDドライブからの起動を試みます。ドライブにCDが入っていない、またはCDにオペレーティングシステムがない場合、システムは一覧にあるその次のデバイスからの起動を試みます。
- **MBA** — 起動時にDellのロゴ画面で<Ctrl><Alt><b>を押すように促されます。メニューが表示され、ネットワークサーバからの起動方法を選ぶことができます。起動ルーチンがネットワークから使用不可能な場合、システムは一覧にあるその次のデバイスからの起動を試みます。

ネットワーク操作

適切なネットワーク操作については、セットアップユーティリティにあるいくつかのオプションを正しく設定しなければなりません。

- Network Interface Controller
- Boot Sequence
- Remote Wake Up

さまざまなオプション設定の関係についての情報は、「ネットワーク設定」を参照してください。

Network Interface Controller

Integrated Devices (LegacySelect)メニューにあるこのオプションは、内蔵ネットワークアダプタを有効または無効にします。このフィールドは、MBAサポートを有効にすることもできます。

オプション設定

- **On** — 内蔵ネットワークアダプタが有効です。
- **On w/ MBA** — 内蔵ネットワークアダプタがMBAサポートといっしょに有効です。
- **Off** — 内蔵ネットワークアダプタが無効です。

メモ:Network Interface Controllerオプション設定への変更が有効になる前に、コンピュータを再起動する必要があります。

Boot Sequence（起動順序）

Boot Sequence — MBAオプションの設定によって、ネットワークサーバから起動する方法を指定できます。

Remote Wake Up（リモートウェイクアップ）

Remote Wake Upによって、コンピュータを低電力スリープ状態からリモートで復帰させたり、電源はオフになっているが電源に接続されているコンピュータを起動したりすることができます。

オプション設定

- **On** — ネットワークアダプタ（WOL）またはモデム（WOR）が適切な信号を受信すると、コンピュータが起動します。
- **On w/ Boot to NIC** — ネットワークアダプタまたはモデムが適切な信号を受信すると、コンピュータはネットワークサーバからの起動を試みます。起動ルーチンがネットワークサーバから使用できないと、コンピュータは **Boot Sequence**内のデバイスから起動を試みます。
- **Off** — コンピュータはリモートで起動しません。

ネットワーク設定

ネットワーク操作用のセットアップユーティリティオプションは、特定の機能といっしょに動作します。次の表は、さまざまなオプション設定の関係について説明します。

Network Interface Controller	Boot Sequence	Remote Wake Up	機能
Off	MBAは利用できません。	利用不可	• コンピュータは **Boot Sequence**で指定したデバイスからの起動を試みます。 • コンピュータはリモートで起動できません。
On	MBAは利用できません。	利用可能	• コンピュータは**Boot Sequence**で指定したデバイスからの起動を試みます。 • WOLやWORに設定すると、コンピュータはリモートで起動できます。
On w/ MBA	MBAは最初の起動デバイスとして設定されています。	利用可能	• コンピュータは起動時に<Ctrl><Alt><b>を押すように指示します。これでネットワーク起動方法を選択することが可能になります。 • WOLおよび／またはWORに設定すると、コンピュータはリモートで起動できます。

内蔵デバイス

お使いのコンピュータには、様々な内蔵デバイスがあります。OSへのアクセスが可能なこれらのデバイスに対して、セットアップユーティリティの対応するオプションを正しく設定する必要があります。

内蔵デバイスを有効または無効にするには、セットアップユーティリティを起動し、**Integrated Devices (LegacySelect)**を選択し、適切なデバイスの設定を**On**または**Off**に変更します。

- Sound
- NIC
- PS/2 Mouse
- USB Emulation
- USB Controller
- Serial Port 1
- Serial Port 2
- Parallel Port
- IDE
- Diskette
- Speaker
- Video
- Video DAC Snoop

目次ページに戻る

目次ページに戻る

ソフトウェアのインストールと設定

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

Dellから提供されているソフトウェアリソース（ドライバ、ユーティリティ、マニュアル、およびオペレーティングシステムのバックアップを含む）の一覧は「情報およびサポートの検索」を参照してください。お使いのDellコンピュータに付属していないソフトウェアをインストールする前に、ウイルス検出ソフトウェアでウイルスの有無を調べてください。ウイルスは使用可能なシステムメモリをすぐに使用し、ハードドライブに保存されているデータを損傷または破壊し、感染したプログラムのパフォーマンスに影響を与え続けます。数種類のウイルス検出プログラムが市販されており、多くのウェブサイトがダウンロードできるウイルス検出プログラムを提供しています。

プログラムをインストールする前にマニュアルを読んで、プログラムの機能、プログラムが必要とするハードウェアおよびプログラムのデフォルトを把握してください。プログラムには通常、インストールの方法が説明されているマニュアルと、インストールルーチンの入ったプログラムディスケットまたはCDが付属しています。

ソフトウェアインストールルーチンを使用すると、該当するプログラムファイルをご自分のハードドライブに転送することができます。インストールの説明書は、プログラムをうまく実行できるようにオペレーティングシステムを設定する方法について詳しく説明している場合があります。必ずインストールの説明書を読んでから、プログラムのインストール作業を実行してください。

インストールルーチンを実行する場合は、コンピュータのオペレーティングシステムがどのように設定されているか、どのようなコンピュータを使用しているか、またどのような周辺機器がコンピュータに接続されているかという問いに答えられるようにしておいてください。

メモ: ソフトウェアをインストールまたは操作している際に、問題が発生した場合は、「ソフトウェアの問題」を参照してください。

目次ページに戻る

[目次ページに戻る]

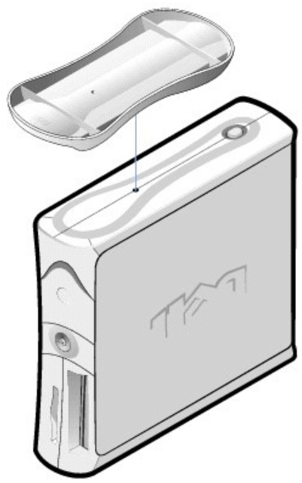
コンピュータスタンド

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

コンピュータスタンドの取り外し

1. スタンドが上にくるようにコンピュータを立てます。
2. つまみネジを緩め、スタンドを持ち上げて外します。
3. コンピュータを水平に置きます。

スモールデスクトップコンピュータ



コンピュータスタンドの取り付け

1. ドライブベイが下にくるように、右側を下にしてコンピュータを置きます。
2. スタンドをコンピュータの左側に装着します。
   a. スタンドの大きな丸い穴をカバー側面の固定ボタンに合わせ、次にスタンドの固定ネジをカバーのネジ穴に合わせます。
   b. スタンドが所定の位置に収まったら、つまみネジを締めます。
3. スタンドが下に、ドライブが上にくるようにコンピュータを立てます。

[目次ページに戻る]

[目次ページに戻る]

ソフトウェアの問題

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

本項では、ソフトウェアの問題を解析するための一般的なガイドラインを示します。Dellから提供されているソフトウェアリソース（ドライバ、ユーティリティ、マニュアル、およびオペレーティングシステムのバックアップを含む）の一覧は「情報およびサポートの検索」を参照してください。特定のアプリケーションのトラブルシューティングの詳細については、ソフトウェアに付属のマニュアルを参照するか、ソフトウェアベンダのサポートサービスにお問い合わせ下さい。

コンピュータの動作が不安定であれば、ただちにファイルのバックアップをとってください。コンピュータにテープドライブが取り付けられている場合、バックアップ操作の実行手順についてはテープバックアップソフトウェアに付属のマニュアルを参照してください。それ以外は、データファイルのバックアップに関する情報についてオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

基本チェック:

- アプリケーションプログラムがお使いのコンピュータにインストールされているオペレーティングシステムに対応していることと、コンピュータがソフトウェアを実行するのに必要な最小要件を満たしていることを確認します。詳細については、「オペレーティングシステムの互換性」を参照してください。
- アプリケーションプログラムが、適切にインストールされ、正しく設定されているか確認します。必要に応じて、プログラムを再インストールします。

  特定のアプリケーションプログラムのトラブルシューティングについての詳細は、ソフトウェアのマニュアルをお読みになるか、ソフトウェアの製造元にお問い合わせください。

- データを入力する際に間違わなかったことを確認します。
- ウイルスが原因で問題が起こっていないか確認します — ウイルス検出ソフトを使ってソフトウェアインストール用ディスクやCDを使用前にチェックします。
- ソフトウェアインストール用ディスクやCDをウイルス検出ソフトでチェックした後、ソフトウェアをインストールする前にウイルス検出ソフトを無効にする必要があります。バックグラウンドで動作しているその他のアプリケーションプログラムも無効にする必要があります。
- プログラムのデバイスドライバが、アプリケーションプログラムとコンフリクトしていないか確認します。詳細については、「デバイスドライバ」を参照してください。
- Dell 診断プログラムを実行して、問題がソフトウェアに関係したものであることを確認します。すべてのテストが正常に終了したら、不具合はソフトウェアの問題に関係している可能性があります。
- TSRプログラムがメモリ競合を起こしていないことを確認します。
- コンピュータを再起動して、プログラムのコンフリクトの可能性を解決するか、あるいは確認します。
- デバイス間でハードウェアのコンフリクトがないか確認します。

オペレーティングシステムの互換性

コンピュータの動作環境がお使いのアプリケーションプログラムに適応するよう設定されていることを確認します。動作環境のパラメータを変更すると、アプリケーションプログラムの正常な動作に影響を与える可能性があります。場合によっては、操作環境を変更した後に、正しく実行しなくなったプログラムを再インストールしなければなりません。

入力エラー

不適切な時に特定のキーまたはキーの組み合わせを押すと、プログラムは予想外の結果を引き起こす場合があります。アプリケーションプログラムに付属のマニュアルを参照して、入力する値または文字が有効であるかどうかを確認してください。

エラーメッセージ

エラーメッセージは、オペレーティングシステム、アプリケーションプログラム、またはコンピュータから発生します。"「メッセージとコード」では、オペレーティングシステムが発生させるエラーメッセージについて説明しています。「メッセージとコード」に示されていないエラーメッセージが発生した場合、アプリケーションプログラムのマニュアルを調べてください。

デバイスドライバ

デバイスドライバと呼ばれる特別なサブルーチンを使用するプログラムも、コンピュータの問題を引き起こす可能性があります。例えば、データがモニタに送られる方法が変化し、特定のビデオモードまたはモニタに対応した特別なスクリーンドライバプログラムが必要になる場合があります。そのような場合、そのプログラムを実行する別の方法を考える（たとえば、特にそのプログラムのために作成された起動ファイルを作成する）必要があるかもしれません。この問題の解決方法については、お使いのソフトウェアのサポートサービスにお問い合わせください。

メモリ常駐型プログラム

多くのユーティリティや補足プログラムが、コンピュータの起動時、またはオペレーティングシステムのプロンプトからロードされます。これらのプログラムはコンピュータメモリに常駐し、いつでも使えるようになっています。TSRプログラムはコンピュータのメモリに残っているので、これらのTSRプログラムがすでに使っているメモリの全部または一部を他のプログラムが使おうとするとメモリのコンフリクトと

エラーが発生します。

通常、オペレーティングシステムの起動ファイルまたはフォルダに、コンピュータの電源を入れたときにTSRプログラムを開始するコマンドが含まれています。TSRプログラムがメモリの競合を起こしていると考えられる場合、スタートアップファイルからプログラムを開始するコマンドを削除します。問題が再発生しない場合、TSRプログラムの１つがコンフリクトを起こしていたと思われます。一回にTSRコマンドを1つずつスタートアップファイルに追加して、コンフリクトを起こしていたTSRプログラムを見つけます。

プログラムコンフリクト

プログラムの中には、たとえ終了してもセットアップ情報の一部を残すものがあります。その結果、他のプログラムが実行できなくなります。コンピュータを再起動すると、これらのプログラムが問題の原因であるかどうかを確認できます。

メモリアドレスコンフリクト

メモリアドレスコンフリクトは、複数のデバイスがアッパーメモリブロックの同じアドレスにアクセスしようとしたときに発生します。例えば、ネットワーク拡張カードと拡張メモリページフレームがアドレスの重なったブロックに割り当てられている場合、メモリアドレスコンフリクトが発生します。その結果、ネットワークにログインしようとしても、操作がおこなえません。

このようなコンフリクトを解決するには、どちらかのデバイスのアドレスを変更します。たとえば、ネットワーク拡張カードと拡張メモリページフレームアドレスのコンフリクトが発生した場合、CC000h～D0000hの範囲内のアドレスブロックにネットワークカードを移動することができます。拡張カードのアドレスブロックを割り当てなおす場合、そのカードのマニュアルを参照してください。

割り込み割り当てコンフリクト

2つのデバイスが同じIRQラインを使用しようとすると、問題が起きることがあります。このようなコンフリクトを避けるために、インストールされた各拡張カードのデフォルトIRQ設定についてのマニュアルを参照してください。次の表を参照して使用可能なIRQにカードを設定してください。

メモ： 次の表では、デフォルトのIRQ設定を一覧表示します。コンピュータにプラグアンドプレイ機能があれば、デフォルトを変更できます。プラグアンドプレイコンピュータにプラグアンドプレイカードを取り付けた場合、コンピュータは利用できる使っていないIRQを自動的に選択します。

IRQ	**使用中／使用可能**
IRQ0	コンピュータタイマで使用
IRQ1	出力バッファがいっぱいであることを知らせるためにキーボードで使用
IRQ2	IRQ8～IRQ15を有効にするために割り込みコントローラ1で使用
IRQ3	シリアルコネクタ2で使用
IRQ4	シリアルコネクタ1で使用
IRQ5	使用可能
IRQ6	ディスク／テープドライブコントローラで使用
IRQ7	パラレルコネクタで使用
IRQ8	RTC（リアルタイムクロック）で使用
IRQ9	使用可能
IRQ10	使用可能
IRQ11	使用可能
IRQ12	マウスコネクタで使用
IRQ13	数値演算コプロセッサで使用（適用可能な場合）
IRQ14	プライマリ／セカンドIDEコントローラで使用（有効であれば）
IRQ15	プライマリ／セカンドIDEコントローラで使用（有効であれば）

目次ページに戻る

Dellシステムユーティリティ

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

OSがプリインストールされたコンピュータをDellからご購入された場合、システムユーティリティもインストールされています。OSを再インストールする場合、システムユーティリティもコンピュータに再インストールする必要があります。ユーティリティは、Dellの『ResourceCD』に収録されています。詳細については、「情報およびサポートの検索」を参照してください。

AutoShutdown(オートシャットダウン)

Dell AutoShutdownユーティリティは、OSを問題なく終了した後、適切なシステムシャットダウンを実行し、コンピュータの電源をオフにします。これらすべては、電源ボタンを1回押すだけで実行されます。さらに、AutoShutdownはいくつかのアプリケーションプログラム(Microsoft WordやExcelなど)といっしょに機能し、コンピュータの電源を切る前にファイルを保存するよう促します。

注意: AutoShutdownユーティリティはWindows NT®でのみ使用してください。このユーティリティの機能は、Windows® 2000およびWindows XPに組み込まれています。

Windows NTにこのユーティリティがインストールされ実行されていることを確認するには、**コントロールパネル**を開き、**サービス**をダブルクリックします。AutoShutdownサービスがインストールされ実行されている場合、状態が**開始**になって表示されています。

Asset Tag(管理タグ)

Dell Asset Tagユーティリティは、システム管理タグおよびシステム所有者タグを表示および設定するためのMS-DOS®プログラムです。

Auto Power On(オートパワーオン)

Dell Auto Power Onユーティリティは、システムがどのようにオンになったか(電源ボタンによってまたはセットアップユーティリティの**Auto Power On**オプションよって)判断するために、またはDOSからシステムをオフにするために、バッチファイル内で使用されるMS-DOSプログラムです。

注意: Auto Power OnユーティリティはMS-DOSでのみ使用してください。Windows NTの**autopwr.com**ユーティリティを使用してコンピュータをオフにすると、データが失われる恐れがあります。

目次ページに戻る

TAPI

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

- TAPIデバイスの取り付け
- TAPIサウンドカードの取り付け

TAPIシステム基板コネクタは、4ピンケーブルを使って内蔵TAPI互換拡張カードとコンピュータのオーディオシステムを接続します。TAPIシステム基板コネクタの位置は、「システム基板のコンポーネント」を参照してください。お使いのコンピュータは、標準TAPI コネクタ(TELEとラベルされた)を使ってTAPI互換カードをサポートしています。たとえば、モデムをTAPIコネクタに接続して、オーディオスピーカーとマイクをスピーカーフォンとして使用できます。マイクが音声をコンピュータに取り入れ、次にTAPIシステム基板コネクタを通ってモデムカードに送られます。相手側の音声はモデムカードを通ってTAPIシステム基板コネクタに入り、次にスピーカーから出力されます。この構成を使って、電話でのサウンドファイルの録音と再生が可能です。

メモ: TAPIデバイスの詳細、およびお使いのコンピュータでのカードの動作を確認するには、TAPI対応拡張カードに付属のマニュアルを参照してください。

TAPIデバイスの取り付け

警告:この手順を実行する前に、「作業にあたっての注意」を参照してください。

注意:コンピュータをコンセントから外した後10～20秒待ってから、コンピュータからデバイスを取り外してください。システム基板上のスタンバイ電源ライトがオフになっていることを確認してから、システム基板からコンポーネントを取り外してください。このライトの位置を確認するには、「システム基板のコンポーネント」のイラストを参照してください。

1. コンピュータとデバイスの電源をオフにし、それらをコンセントから抜いて10～20秒待ちます。
2. コンピュータカバーを開きます。
3. TAPI互換拡張カードを取り付けます。

   詳細については、製造元のマニュアルを参照してください。

4. 4ピンのTAPIケーブルをTAPIシステム基板コネクタに接続します。

   システム基板のTAPIコネクタの位置を確認するには、「システム基板のコンポーネント」のイラストを参照してください。

5. 4ピンのTAPIケーブルをTAPI拡張カードコネクタに接続します。

   拡張カードのTAPIコネクタの位置は、製造元のマニュアルを参照してください。

6. コンピュータカバーを閉じます。
7. コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。

メモ: **Chassis Intrusion**オプションが有効な場合、次のコンピュータ起動時に以下のメッセージが表示されます。

`Alert! Cover was previously removed.`(警告!カバーが取り外されました。)

8. TAPIデバイスに適切なTAPIサービスプロバイダをインストールします。

   詳細については、製造元のマニュアルとWindowsのマニュアルを参照してください。

TAPIサウンドカードの取り付け

標準TAPIコネクタのあるTAPI対応サウンドカードを取り付けることができます。たとえば、モデムをTAPIサウンドカードコネクタに接続して、オーディオ機能をスピーカーフォンとして使用できます。

警告:この手順を実行する前に、「作業にあたっての注意」を参照してください。

注意:コンピュータをコンセントから外した後10～20秒待ってから、コンピュータからデバイスを取り外してください。システム基板上のスタンバイ電源ライトがオフになっていることを確認してから、システム基板からコンポーネントを取り外してください。このライトの位置を確認するには、「システム基板のコンポーネント」のイラストを参照してください。

1. コンピュータとデバイスの電源をオフにし、それらをコンセントから抜いて10～20秒待ちます。
2. コンピュータカバーを開きます。
3. TAPI対応拡張カードを取り付けます。

   詳細については、製造元のマニュアルを参照してください。

4. セットアップユーティリティを起動し、**Integrated Devices**をクリックしてから、**Sound**の設定を**Off**に変更します。
5. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、システムの背面パネルのマイクコネクタ、スピーカー／ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタに接続しないでください(「背面パネルのコネクタ」を参照)。
6. 4ピンのTAPIケーブルをTAPIサウンドカードコネクタに接続します。

   サウンドカードのTAPIコネクタの位置は、製造元のマニュアルを参照してください。

7. 4ピンのTAPIケーブルをTAPI拡張カードコネクタに接続します。

   拡張カードのTAPIコネクタの位置は、製造元のマニュアルを参照してください。

8. コンピュータカバーを閉じます。
9. コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。

メモ: Chassis Intrusionオプションが有効な場合、次のコンピュータ起動時に以下のメッセージが表示されます。

`Alert! Cover was previously removed.`（警告！カバーが取り外されました。）

10. TAPIデバイスに適切なTAPI サービスプロバイダをインストールします。

詳細については、製造元のマニュアルとWindowsのマニュアルを参照してください。

目次ページに戻る

目次ページに戻る

新しいユーザーインタフェース

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

- クラシック表示への切り替え
- デスクトップクリーンアップウィザード
- タスクバーのグループ化
- 通知領域のクリーンアップ

Windows XPでは、ユーザーインタフェースは新しいスタイルになり、すっきりしたデスクトップと組み込みのデスクトップクリーンアップ機能が提供されています。Windows XPではコントロールパネルなどでウィンドウレイアウトも変更され、タスクがわかりやすくなっています。**スタート**メニューも新しくなりました。新しい**スタート**メニューの左側には、よく使われるアイコンが含まれています。コンピュータを使っていくと、この領域のアイコンが変わり、ご使用パターンに基づいて配置されます。アイコンの1つを常に所定の位置に置きたい場合、そのアイコンを右クリックして、**[スタート]メニューにアイコンを追加**をクリックします。

コンピュータにインストールされたすべてのプログラムにアクセスするには、**スタート**メニューにある**すべてのプログラム**をクリックします。新しい**スタート**メニューの右側には、ファイルへのアクセス、コンピュータの設定、および情報の検索に便利なアイコンが含まれています。**Dellソリューションセンター**アイコンは、お使いのDellコンピュータにインストールされたサービスやアプリケーションプログラムへの入り口です。

クラシック表示への切り替え

スタートメニュー、デスクトップ、およびウィンドウの外観、または**コントロールパネル**のレイアウトを以前のWindowsオペレーティングシステムと同じに変更することができます。これらのクラシック表示オプションはお互いに独立しています。

コントロールパネルウィンドウの左上の部分で**クラシック表示に切り替える**または**カテゴリの表示に切り替える**をクリックして、新しい**コントロールパネル**のカテゴリの表示とクラシックアイコンの表示を簡単に切り替えることができます。新しい表示は、Windows XPコントロールパネルの新しいタスク重視機能を十分に利用するのに便利ですが、タスクによっては、今までのアイコンを使ってコントロールパネルで実行する方が慣れていてよいかもしれません。

スタートメニューを以前と同じように表示するには、次の手順を実行します。

1. タスクバーの空の部分を右クリックします。
2. **プロパティ**をクリックします。
3. **[スタート]メニュー**タブをクリックします。
4. **クラシック[スタート]メニュー**を選んで**OK**をクリックします。

ウィンドウとボタンを以前と同じように表示するには、次の手順を実行します。

1. メインデスクトップ画面上で右クリックし、**プロパティ**をクリックします。
2. **デザイン**タブをクリックします。
3. **ウィンドウとボタン**ドロップダウンボックスから、**Windowsクラシックスタイル**を選びます。
4. 色、フォント、および他のデスクトップオプションをカスタマイズするには、**詳細設定**をクリックします。
5. 外観の選択が終了したら、**OK**をクリックします。

デスクトップクリーンアップウィザード

Windows XPの他の特徴として、デスクトップクリーンアップウィザードがあります。このウィザードは、コンピュータを最初に起動してから7日後に実行され、その後は60日おきに実行されます。デスクトップクリーンアップウィザードは最初にダイアログボックスを開いて、デスクトップに使用されていないアイコンがあることを知らせ、ウィザードを実行するかどうか聞いてきます。ウィザードを実行するよう選んだ場合、未使用のアイコンが**C:\Desktop Icons**フォルダに入れられます。

デフォルトでデスクトップクリーンアップウィザードはオンになっています。ウィザードをオフにするには、次の手順を実行します。

1. メインデスクトップ画面上で右クリックし、**プロパティ**をクリックします。
2. **デスクトップ**タブを選び、**デスクトップのカスタマイズ**をクリックします。
3. **デスクトップのクリーンアップ**オプションで、**60日ごとにデスクトップクリーンアップウィザードを実行する**ボックスにチェックマークが付いていないことを確認します。

次の手順を実行して、いつでもデスクトップクリーンアップウィザードを実行することができます。

1. メインデスクトップ画面上で右クリックし、**プロパティ**を選びます。
2. **デスクトップ**タブをクリックし、**デスクトップのカスタマイズ**をクリックします。
3. **デスクトップをクリーンアップする**をクリックします。
4. **デスクトップクリーンアップウィザード**のようこそ画面が表示されたら、**次へ**をクリックします。
5. **ショートカット**の一覧で、デスクトップに残しておくショートカットの選択を解除してから、**次へ**をクリックします。
6. **完了**をクリックしてショートカットを削除し、ウィザードを閉じます。

   ショートカットは、**C:\Desktop Icons**フォルダに移動します。

Windows XPが削除したデスクトップアイコンにアクセスするには、**スタート**をクリックしてから、**Dellソリューションセンター**をクリックします。

タスクバーのグループ化

Windowsタスクバーは通常は画面の下部に位置し、ボタンが一列に並んでいます。タスクバーには、**スタート**メニューボタンや各アプリケーションを開くボタンがあります。（タスクバーにはクイック起動アイコンと通知領域もあります。）Windows XPは、タスクバーの同じアプリケーションの複数のインスタンスをグループ化します。たとえば、Internet Explorerのインスタンスが6つ開いていて、それぞれがタスクバーにボタンを表示している場合、Windows XPは、タスクバーのボタンをグループにします。タスクバーのスペースが無くなってきたら、Windows XPはすべてのInternet Explorerボタンを1つのボタンにまとめます。ボタンをクリックすると、Internet Explorerの6つのアクティブなセッションのメニューに広がります。

通知領域のクリーンアップ

コンピュータを使っていると、Windowsデスクトップの右下角の通知領域にソフトウェアのアイコンが増えてきます。Windows XPは、通知領域にあるアクセスされていないアイコンを検出し非表示にします。キャレット（^）ボタンは、そのボタンを選ぶと表示できる非表示のアイコンがあることを示しています。タスクバーを右クリックし、**プロパティ**を選び、**タスクバーと[スタート]メニューのプロパティ**ウィンドウで**カスタマイズ**をクリックして、手動で通知領域を設定することもできます。たとえば、アクセス回数が少ないウイルス検出ソフトアイコンを選んで非表示にし、よく使用するオーディオの音量アイコンを表示することができます。通知領域のクリーンアップ機能は、オペレーティングシステムのインストール時に自動的に有効になっていますが、**タスクバーと[スタート]メニューのプロパティ**ウィンドウの**アクティブでないインジケータを隠す**のチェックマークを外すと無効になります。

目次ページに戻る

保証に関する情報

Dell Precision™ Workstation 340 ユーザーズガイド

Dellは、新品または業界標準に照らし合わせて新品相当とみなされる部品を使用してそのハードウェア製品を製造しています。保証に関しては、コンピュータに付属の『サービス&サポートのご案内』を参照してください。
